

新型コロナ流行前後で実施した インフラに関する国民の意識調査の結果（速報）について

令和3年7月28日

一般財団法人 国土技術研究センター

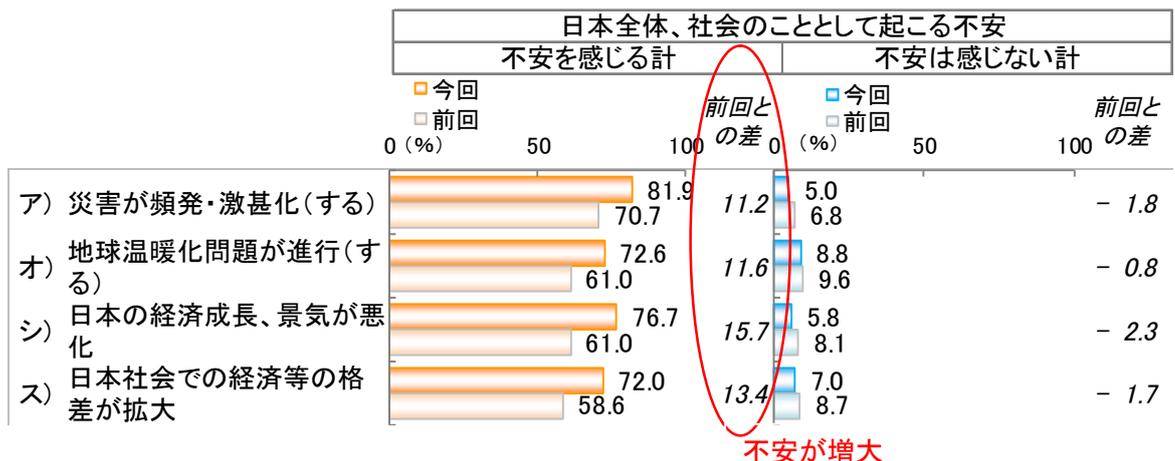
近年、気候変動の影響等による災害の激甚化・頻発化や新型コロナウイルス感染症の流行などの様々な社会情勢の変化が生じています。

（一財）国土技術研究センターは、これらの社会情勢の変化によるインフラに関する国民意識の変化等を把握するため、土木学会と連携し、インフラに関するインターネットアンケート調査を実施し、今回、結果（速報）を公表します。（アンケートは2017年と2021年に実施）

1. 調査結果の要点

① 全体的に高まる社会・生活への不安

社会・生活に関する不安度については、前回調査（2017）と比較し、全般的に不安は高まっている（22項目中21項目）。特に「日本の経済成長・景気が悪化」などの活力・交流に関する設問や「災害が頻発・激甚化」などの安全・安心に関する設問について、不安度の高まりが大きい。【別紙1P2参照】



② 十分に認知されていない社会資本を取り巻く環境

インフラの維持管理等の重要度増大に関する認知度は5割程度、諸外国におけるインフラ投資の増大に関する認知度は3割程度であり、前回調査（2017）と大きな変化はない。インフラを取り巻く環境はいまだ十分認知されているとは言えない。【別紙1P3参照】

③ 求められる社会資本のあるべき姿の具体像

①で述べた通り、社会・生活への不安は高まり、社会資本に関する全体的な充足度評価も悪化している。また、将来について悲観的な者も増加している。一方で、分野毎のインフラの充足度評価は少なくない分野(21分野中19分野)で向上している。国民の中にインフラに関するあるべき姿の具体像がなく、何が不満なのかイメージできていない可能性がある。社会資本のあるべき姿の具体像の提示が必要。特に将来に悲観的な者へのアピールが重要。【別紙1P5参照】

Q 日本の社会資本が全体としてどの程度充足していると考えますか



充足度評価が悪化

Q 将来の日本が最もなりそうであると予測される姿はどれですか



悲観的な意見が増加

2. 調査の概要

(1) 調査対象者 : 全国18歳～79歳男女

(2) サンプル数 : 3,000人

(3) 調査期間 : 2021年4月27日(火)～5月6日(木)

※ 前回調査は2017.4.29～5.10に実施、(1)(2)(4)については今回と同様

(4) 調査方法 : 登録モニターによるインターネット調査

(5) その他

- ・ 調査の結果は、土木学会で今後行われる「コロナ後の”土木”のビッグピクチャー」に関する検討でも活用される予定。
- ・ 結果詳細は別紙2参照(JICEのHPにも掲載(https://www.jice.or.jp/labs/infra_internet_survey_2021))。
- ・ 研究者等が新たに分析等を実施できる形で調査結果の原データを公表予定。
- ・ 前回結果はJICEのHP(https://www.jice.or.jp/labs/infra_internet_survey_2017)に掲載中

【お問い合わせ先】JICE 情報・企画部担当 沼尻、石川 TEL:03-4519-5006 FAX:03-4519-5016

社会資本に関するインターネット調査 2021 の概要

1. 調査概要

<目的>

- 近年の社会情勢の変化を踏まえ、国民の社会資本に対する認識、理解、評価の実態とその理由を明らかにするため実施。
- 2017 年度に実施した同じ主旨のアンケート調査と比較し、近年の社会情勢の変化によるインフラに関する国民意識の変化を把握。
- 社会資本の保全・整備を進めるにあたっての論点・留意点を明確にし、社会資本に関する認知・関心を高め、健全な議論の契機となることを期待。

<方法>

- 調査方法：登録モニターによるネット調査
- 調査対象
 - ・ サンプル数は 3,000 人（18 歳以上の男女）
 - ・ 各都道府県の人口比を踏まえたサンプル割り付け
 - ・ 性、年齢はブロック内で均等割り付け
- 調査時期 2021 年 4 月 29 日～5 月 6 日
 - ※ 前回調査は 2017.4.29～5.10 に実施、調査方法、調査対象は今回と同様

2. 設問項目

- 社会・生活に関する意識・価値観等について
- 社会資本の現状の充足度評価や今後の整備保全のあり方について
- 日本の将来のあるべき姿などについて など

3. 実施体制

設問・分析等に関する助言を頂くため、以下メンバーによる有識者委員会を設置しています。（○：委員長）

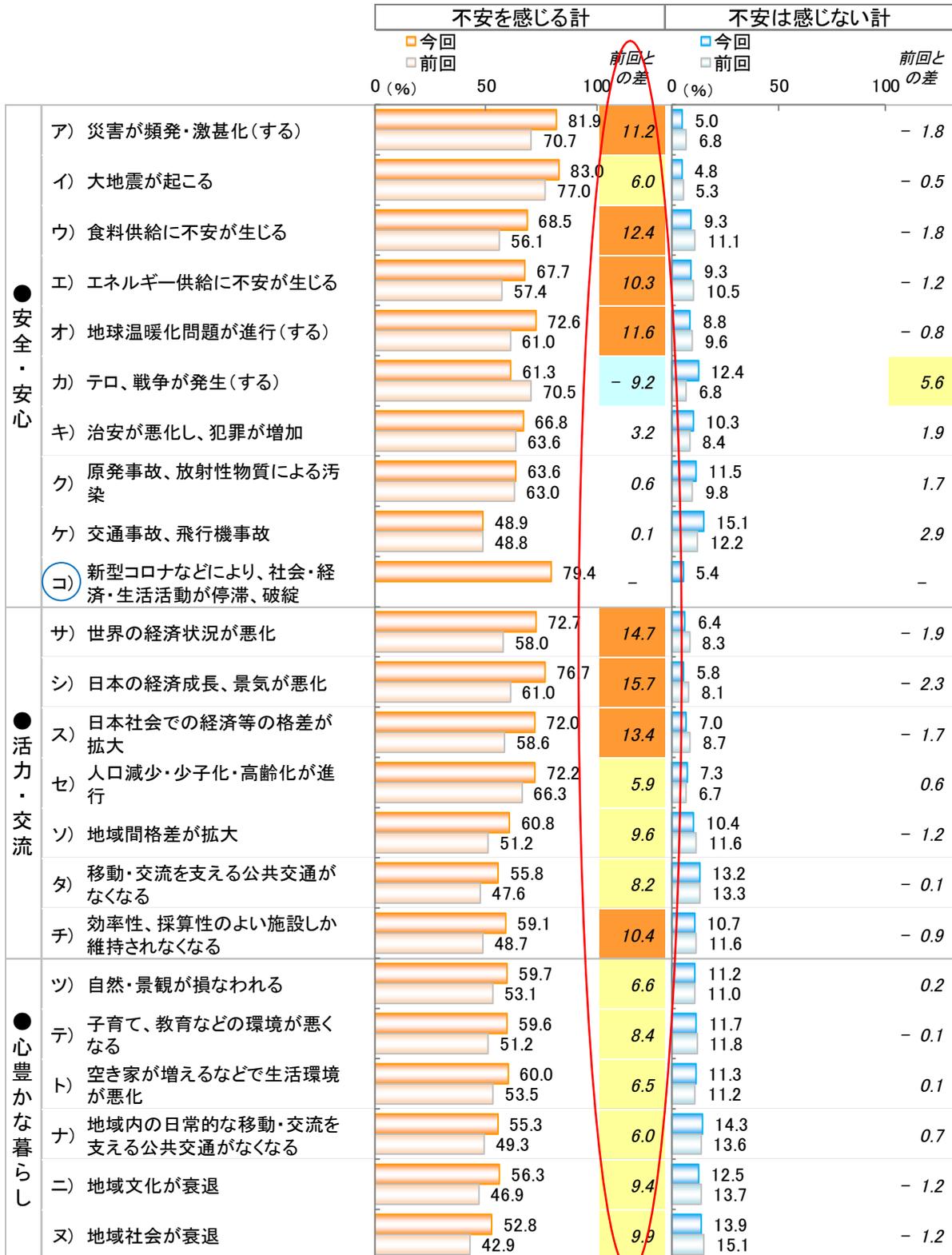
- | | | | |
|---------|-------------------|---------------------|------------|
| ○ 石田 東生 | 一般財団法人 国土技術研究センター | 国土政策研究所 | 所長 |
| 大原 美保 | 国立研究開発法人 土木研究所 | 水災害・リスクマネジメント国際センター | 主任研究員 |
| 川崎 茂信 | 一般財団法人 国土技術研究センター | | 理事 |
| 神田 佑亮 | 呉工業高等専門学校 | 環境都市工学分野 | 教授 |
| 谷口 博昭 | 公益社団法人 土木学会 | | 会長 |
| 塚田 幸広 | 公益社団法人 土木学会 | | 専務理事 |
| 松永 康男 | 一般財団法人 みなと総合研究財団 | | 専務理事 |
| 湧川 勝己 | 東京建設コンサルタント | 東京本社 | 河川計画本部 本部長 |

4. 結果（速報）の概要

(1) 全体的に高まる社会・生活への不安

- ・ 22 項目中 21 項目で不安度が高まっている。
- ・ 特に「日本の経済成長・景気が悪化」などの活力交流に関する設問や「災害が頻発・激甚化」などの安全・安心に関する設問について、不安度の高まりが大きい。

Q.各々の項目について「日本全体や社会のこと」として、不安を感じるかどうかお答えください。9



10%～ 5.0%～9.9% -5.0%～-9.9% -10%～ ○新項目

(2) 求められる変化への対応

- 「新型コロナウイルスによる変化への対応」、「国土強靱化」、「脱炭素社会実現への取組」など、近年の大きな変化のあった分野への対応に肯定的な意見が 6 割～7 割程度あり、これらの変化への対応が求められている。

Q. 以下のような意見がありますが、あなたはどのように思われますか

	非常にそう思う	そう思う	どちらとも いえない	そう思わない	全く そう思わない	そう思う計	そう思わない計
国土を強靱(きょうじん)化することは重要	22.4	46.8	25.8	3.6	1.5	69.1	5.1
新型コロナにより生じた国民意識や国民生活の変化に対応していくことが重要	22.2	47.4	24.8	4.0	1.6	69.6	5.6
脱炭素社会を実現するための取り組みをより一層推進していくべき	15.6	43.9	31.6	5.7	3.2	59.5	8.9
自動運転技術など新技術の開発と導入を積極的に進めることが重要	17.6	47.0	30.7	3.3	1.4	64.6	4.7

(3) 十分に認知されていない社会資本を取り巻く環境

- インフラの維持管理等の重要度増大に関する認知度は 5 割程度、諸外国におけるインフラ投資の増大に関する認知度は 3 割程度であり、前回調査(2017)と大きな変化はない。インフラを取り巻く環境ははまだ十分認知されているとは言えない。

Q. 今後、戦後の急成長期以降に急速に蓄積してきた膨大なインフラ(社会資本)が耐用年数を迎え、増加する維持管理・更新費用への対応が大きな課題となることをあなたはご存じですか

	非常によく知っている	一応知っている	あまり知らない	ほとんど知らない	知っている計	知らない計
今回	8.3	43.1	32.5	16.1	51.3	48.7
前回	8.0	42.3	33.5	16.2	50.3	49.7

Q. アメリカやヨーロッパ諸国などでは、新型コロナウイルス感染症の影響から回復するための経済・社会活動の活性化や温室効果ガス削減などのため、インフラ投資を増大させる動きがありますが、ご存じですか。

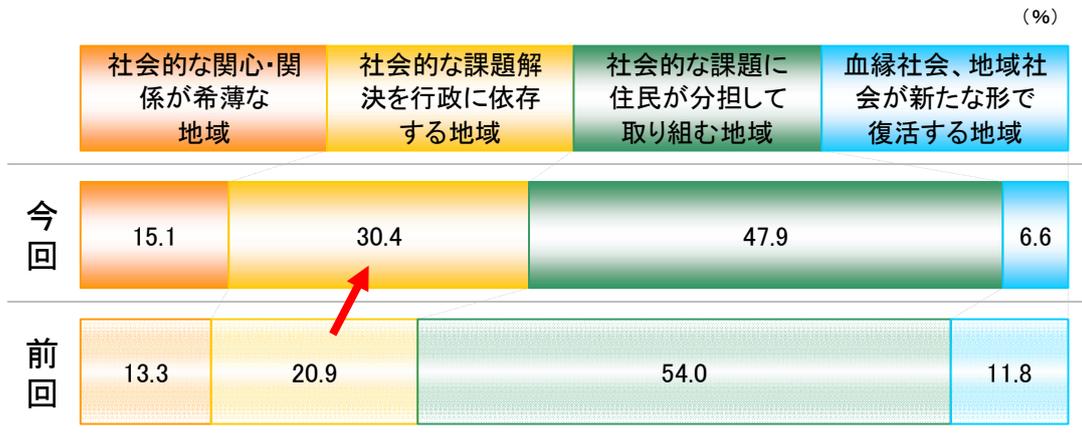
(前回)Q.アメリカのトランプ大統領が1兆ドル(約 110 兆円)をインフラ整備に使うことを表明するなど、アメリカやヨーロッパ諸国では、安全性を高め、経済活力を維持・増進するため、道路等のインフラ投資を増大させる動きがありますが、ご存じですか。

	よく知っている	知っている	あまり知らない	全く知らない	知っている計	知らない計
今回	6.8	26.3	48.7	18.2	33.1	66.9
前回	4.4	27.4	48.3	19.9	31.7	68.3

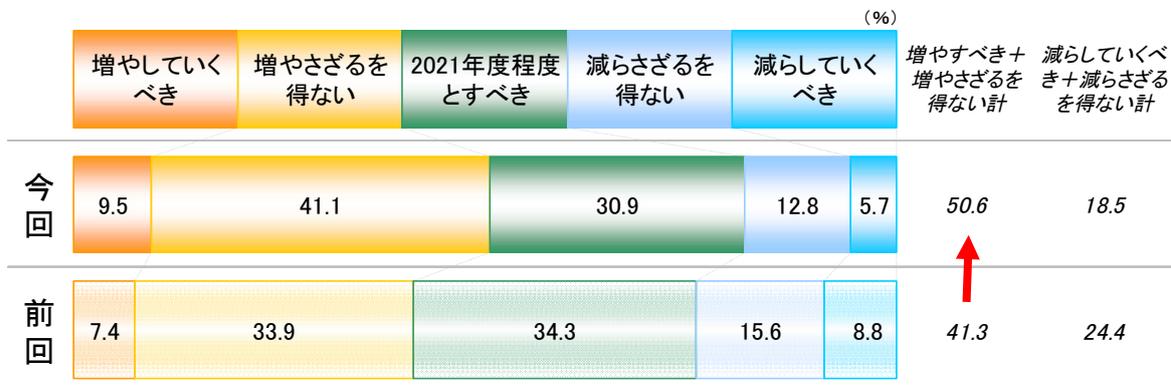
(4) 公共の果たす役割への期待の高まり

- ・ 地域のあるべき姿として、「社会的な課題解決を行政に依存する地域」を選択した割合が増加。
- ・ 今後の公共事業予算の増減に関する設問については、増やす計が増加
- ・ 「必要が生じた場合、土地利用などの私権が制限されるのは止む得ない」との回答も増加
- ・ 公共の果たす役割への期待が高まっていると推測される。

Q. あなたの住む地域が将来なるべきと思われる姿はどれですか

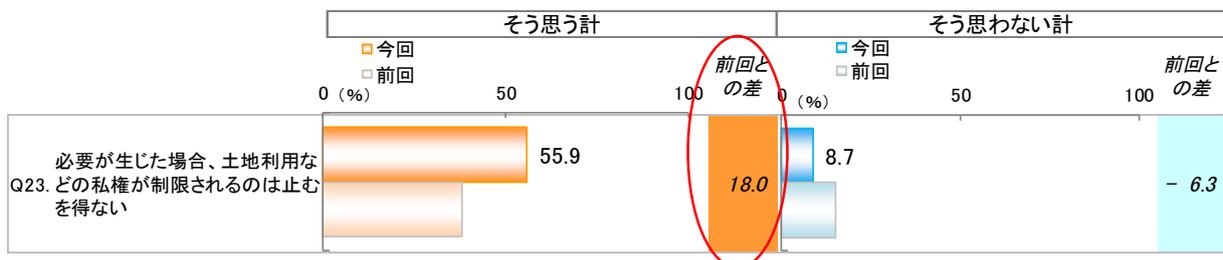


Q. あなたは、今後の公共事業の予算をどうすべきだと思いますか



※前回は「平成29年度程度とすべき」で聴取

Q. 以下のような意見がありますが、あなたはどのように思われますか



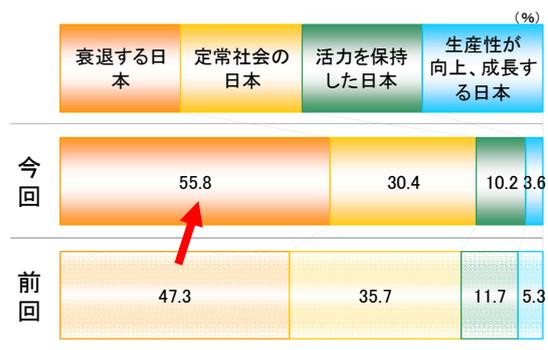
(5) 求められる社会資本のあるべき姿の具体像

- ・ (1)で示したとおり社会・生活への不安は増大
- ・ 将来について悲観的な者が増加
- ・ 日本の社会資本の全体的な充足度評価が悪化。一方で、分野毎の社会資本の充足度評価は少なくない分野(21 分野中 19 分野)で向上。国民の中に社会資本に関するあるべき姿の具体像がなく、何が不満なのかイメージできていない可能性がある。
- ・ なお、分野毎の社会資本の充足度評価については、前回と比べ向上している分野においても、いまだ充足している計が、充足していない計より低い分野がある

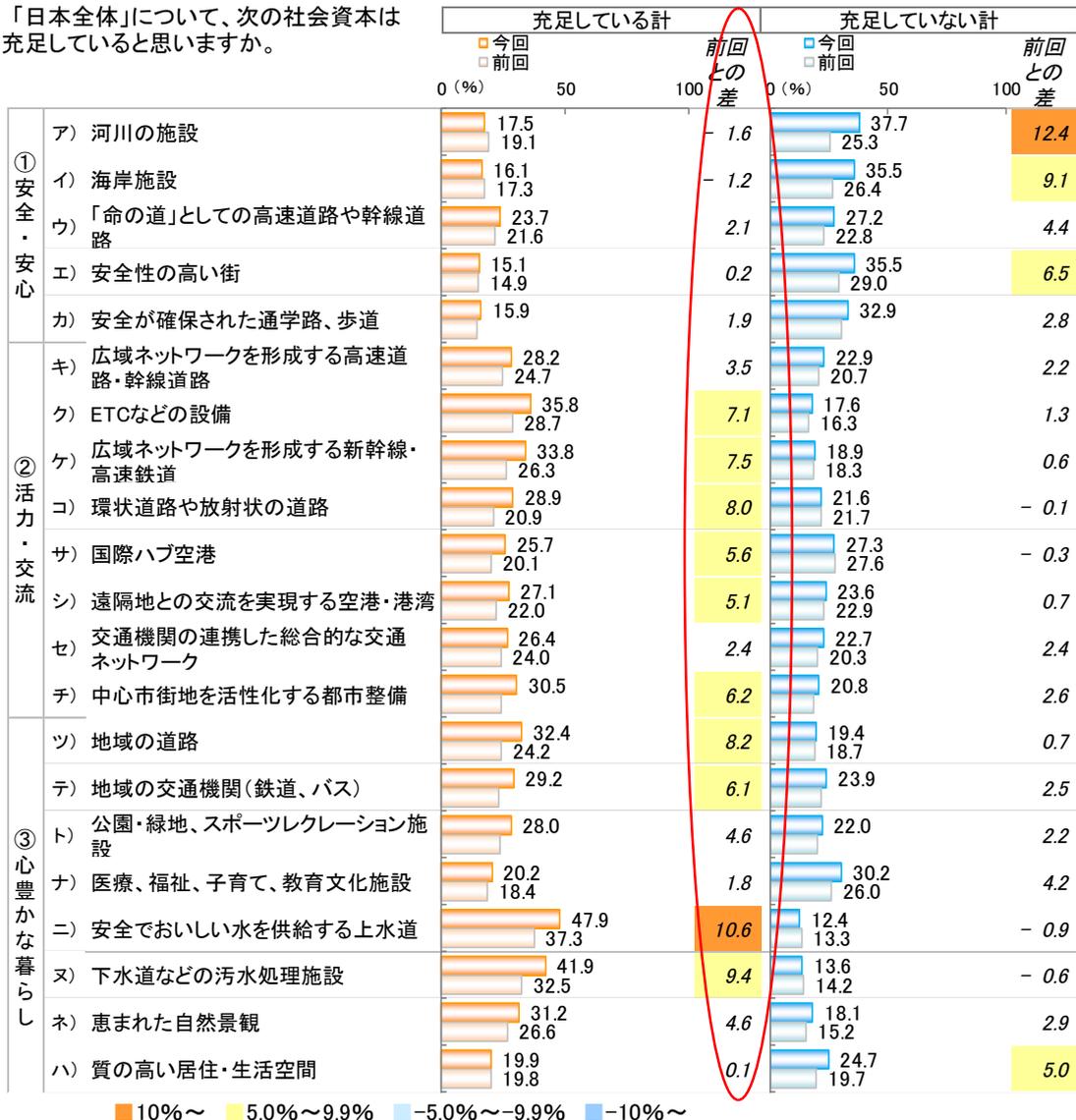
Q 日本の社会資本が全体としてどの程度充足していると考えますか



Q 将来の日本が最もなりそうであると予測される姿はどれですか



Q 「日本全体」について、次の社会資本は充足していると思いますか。



社会資本に関するインターネット調査 2021
報告書(速報版)

令和3年7月

(一財)国土技術研究センター
国土政策研究所

社会資本に関するインターネット調査 2021

調査概要と今後の予定

1. 調査概要

(1) 調査の目的

近年の社会情勢の変化を踏まえ、国民の社会資本に対する認識、理解、評価の実態とその理由を明らかにするために JICE が土木学会と連携し、社会資本に関するインターネット調査を実施する。また、2017 年度に実施した同じ主旨の調査との比較や分析も実施し、近年の社会情勢の変化によるインフラに関する国民意識の変化なども把握する。更には、社会資本の保全・整備を進めるにあたっての論点・留意点を明確にし、社会資本に関する認知・関心を高め、健全な議論の契機となることを期待する。

(2) 調査対象者 : 全国 18 歳～79 歳男女

(3) サンプル数 : 3,000 人

(4) 調査期間 : 2021 年 4 月 27 日 (火) ～5 月 6 日 (木)

※前回調査は 2017.4. 29～5.10 に実施、(2)、(3)、(5) は今回と同様

(5) 調査方法 : 登録モニターによるインターネット調査

(6) 調査項目

1. 社会・生活の動向に関する意識・態度
2. 社会・生活に関する考え方
3. 社会・生活空間、国土に関する評価／重要度
4. 社会資本具体分野別の充足度評価、推進意向
5. 社会資本の状況に関する全体評価
6. 社会資本の維持管理・更新に関する認知・理解・評価
7. 社会資本整備のあり方、保全・整備の進め方に関する評価
8. 国家予算 費目別 今後の増減評価
9. 日本とあなたの住む地域の将来 (予測とあるべき姿)
10. 属性 (フェイスシート)

(6) 実施体制

設問・分析等に関する助言を頂くため、以下メンバーによる有識者委員会を設置。

石田 東生 一般財団法人 国土技術研究センター 国土政策研究所 所長

大原 美保 国立研究開発法人 土木研究所水災害・リスクマネジメント国際センター主任研究員

川崎 茂信 一般財団法人 国土技術研究センター 理事

神田 佑亮 呉工業高等専門学校 環境都市工学分野 教授

谷口 博昭 公益社団法人 土木学会 会長

塚田 幸広 公益社団法人 土木学会 専務理事

松永 康男 一般財団法人 みなと総合研究財団 専務理事

湧川 勝己 東京建設コンサルタント 東京本社 河川計画本部 本部長

2. 調査の特徴

- ・ 全国 3,000 サンプル、各都道府県の人口割合を踏まえたサンプル割付、性・年齢はブロック内で均等割付。
- ・ 3,000 と多数のサンプルを確保したため、ブロック別、都市規模別、性、年齢別などの集計・分析が可能。
- ・ 社会資本についてだけでなく、その評価の背景となる社会・生活の動向に関する意識・価値観及び日本、居住地域の将来(なりそうな姿、なるべき姿)について質問したため、それらと社会資本の関係の分析が可能。
- ・ 2017 年にも同様の調査を実施。前回調査と今回調査の結果を比較することにより、国民意識の変化の把握が可能。

3. 今後の分析予定

- (1) 属性分析の更なる実施 : 災害経験、年収等も質問していることを踏まえ、それら属性との相関を更に分析
- (2) 質問間クロス分析 : 質問間のクロス分析を実施
- (3) クラスタ分析 : 社会、生活に関する価値観等の異なるクラスター毎の社会資本に関する評価などを分析
- (4) 将来像に関する自由記述回答の分析 : テキストマイニング手法などを用いた解析

4. 公開予定等

今回の発表は調査結果の概要を速報として公開したもの。最終的には、以下を公開予定。

- (1) 調査結果報告書(今回の分析結果に加え、要因分析などの追加分析も実施し、とりまとめる予定)
- (2) 調査結果の原データ(研究者、研究機関等が新たに集計・分析を実施できる形で公開)
- (3) 本調査は土木学会と連携して実施しており、調査の結果は、土木学会で今後行われる「コロナ後の”土木”のビッグピクチャー」に関する検討でも活用される予定。

※ 前回調査の結果は JICE の HP (https://www.jice.or.jp/labs/infra_internet_survey_2017) に掲載(アンケートの原データも含め)。

調査結果概要

1. 社会・生活の動向に関する意識・態度[自分自身の住む地域(居住地域)／日本全体・社会]

<不安度>【P5～7】

- ・ 日本全体での不安の方が、居住地域よりも強い。
- ・ 不安度が高いのは、「災害が頻発・激甚化する」など安全・安心に関するもの、及び、「日本の経済成長・景気が悪化」などの活力・交流に関するもの。
- ・ 前回調査との比較では、全体的に不安度が高まっている。不安度が大きく高まっている項目が多いのは、「日本の経済成長・景気が悪化」などの活力・交流に関するもの及び「災害が頻発・激甚化する」、「地球温暖化問題が進行する」などの安全・安心に関するもの。

<重要度>【P8～10】

- ・ 今回設定した 30 項目のうち、28 項目において、重要であるとの回答が 70%以上であり、「安全・安心」、「活力・交流」、「心豊かな暮らし」、いずれに関しても、全般的に重要度は高いとされている。
- ・ 前回調査との比較では、全ての項目において重要との回答が増えている。「安全・安心」、「活力・交流」、「心豊かな暮らし」、それぞれに関する項目の平均増加率は 5.3%、7.3%、5.5%となっており、活力・交流に関する項目についての増加率が比較的高い。

2. 社会・生活に関する考え方【P11～14】

- ・ 肯定的な回答が多い項目は、「地球環境に優しい生活をしたい」74.6%、「仕事よりも友人、家族等を大切にする暮らしに」67.1%、「ITなど新たな技術で生活や社会が便利になるのは良いことだ」62.9%、「安全・安心は全ての基盤なので、他のことより重視すべきだ」61.7%の順となっている。
- ・ 前回調査との比較では、「女性がかつと社会進出、社会参加できる仕組みを作るべきだ」がかつとも肯定的な回答の増加が大きく、唯一 10 ポイント以上増えている。

3. 社会・生活空間、国土に関する評価/重要度【P15～17】

- ・ 社会・国土形成は重要との認識は高く、「安全・安心」、「活力ある」、「心豊かに暮らせる」いずれの項目でも重要であるとの回答が 8 割程度以上となっている。
- ・ 一方で、社会・国土形成に関する現状評価については、「どちらともいえない」と回答している人が 4 割～5 割程度いる。
- ・ 前回調査との比較では、日本全体の現状評価については、「安全・安心」、「活力ある社会」、「心豊かな暮らし」、いずれの項目でも「そうっていない」計が 5 ポイント以上増えている。また、重要度については、いずれの項目でも重要であるとの回答が 5 ポイント以上増えている。

4. 社会資本具体分野別の充足度評価、推進意向(居住地域/日本全体)

<充足度評価>【P18～23】

- ・ 日本全体と居住地域での評価の差が大きい項目もある。例えば、「遠隔地との交流を実現する空港・港湾」などの活力・交流関連では居住地域より日本全体の充足度評価が高い傾向にある。逆に、「河川の管理」などの安全・安心関連や「恵まれた自然」などの心豊かな暮らし関連では日本全体より居住地域の充足度評価が高い傾向にある。
- ・ 前回調査と比較すると、「河川の施設」、「海岸施設」、「安全性の高い街」については、近年の水災害多発の傾向を反映してか、日本全体の「充足していない計」が 5 ポイント以上増えている。一方で、「活力・交流」、「心豊かな暮らし」に関する社会資本については、「充足している計」が 5 ポイント以上増えている項目が少なからずある。
- ・ 地域ブロック別で評価が大きく異なる。四国、中国、北陸、東北、北海道で充足度評価が低い。
- ・ 都市規模別でも評価が大きく異なる。地方圏の 30 万人以下の市町村(県庁所在地を除く)の充足度評価が低い。
- ・ 地方部では、社会資本整備が遅れているとの認識が強く、これが、今後の地域社会の進展に対して否定的な見解へとつながっているように感じられる。

<推進意向>【P24～26】

- ・ 日本全体では、全ての分野で推進意向が高いとの回答の割合が 7 割を超えており、全体的に推進の意向は高い。
- ・ 前回調査と比較すると、前回より推進すべき計の割合が 5 ポイント以上増減したものはなく、比較的变化は少ない。

5. 社会資本の状況に関する全体評価【P27】

- ・ 「充足している」と「充足していない」の比率は、居住地域 30.7% > 24.3%、日本全体 21.2% < 26.9%であり、居住地域では充足しているとの回答が多いのに対し、日本全体では充足していないとの回答が多い。
- ・ 居住地域における評価については、地域ブロックや都市規模ごとに大きく異なる。特に、東北、中国、四国ブロックや、地方圏の 30 万人以下の市町村では充足していない計が充足している計を大きく上回っている。
- ・ 前回調査と比較すると、居住地域については、充足しているとの評価が微増している(2.7 ポイント増)。一方で、日本全体については、否定的な評価が増加している(充足しているが 4.7 ポイント減、充足していないが 5.9 ポイント増)。

6. 社会資本の維持管理・更新に関する認知・理解・評価【P28】

- ・ インフラ維持管理・更新費用課題認知率は5割程度にとどまる。
- ・ 前回調査と比較すると、Q11「全てのインフラ(社会資本)を維持するのは不可能で、残すものと残さないものを分け、早めの対応をすることが必要」については肯定的回答が5ポイント以上増えている。その他の設問については、3ポイント程度以下の増減であり、大きな変化はない。

7. 社会資本整備のあり方、保全・整備の進め方に関する評価【P29～33】

- ・ 「災害に備えるため、ソフト対策も重要」との項目が、唯一、肯定的回答が8割を超え、その他の項目(「中長期の全体像を描いた上で財源を確保し、計画的効率的に進めること」、「新型コロナウイルス感染症発生により生じた国民意識等の変化に対応していくことが重要」など)についても、肯定的な回答が多い(5割～7割程度)。
- ・ 前回調査との比較については、いずれの項目についても、肯定的な回答が5ポイント程度以上増加している。特に「必要が生じた場合、土地利用などの私権が制限されるのは止むを得ない」「国土を強靱化することは重要」の2項目が15ポイント以上と大幅に増加している。

8. 公共事業予算の今後の増減評価【P34】

- ・ 増やす計は50.6%、「2021年度程度とすべき」は30.9%、減らす計は18.5%となっている。
- ・ 前回調査との比較については、増やす計は9.3ポイント増加、「2021年度程度とすべき」は3.4ポイント減少、減らす計は5.9ポイント減少となっている。

9. 日本とあなたの住む地域の将来(予測とあるべき姿)

<将来予測、あるべき姿-1(衰退 ⇄ 成長) >【P35～P40】

【居住地域】

- ・ 将来予測とあるべき姿でギャップがある。「衰退する地域」なりそう34.0%(>なるべき16.5%)、「成長する地域」なりそう4.8%(<なるべき10.9%)
- ・ 前回調査との比較については、将来予測は悲観的予測が減り(「衰退する地域」が10.4ポイント減)、あるべき姿は成長を希望する回答が増えている(「成長する地域」が3.3ポイント増)。
- ・ 地域ブロック別で予測が大きく異なる。四国、中国、東北、北海道が悲観的。
- ・ 都市規模別でも予測が大きく異なる。地方圏の30万人以下の市町村(県庁所在地を除く)が特に悲観的。
- ・ 社会資本の充足度が低いと評価した者のほうが、充足度が高いと評価した者より、将来予測について悲観的である。

【日本全体】

- ・ 将来予測とあるべき姿でギャップがあり、その差は居住地域よりも大きい。「衰退する日本」なりそう55.8%(>なるべき15.8%)、「成長する日本」なりそう3.6%(<なるべき26.7%)
- ・ 居住地域と比較すると、将来予測については、より悲観的であり(「衰退する地域」34.0%<「衰退する日本」55.8%)、あるべき姿については成長を希望する割合が大きい(「成長する地域」10.9%<「成長する日本」26.7%)。
- ・ 前回調査との比較については、将来予測は悲観的予測が増え(「衰退する日本」が8.5ポイント増)、あるべき姿は成長を希望する回答が増えている(「成長する日本」が4.3ポイント増)。
- ・ 日本の将来予測について、若い世代のほうが悲観的である。

<将来予測、あるべき姿-2(社会課題に関する受動 ⇄ 能動) >【P41～42】

【居住地域】

- ・ 将来予測とあるべき姿でギャップがある。「社会的な関心・関係が希薄な地域」なりそう30.7%(>なるべき15.1%)、「住民が分担して取り組む地域」なりそう24.4%(<なるべき47.9%)
- ・ 前回調査との比較については、将来予測では「社会的な関心・関係が希薄な地域」が大きく減っており(9.0ポイント減)、あるべき姿では「社会的な課題解決を行政に依存する地域」が大きく増えている(9.5ポイント増)。

【日本全体】

- ・ 将来予測とあるべき姿でギャップがあり、その差は居住地域よりも大きい。「社会的な関心・関係が希薄な日本」なりそう49.1%(>なるべき13.7%)、「住民が分担して取り組む日本」なりそう14.5%(<なるべき54.0%)
- ・ 居住地域と比較すると、将来予測については「社会的な関心・関係が希薄」の割合が多く(日本全体49.1%>居住地域30.7%)、あるべき姿については「社会的な課題に住民が分担して取り組む」の割合が多い(日本全体54.0%>居住地域47.9%)。
- ・ 前回調査との比較については、将来予測・あるべき姿のいずれの選択肢も変動は3ポイント未満である。

調査結果

1. 社会・生活の動向に関する意識・態度

■社会・生活の動向に関する不安度(自分・生活地域/日本全体・社会)

- ・ 日本全体での不安の方が、居住地域よりも強い。
- ・ 不安度が高いのは、「大地震が起こる」、「災害が頻発・激甚化する」、「新型コロナなどにより社会・経済・生活活動が停滞・破綻」など安全・安心に関するもの、及び、「日本の経済成長・景気が悪化」、「人口減少・少子化・高齢化が進行」などの活力・交流に関するもの。

Q1-1. 各々の項目について「自分自身や家族の周りや地域のこと」として、不安を感じるかどうかお答えください。(それぞれひとつだけ)

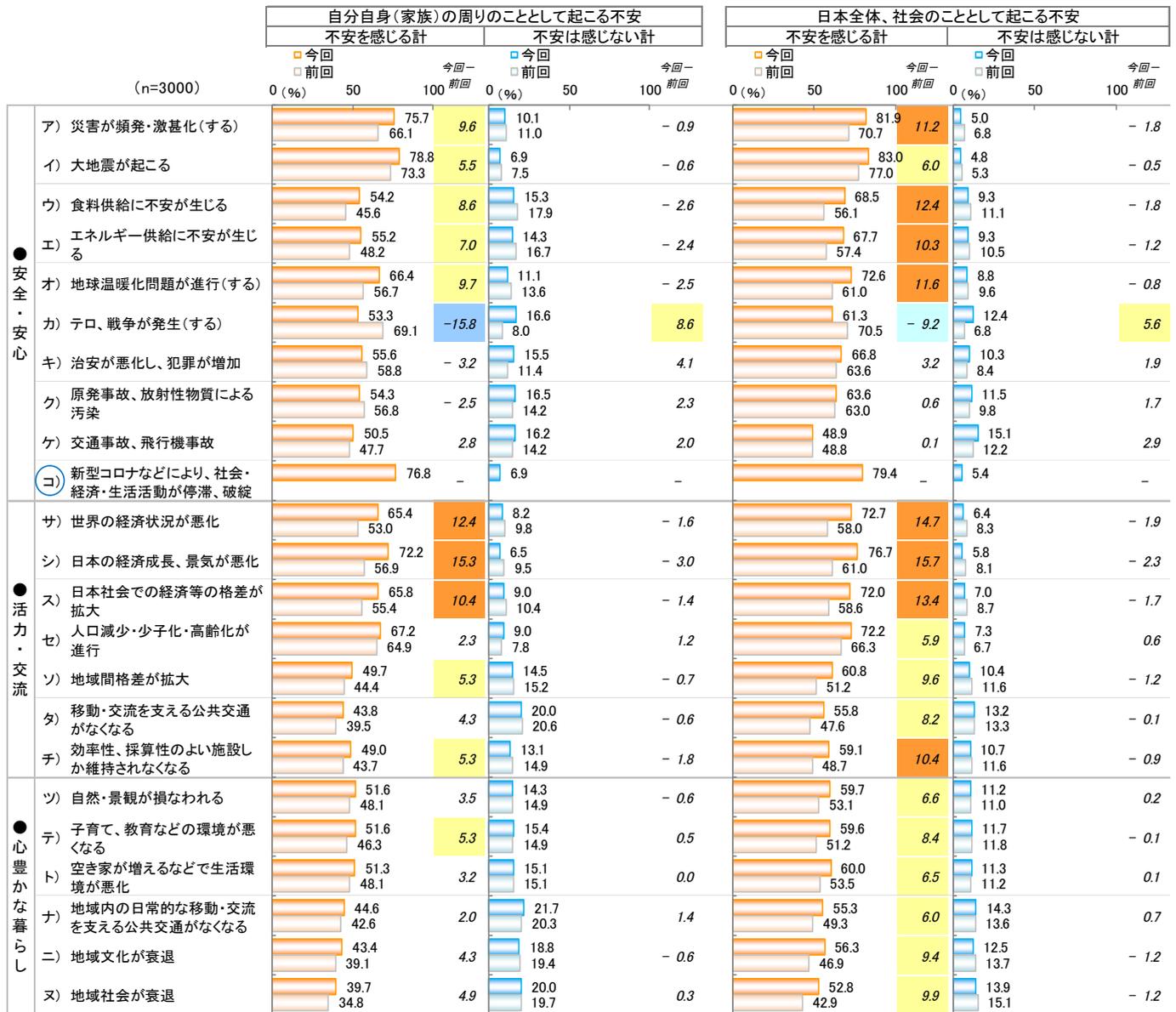
Q1-2. 各々の項目について「日本全体や社会のこと」として、不安を感じるかどうかお答えください。(それぞれひとつだけ)

	項目	自分自身(家族)の周りのこととして起こる不安					日本全体、社会のこととして起こる不安								
		非常に不安を感じる	不安を感じる	どちらでもない	不安は全く不安を感じない	(%) 不安を感じる計	不安を感じない計	非常に不安を感じる	不安を感じる	どちらでもない	不安は全く不安を感じない	(%) 不安を感じる計	不安を感じない計		
●安全・安心	ア) 災害が頻発・激甚化する	24.6	51.1	14.2	7.4	75.7	10.1	36.1	45.8	13.1	3.0	81.9	5.0		
	イ) 大地震が起こる	34.4	44.4	14.3	4.8	78.8	6.9	43.1	39.8	12.2	3.0	83.0	4.8		
	ウ) 食料供給に不安が生じる	12.6	41.6	30.6	11.7	36.5	54.2	15.3	24.7	43.8	22.2	6.7	68.5	9.3	
	エ) エネルギー供給に不安が生じる	13.5	41.7	30.6	10.9	34.4	55.2	14.3	24.9	42.9	22.9	6.6	67.7	9.3	
	オ) 地球温暖化問題が進行(する)	20.6	45.8	22.5	7.7	34.4	66.4	11.1	29.3	43.3	18.7	5.5	72.6	8.8	
	カ) テロ、戦争が発生(する)	16.4	36.9	30.1	11.8	4.8	53.3	16.6	25.0	36.3	26.4	8.5	61.3	12.4	
	キ) 治安が悪化し、犯罪が増加	16.9	38.7	28.8	11.8	3.7	55.6	15.5	24.2	42.5	22.9	7.7	66.8	10.3	
	ク) 原発事故、放射性物質による汚染	19.0	35.4	29.1	11.8	4.7	54.3	16.5	26.6	37.0	24.9	8.3	63.6	11.5	
	ケ) 交通事故、飛行機事故	13.0	37.5	33.4	12.6	3.6	50.5	16.2	13.6	35.3	36.0	11.0	4.1	48.9	15.1
	コ) 新型コロナなどにより、社会・経済・生活活動が停滞・破綻	32.3	44.5	16.3	4.8	2.1	76.8	6.9	38.2	41.2	15.2	3.3	79.4	5.4	
●活力・交流	サ) 世界の経済状況が悪化	20.3	45.1	26.4	6.0	2.2	65.4	8.2	29.5	43.1	20.9	4.1	72.7	6.4	
	シ) 日本の経済成長、景気が悪化	25.8	46.4	21.2	4.6	1.9	72.2	6.5	33.9	42.8	17.4	3.8	76.7	5.8	
	ス) 日本社会での経済等の格差が拡大	23.1	42.7	25.2	6.7	2.3	65.8	9.0	28.8	43.2	21.0	4.7	72.0	7.0	
	セ) 人口減少・少子化・高齢化が進行	24.7	42.5	23.8	6.6	2.4	67.2	9.0	31.9	40.3	20.5	4.8	72.2	7.3	
	ソ) 地域間格差が拡大	13.8	35.9	35.8	11.1	3.4	49.7	14.5	21.0	39.7	28.8	7.4	60.8	10.4	
	タ) 移動・交流を支える公共交通がなくなる	11.9	31.8	36.2	15.6	4.4	43.8	20.0	17.6	38.3	31.0	9.5	55.8	13.2	
	チ) 効率性、採算性のよい施設が維持されなくなる	12.0	37.0	37.9	10.0	3.1	49.0	13.1	18.4	40.7	30.2	7.7	59.1	10.7	
●心豊かな暮らし	ツ) 自然・景観が損なわれる	14.7	36.9	34.1	11.1	3.2	51.6	14.3	21.0	38.7	29.1	8.0	59.7	11.2	
	テ) 子育て、教育などの環境が悪くなる	15.6	36.1	32.9	11.5	4.0	51.6	15.4	20.0	39.6	28.7	8.0	59.6	11.7	
	ト) 空き家が増えるなどで生活環境が悪化	12.0	39.3	33.6	11.6	3.5	51.3	15.1	18.0	42.0	28.7	8.1	60.0	11.3	
	ナ) 地域内の日常的な移動・交流を支える公共交通がなくなる	11.9	32.7	33.7	16.6	5.1	44.6	21.7	17.0	38.4	30.4	10.5	55.3	14.3	
	ニ) 地域文化が衰退	10.5	32.9	37.8	13.2	5.6	43.4	18.8	17.5	38.8	31.2	8.4	60.3	12.5	
ヌ) 地域社会が衰退	8.6	31.1	40.2	14.5	5.6	39.7	20.0	15.1	37.7	33.3	9.5	52.8	13.9		

■ 70%～ ■ 60%～69.9% ■ 50%～59.9% ■ 40%～49.9% ○ 新設問(2017 調査にない設問)

【前回比較】

・ 前回調査との比較では、全体的に不安度が高まっている。不安度が大きく高まっている項目が多いのは、「日本の経済成長・景気が悪化」などの活力・交流に関するもの及び「災害が頻発・激甚化する」、「地球温暖化問題が進行する」などの安全・安心に関するもの。



■ 10%～ ■ 5.0%～9.9% ■ -5.0%～-9.9% ■ -10%～ ○ 新設問(2017 調査にない設問)

Q1-1. 各々の項目について「自分自身や家族の周りで起きたり、生活する地域に影響を与えるかもしれないこと」として、不安を感じるかどうかお答えください。(それぞれひとつだけ)

Q1-2. 各々の項目について「日本全体で起きたり、社会に影響を与えるかもしれないこと」として、不安を感じるかどうかお答えください。(それぞれひとつだけ)

	(n=3000)	自分自身(家族)の周りで起こる不安						日本全体、社会のことで起こる不安							
		非常に不安を感じる	不安を感じる	どちらともいえない	不安は感じない	全く不安は感じない	(%) 不安を感じる計	不安を感じない計	非常に不安を感じる	不安を感じる	どちらともいえない	不安は感じない	全く不安は感じない	(%) 不安を感じる計	不安を感じない計
●安全・安心	ア) 災害が頻発・激化(する)	15.7	50.4	22.9	8.0	3.0	66.1	11.0	21.0	49.8	22.5	4.1	2.7	70.7	6.8
	イ) 大地震が起こる	29.9	43.4	19.2	5.0	2.5	73.3	7.5	33.6	43.4	17.7	3.2	2.1	77.0	5.3
	ウ) 水害・台風の被害に遭う	13.4	46.5	27.3	9.5	3.3	59.9	12.8	18.6	51.2	23.5	4.2	2.6	69.7	6.8
	エ) 食料供給に不安が生じる	9.2	36.4	36.5	13.9	4.1	45.6	17.9	14.4	41.7	32.8	8.1	3.0	56.1	11.1
	オ) エネルギー供給に不安が生じる	9.0	39.2	35.1	13.0	3.7	48.2	16.7	14.3	43.1	32.1	7.6	2.9	57.4	10.5
	カ) 地球温暖化問題が進行(する)	12.4	44.2	29.8	9.9	3.7	56.7	13.6	15.8	45.2	29.4	6.4	3.2	61.0	9.6
	キ) 食品の安全性が損なわれる	13.8	42.4	31.5	9.3	2.9	56.3	12.2	16.0	42.8	31.1	7.3	2.8	58.8	10.1
	ク) テロ、戦争が発生(する)	25.8	43.3	23.0	5.3	2.7	69.1	8.0	27.7	42.8	22.7	4.5	2.3	70.5	6.8
	ケ) 治安が悪化し、犯罪が増加	16.9	41.9	29.8	8.3	3.1	58.8	11.4	19.6	44.1	28.0	5.9	2.5	63.6	8.4
	コ) 原発事故、放射性物質による汚染	20.6	36.2	29.0	10.3	3.9	56.8	14.2	23.6	39.5	27.2	6.7	3.1	63.0	9.8
サ) 交通事故、飛行機事故	10.7	37.0	38.1	10.9	3.3	47.7	14.2	12.3	36.5	39.0	9.2	3.0	48.8	12.2	
●活力・交流	シ) 世界の経済状況が悪化	10.6	42.3	37.2	7.5	2.4	53.0	9.8	14.2	43.9	33.7	6.0	2.3	58.0	8.3
	ス) 日本の経済成長、景気が悪化	13.6	43.3	33.6	7.2	2.3	56.9	9.5	16.1	44.9	30.9	6.0	2.2	61.0	8.1
	セ) 日本社会での経済等の格差が拡大	14.8	40.6	34.3	7.6	2.8	55.4	10.4	16.2	42.4	32.7	6.3	2.4	58.6	8.7
	ソ) 人口減少・少子化・高齢化が進行	20.1	44.8	27.3	5.4	2.4	64.9	7.8	21.2	45.1	27.0	4.4	2.3	66.3	6.7
	タ) 居住地域が衰退	8.7	30.1	40.8	16.1	4.3	38.8	20.4	9.7	35.8	40.3	10.9	3.2	45.6	14.1
	チ) 地域間格差が拡大	10.4	34.0	40.5	11.8	3.4	44.4	15.2	12.8	38.4	37.3	8.5	3.1	51.2	11.6
	ツ) 移動・交流を支える公共交通がなくなる	9.3	30.2	39.9	16.0	4.6	39.5	20.6	11.5	36.1	39.1	9.7	3.6	47.6	13.3
	テ) 効率性、採算性のよい施設しか維持されなくなる	8.9	34.8	41.5	11.2	3.6	43.7	14.9	11.1	37.6	39.7	8.3	3.3	48.7	11.6
	ト) 自然・景観が損なわれる	11.5	36.5	37.0	11.5	3.4	48.1	14.9	13.6	39.6	35.9	7.9	3.1	53.1	11.0
	ナ) 子育て、教育などの環境が悪くなる	11.7	34.5	38.8	10.7	4.2	46.3	14.9	13.6	37.6	37.0	8.1	3.7	51.2	11.8
●心豊かな暮らし	ニ) (空き家が増えるなどで)生活環境が悪化	9.8	38.3	36.8	11.4	3.8	48.1	15.1	10.9	42.6	35.3	7.7	3.5	53.5	11.2
	ヌ) 地域内の日常的な移動・交流を支える公共交通がなくなる	10.4	32.2	37.1	15.6	4.7	42.6	20.3	11.6	37.7	37.1	9.8	3.7	49.3	13.6
	ネ) 地域文化が衰退	8.6	30.5	41.5	14.7	4.8	39.1	19.4	11.5	35.4	39.4	10.0	3.7	46.9	13.7
	ノ) 地域活動が低下	6.0	28.1	47.0	14.5	4.4	34.1	18.9	8.9	34.0	42.7	10.4	4.0	42.9	14.4
ハ) 地域社会が衰退	6.1	28.7	45.6	14.5	5.1	34.8	19.7	9.0	33.9	42.0	10.5	4.6	42.9	15.1	

■ 70%～ ■ 60%～69.9% ■ 50%～59.9% ■ 40%～49.9%

■社会・生活の動向に対する重要度

- ・ 今回設定した 30 項目のうち、28 項目において、重要であるとの回答が 70%以上であり、「安全・安心」、「活力・交流」、「心豊かな暮らし」、いずれに関しても、全般的に重要度は高いとされている。

Q2. 安全で活力ある快適な暮らしをする上で、あなたは次の各項目について重要だと思いますか。(それぞれひとつだけ)

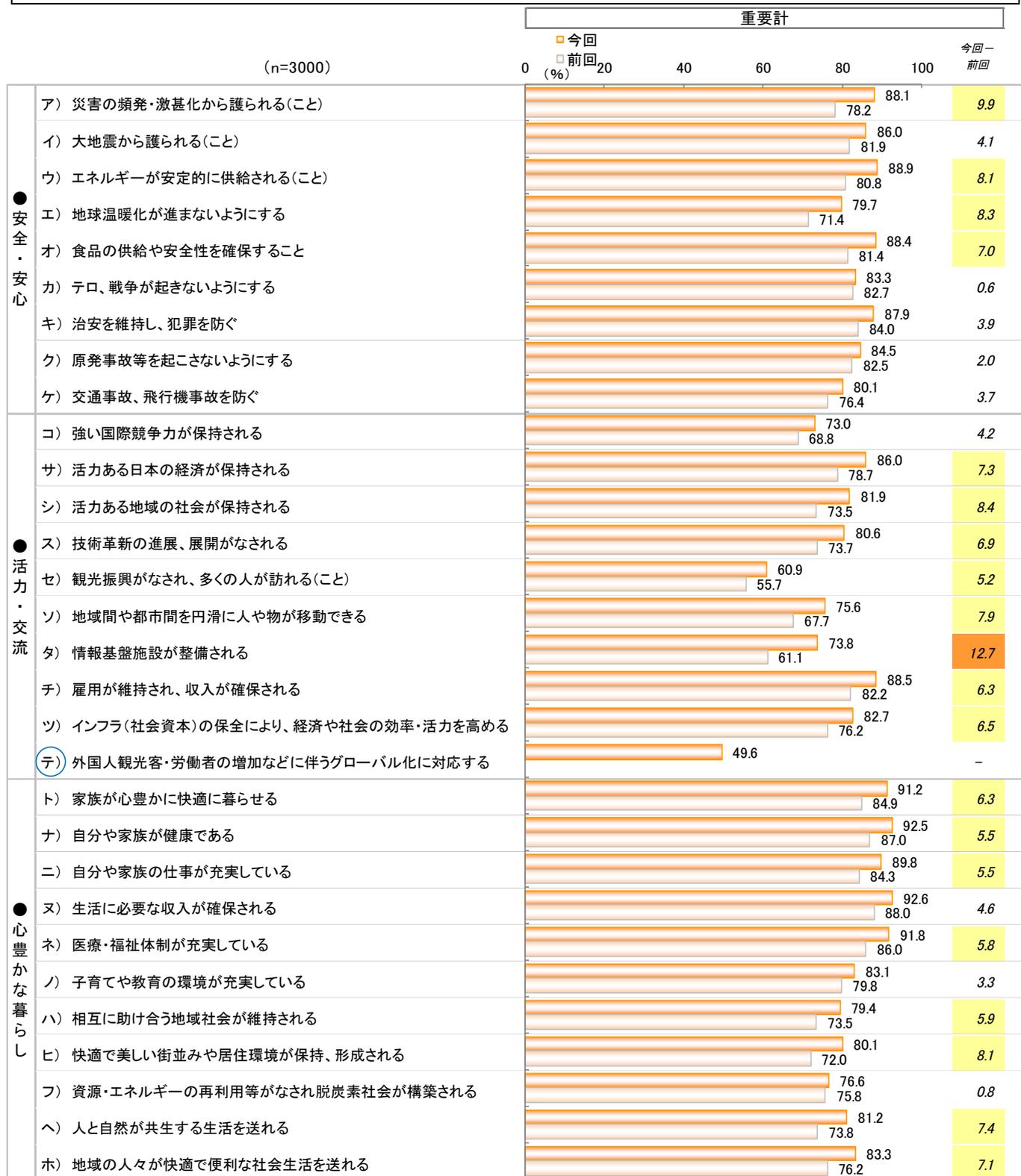
(n=3000)		(%)				重要計	
		非常に重要	重要	重要度は低い	わからない		
●安全・安心	ア) 災害の頻発・激甚化から護られる(こと)	○	37.4	50.7	6.5	5.4	88.1
	イ) 大地震から護られる(こと)	◎	41.3	44.6	7.9	6.1	86.0
	ウ) エネルギーが安定的に供給される(こと)	○	38.6	50.2	6.2	4.9	88.9
	エ) 地球温暖化が進まないようにする	○	32.6	47.0	13.4	7.0	79.7
	オ) 食品の供給や安全性を確保すること	○	37.8	50.6	6.9	4.6	88.4
	カ) テロ、戦争が起きないようにする	◎	41.5	41.8	10.7	6.0	83.3
	キ) 治安を維持し、犯罪を防ぐ	◎	41.2	46.7	7.2	4.9	87.9
	ク) 原発事故等を起こさないようにする	◎	42.8	41.7	9.9	5.6	84.5
	ケ) 交通事故、飛行機事故を防ぐ	○	30.2	49.9	14.0	5.9	80.1
●活力・交流	コ) 強い国際競争力が保持される		23.8	49.2	17.3	9.7	73.0
	サ) 活力ある日本の経済が保持される	○	34.7	51.3	8.4	5.6	86.0
	シ) 活力ある地域の社会が保持される		27.6	54.4	11.8	6.3	81.9
	ス) 技術革新の進展、展開がなされる	○	31.0	49.7	12.4	7.0	80.6
	セ) 観光振興がなされ、多くの人が訪れる(こと)		18.3	42.7	30.4	8.7	60.9
	ソ) 地域間や都市間を円滑に人や物が移動できる		20.9	54.7	18.0	6.4	75.6
	タ) 情報基盤施設が整備される		23.6	50.2	18.9	7.4	73.8
	チ) 雇用が維持され、収入が確保される	◎	43.0	45.6	6.6	4.9	88.5
	ツ) インフラ(社会資本)の保全により、経済や社会の効率・活力を高める		27.9	54.9	10.6	6.7	82.7
テ) 外国人観光客・労働者の増加などに伴うグローバル化に対応する		12.3	37.2	37.5	13.0	49.6	
●心豊かな暮らし	ト) 家族が心豊かに快適に暮らせる	◎	53.3	37.9	4.4	4.4	91.2
	ナ) 自分や家族が健康である	◎	63.6	28.9	3.6	3.9	92.5
	ニ) 自分や家族の仕事が充実している	◎	49.9	39.9	5.9	4.3	89.8
	ヌ) 生活に必要な収入が確保される	◎	58.3	34.3	3.8	3.6	92.6
	ネ) 医療・福祉体制が充実している	◎	52.3	39.5	4.0	4.2	91.8
	ノ) 子育てや教育の環境が充実している	◎	40.7	42.4	10.6	6.2	83.1
	ハ) 相互に助け合う地域社会が維持される		27.9	51.5	13.6	7.0	79.4
	ヒ) 快適で美しい街並みや居住環境が保持、形成される		27.4	52.7	14.2	5.7	80.1
	フ) 資源・エネルギーの再利用等がなされ脱炭素社会が構築される		26.6	50.0	15.4	8.0	76.6
	ヘ) 人と自然が共生する生活を送れる	○	30.8	50.5	12.6	6.1	81.2
	ホ) 地域の人々が快適で便利な社会生活を送れる		29.6	53.7	11.1	5.6	83.3

※フ)資源・エネルギーの再利用等がなされ脱炭素社会が構築される → 2017年「資源・エネルギーの再利用等がなされる循環型社会が構築されること」で聴取

■ 80%~ ■ 70%~79.9% ■ 60%~69.9% ■ 50%~59.9% ○ 新設問(2017 調査にない設問)
◎ 非常に重要 ◎ 40%~ ○ 30%~39.9%

【前回比較】

・ 前回調査との比較では、全ての項目において重要との回答が増えている。「安全・安心」、「活力・交流」、「心豊かな暮らし」、それぞれに関する項目の平均増加率は 5.3%、7.3%、5.5%となっており、活力・交流に関する項目についての増加率が比較的高い。



■10%～ ■5.0%～9.9% ■-5.0%～-9.9% ■-10%～ ○新設問(2017 調査にない設問)

Q2. 安全で活力ある快適な暮らしをする上で、あなたは次の各項目について重要だと思いますか。(それぞれひとつだけ)

		(n=3000)				(%)
		非常に重要	重要	重要度は低い	わからない	重要計
●安全・安心	ア) 災害の頻発・激甚化から護られる(こと)	21.5	56.6	10.9	11.0	78.2
	イ) 大地震から護られる(こと)	○ 35.0	47.0	8.7	9.3	81.9
	ウ) 水害・台風から護られる(こと)	23.7	57.3	10.1	9.0	80.9
	エ) 食料供給不安に備える(こと)	23.5	53.5	14.1	8.9	77.0
	オ) エネルギーが安定的に供給される(こと)	25.1	55.7	10.7	8.4	80.8
	カ) 地球温暖化が進まないようにする	21.0	50.5	18.4	10.2	71.4
	キ) 食品の安全性を確保する	27.4	54.0	10.4	8.2	81.4
	ク) テロ、戦争が起きないようにする	○ 39.2	43.5	8.6	8.7	82.7
	ケ) 治安を維持し、犯罪を防ぐ	○ 34.0	50.1	7.5	8.5	84.0
	コ) 原発事故等を起こさないようにする	◎ 41.8	40.7	8.7	8.9	82.5
	サ) 交通事故、飛行機事故を防ぐ	22.5	54.0	14.2	9.3	76.4
	●活力・交流	シ) 強い国際競争力が保持される	18.5	50.3	17.6	13.6
ス) 活力ある日本の経済が保持される		23.3	55.4	10.8	10.5	78.7
セ) 活力ある地域の社会が保持される		17.7	55.8	15.9	10.6	73.5
ソ) 技術革新の進展、展開がなされる		20.7	53.0	15.1	11.3	73.7
タ) 観光振興がなされ、多くの人が訪れる(こと)		11.7	44.0	32.4	11.9	55.7
チ) 他地域、海外との活発な交流がなされる		11.9	46.6	29.7	11.8	58.5
ツ) 地域間や都市間を円滑に人や物が移動できる		14.0	53.7	20.9	11.4	67.7
テ) 情報交換が活発になされる		14.5	53.1	20.7	11.7	67.7
ト) 情報基盤施設が整備される		13.3	47.8	26.3	12.6	61.1
ナ) 雇用が維持され、収入が確保される		○ 31.6	50.5	9.2	8.7	82.2
ニ) インフラ(社会資本)の保全により、経済や社会の効率・活力を高める		20.1	56.1	13.4	10.5	76.2
●心豊かな暮らし		ヌ) 家族が心豊かに快適に暮らせる	◎ 41.4	43.4	6.9	8.2
	ネ) 自分や家族が健康である	◎ 49.8	37.2	5.3	7.7	87.0
	ノ) 自分や家族の仕事が充実している	○ 38.7	45.6	7.3	8.4	84.3
	ハ) 年金が十分に支給される	◎ 42.9	41.3	7.3	8.5	84.2
	ヒ) 生活に必要な収入が確保される	◎ 48.5	39.5	4.4	7.6	88.0
	フ) 医療・福祉体制が充実している	○ 39.3	46.6	5.8	8.3	86.0
	ヘ) 子育てや教育の環境が充実している	○ 31.4	48.3	10.7	9.6	79.8
	ホ) 相互に助け合う地域社会が維持される	20.2	53.3	15.8	10.7	73.5
	マ) 快適で美しい街並みや居住環境が保持、形成される	17.6	54.4	18.2	9.8	72.0
	ミ) 循環型社会が構築される	21.8	54.0	13.8	10.4	75.8
	ム) 人と自然が共生する生活を送れる	21.9	51.9	15.7	10.5	73.8
	メ) 地域の人々が快適で便利な社会生活を送れる	19.6	56.7	13.9	9.9	76.2

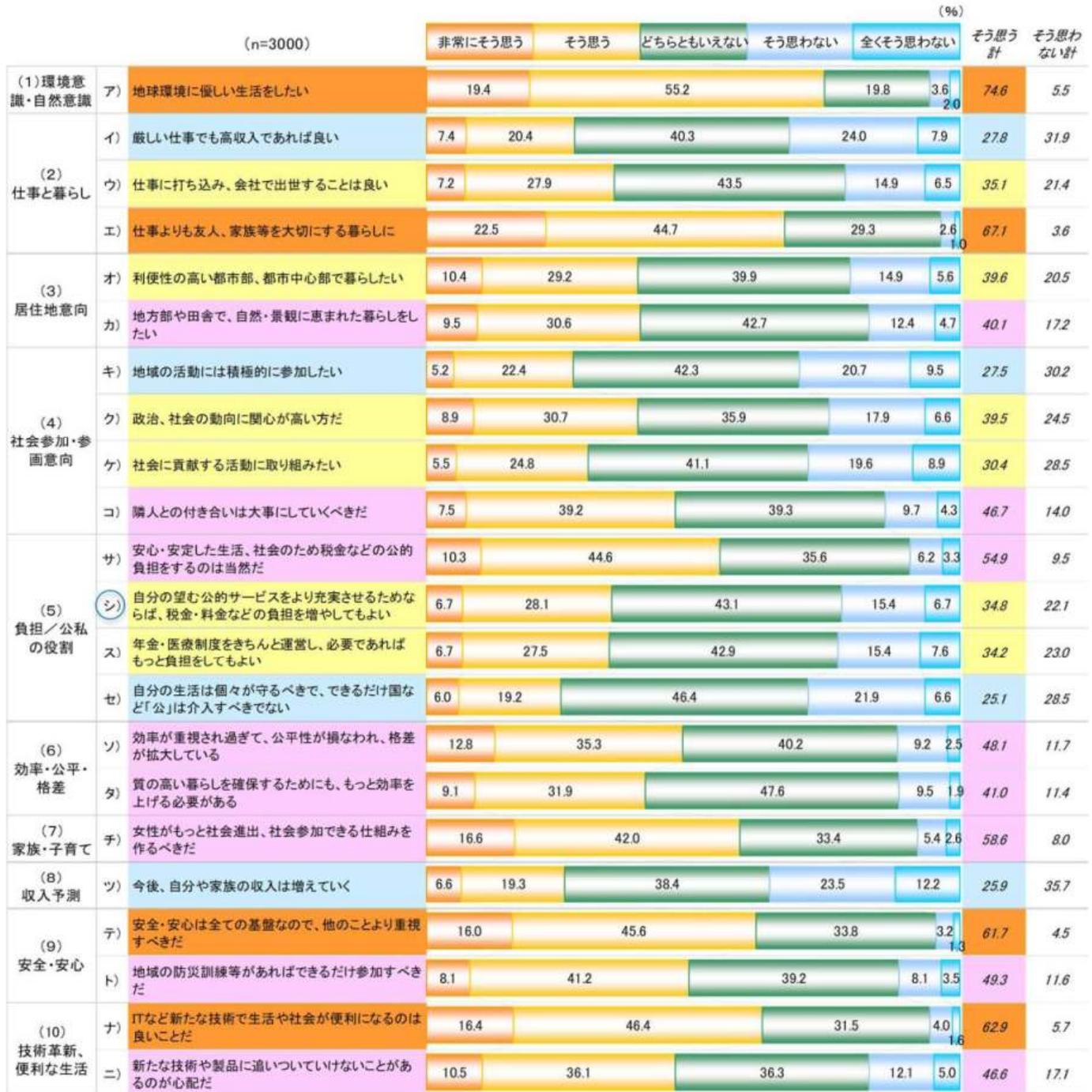
■ 80%～ ■ 70%～79.9% ■ 60%～69.9% ■ 50%～59.9%
 非常に重要 ◎40%～ ○30%～39.9%

2. 社会・生活に関する考え方等

■社会・生活に関する考え方等

・ 肯定的な回答が多い項目は、「地球環境に優しい生活をしたい」74.6%、「仕事よりも友人、家族等を大切に
する暮らしに」67.1%、「ITなど新たな技術で生活や社会が便利になるのは良いことだ」62.9%、「安全・安心は
全ての基盤なので、他のことより重視すべきだ」61.7%の順となっている。

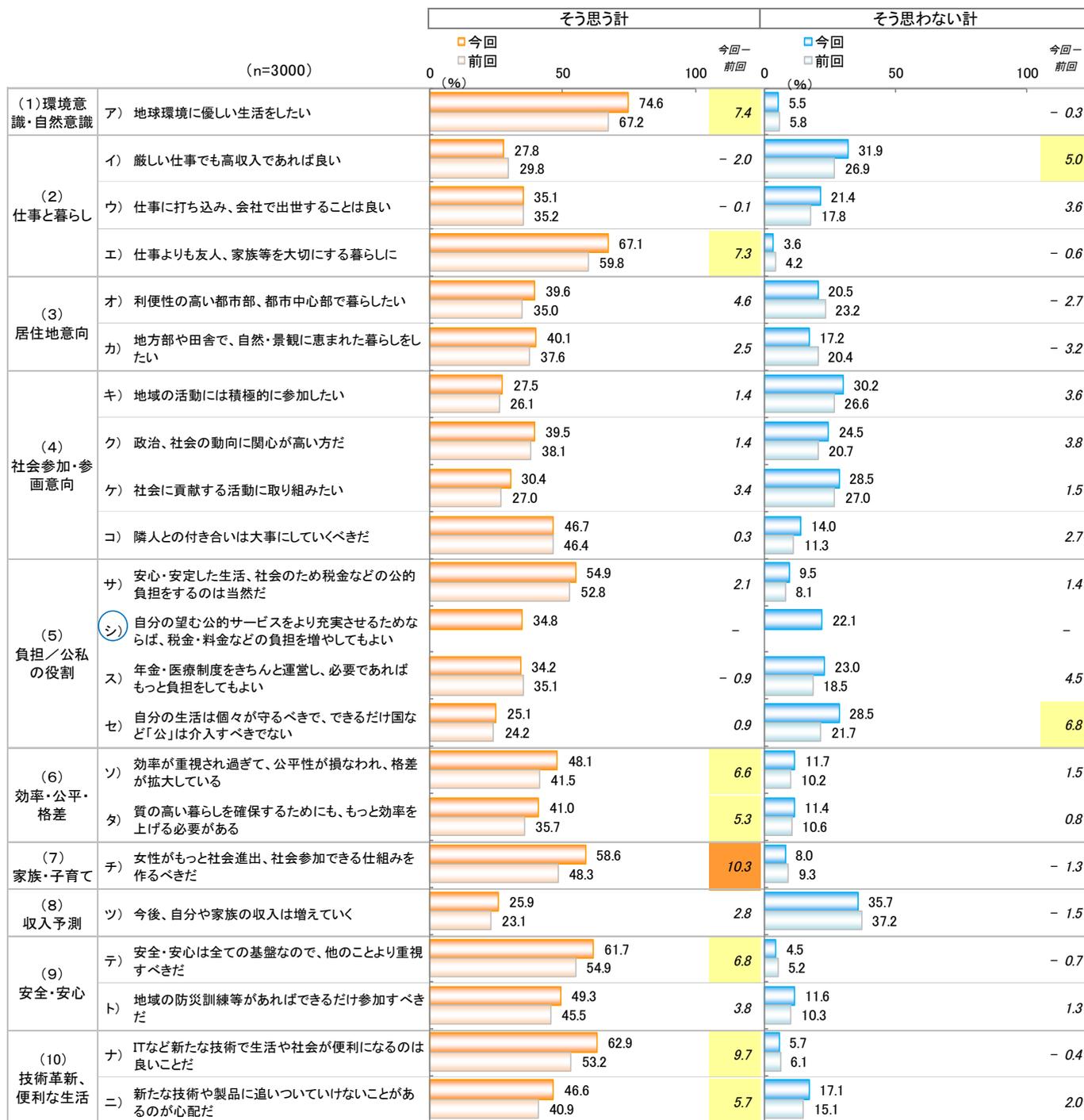
Q3. あなたご自身は、社会・生活において、どのような考えをお持ちですか。(それぞれひとつだけ)



■ 60%～ ■ 40%～59.9% ■ 30%～39.9% ■ 25%～29.9% ○ 新設問(2017 調査にない設問)

【前回比較】

・ 前回調査との比較では、「女性をもっと社会進出、社会参加できる仕組みを作るべきだ」がもっとも肯定的な回答の増加が大きく、唯一 10 ポイント以上増えている。逆に否定的な回答が増えている項目として、「厳しい仕事でも高収入であれば良い」、「自分の生活は個々が守るべきで、できるだけ国など「公」は介入すべきでない」の2つが上げられ、この2つの項目は 5 ポイント以上否定的な回答が増えている。



■ 10%～ ■ 5.0%～9.9% ■ -5.0%～-9.9% ■ -10%～ ○ 新設問(2017 調査にない設問)

Q3. あなたご自身は、社会・生活において、どのような考えや価値観をお持ちですか。(それぞれひとつだけ)

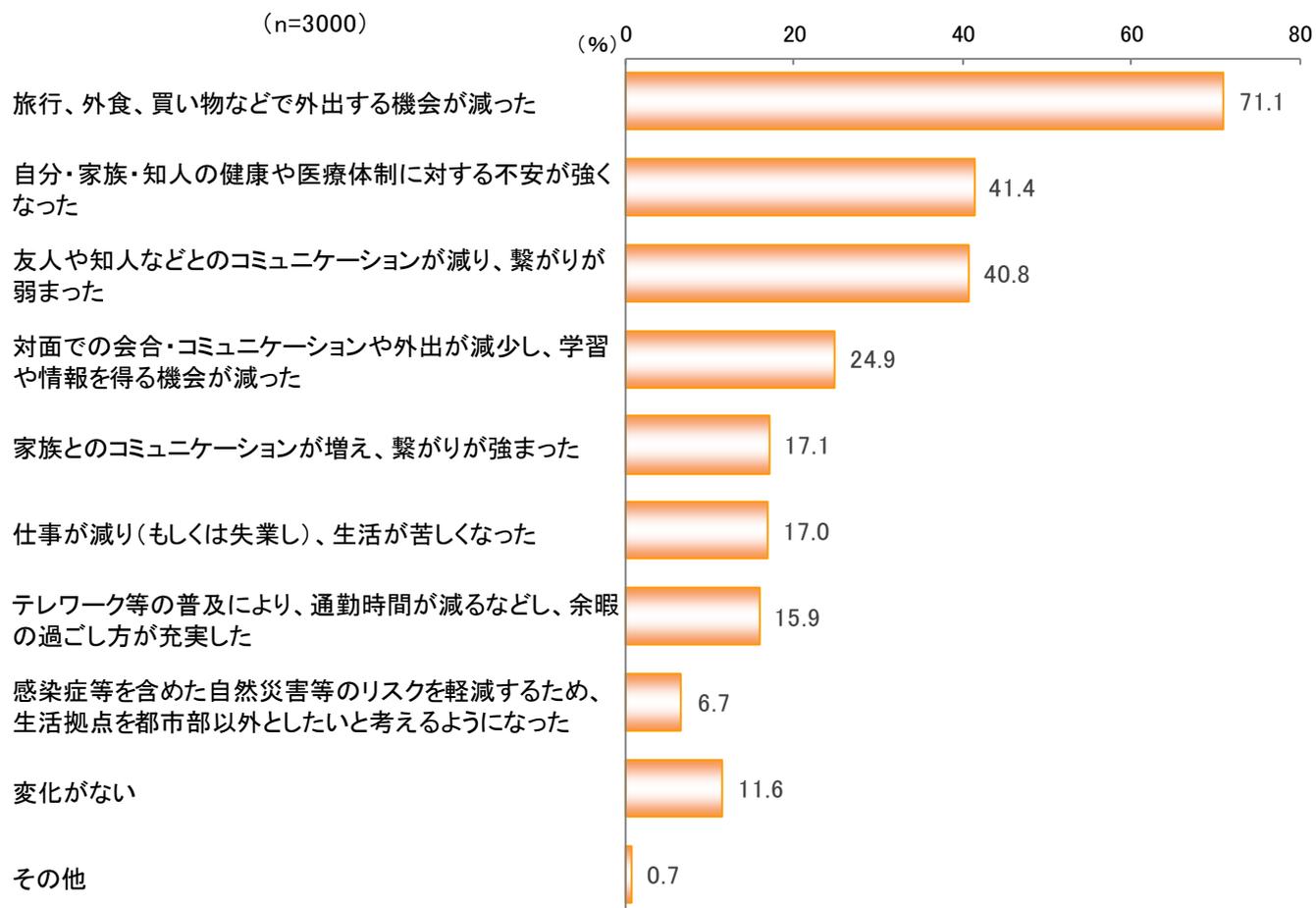
		(n=3000)					(%)	
		非常にそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	全くそう思わない	そう思う計	そう思わない計
(1) 環境意識・自然意識	ア) 地球環境に優しい生活をしたい	12.9	54.3	27.0	4.0	1.8	67.2	5.8
	イ) 自然や景観を守ることは大切だ	17.6	56.4	22.1	2.3	1.6	74.0	3.9
(2) 仕事と暮らし	ウ) 今の生活を変えるようなことにもチャレンジしたい	9.8	39.2	41.2	7.7	2.2	49.0	9.8
	エ) 自分にしかできない仕事をしたい	12.7	38.0	39.4	7.6	2.4	50.7	9.9
	オ) 厳しい仕事でも高収入であれば良い	7.1	22.7	43.3	20.4	6.5	29.8	26.9
	カ) 仕事に打ち込み、会社で出世することは良い	6.4	28.8	47.0	12.6	5.3	35.2	17.8
	キ) 仕事よりも友人、家族等を大切に暮らすに	14.8	44.9	36.0	2.7	1.5	59.8	4.2
(3) 居住地意向	ク) ほどよい利便性を持った都市の郊外で、快適な居住空間で暮らしたい	13.0	48.2	32.1	4.7	2.0	61.2	6.7
	ケ) 利便性の高い都市部、都市中心部で暮らしたい	8.3	26.8	41.8	17.7	5.5	35.0	23.2
	コ) 地方部や田舎で、自然・景観に恵まれた暮らしをしたい	7.6	30.0	42.0	14.6	5.8	37.6	20.4
(4) 社会参加・参画意向	サ) 地域の活動には積極的に参加したい	4.3	21.8	47.3	18.3	8.3	26.1	26.6
	シ) 政治、社会の動向に関心が高い方だ	7.5	30.6	41.2	15.0	5.6	38.1	20.7
	ス) 社会に貢献する活動に取り組みたい	5.0	22.0	46.0	18.8	8.2	27.0	27.0
	セ) 隣人との付き合いは大事にしていくべきだ	7.3	39.1	42.2	7.2	4.1	46.4	11.3
(5) 負担／公私の役割	ソ) 安心・安定した生活、社会のため税金などの公的負担をするのは当然だ	9.0	43.8	39.1	5.3	2.8	52.8	8.1
	タ) 自分の生活は個々が守るべきで、できるだけ国など「公」は介入すべきでない	5.2	19.1	54.0	17.3	4.4	24.2	21.7
	チ) 年金・医療制度をきちんと運営し、必要であればもっと負担をしてもよい	7.0	28.1	46.4	13.1	5.4	35.1	18.5
(6) 効率・公平・格差	ツ) 効率が重視され過ぎて、公平性が損なわれている	10.2	31.3	48.3	7.8	2.4	41.5	10.2
	テ) 質の高い暮らしを確保するためにも、もっと効率を上げる必要がある	6.9	28.8	53.7	8.3	2.3	35.7	10.6
	ト) 現在の日本は格差が拡大し過ぎている	13.5	35.2	40.3	8.2	2.8	48.7	11.0
	ナ) 現在の日本は公平が重視され過ぎていて、活力を失っている	7.4	25.8	51.0	12.4	3.3	33.2	15.7
(7) 家族・子育て	ニ) 夫は家事や育児を今よりずっと積極的に行うべきだ	9.9	34.2	47.2	6.1	2.6	44.1	8.7
	ヌ) 女性がもっと社会進出、社会参加できる仕組みを作るべきだ	10.5	37.9	42.4	6.3	3.0	48.3	9.3
(8) 収入予測	ネ) 今後、自分や家族の生活は良くなる	5.0	19.7	50.2	18.1	7.0	24.6	25.1
	ノ) 今後、自分や家族の収入は増えていく	4.6	18.5	39.8	26.3	10.8	23.1	37.2
(9) 安全・安心	ハ) 科学的、物理的に安全と言われても、安心できないこともたくさんある	13.9	42.9	36.1	4.9	2.1	56.8	7.1
	ヒ) 安全・安心は全ての基盤なので、他のことより重視すべきだ	12.7	42.2	39.9	3.7	1.5	54.9	5.2
	フ) 地域の防災訓練等があればできるだけ参加すべきだ	6.5	39.0	44.2	6.8	3.5	45.5	10.3
(10) 技術革新、便利な生活	ヘ) ITなど新たな技術で生活や社会が便利になるのは良いことだ	10.2	43.0	40.7	4.4	1.7	53.2	6.1
	ホ) 新たな技術や製品に追いついていけないことがあるのが心配だ	6.7	34.2	44.0	11.2	3.9	40.9	15.1

■ 60%～ ■ 40%～59.9% ■ 30%～39.9% ■ 25%～29.9%

■新型コロナウイルス感染症の発生を受けての変化

・ 約 9 割の者が変化があったと回答している。

Q3-1. 新型コロナウイルス感染症の発生を受けて、あなたご自身にどのような変化がありましたか？（該当するものすべて選択ください）

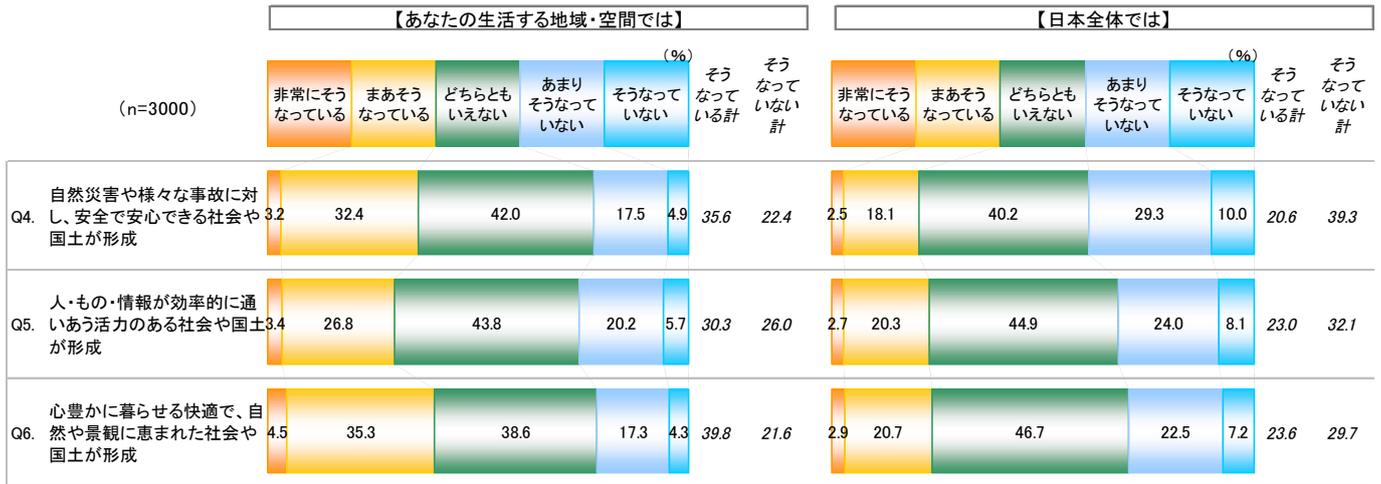


3. 社会・生活空間、国土に関する評価

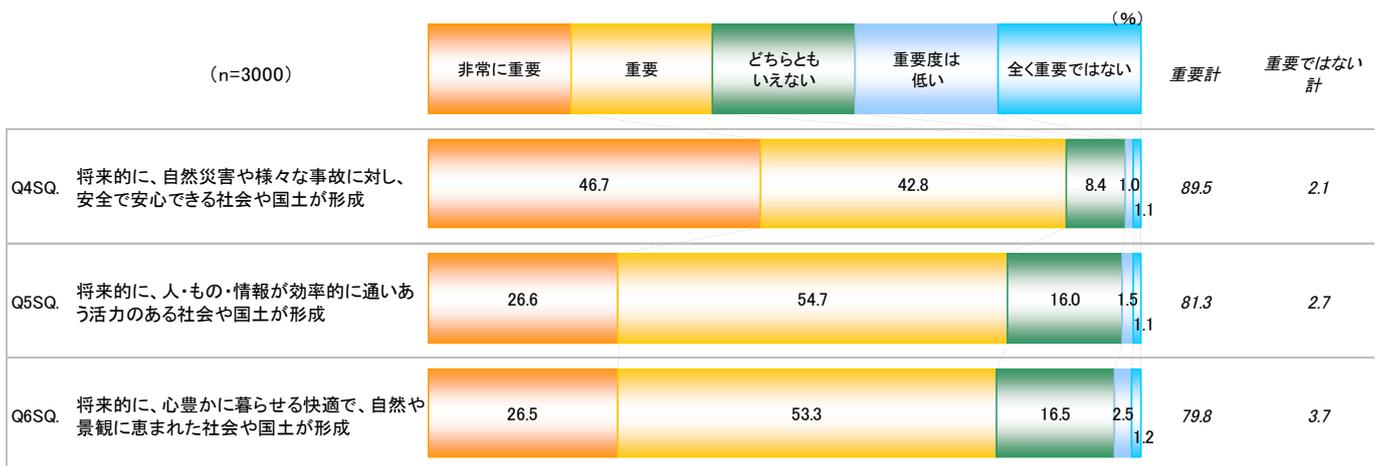
■社会・国土形成の3つの方向性の評価／重要度

- ・ 社会・国土形成は重要との認識は高く、「安全・安心」、「活力ある」、「心豊かに暮らせる」いずれの項目でも重要であるとの回答が8割程度以上となっている。
- ・ 一方で、社会・国土形成に関する現状評価については、「どちらともいえない」と回答している者が4～5割程度。

- Q4. 自然災害や様々な事故に対し、安全で安心できる社会や国土が形成されていると思いますか。(〇は一つずつ)
 Q5. 人・もの・情報が効率的に通いあう活力のある社会や国土が形成されていると思いますか。(〇は一つずつ)
 Q6. 心豊かに暮らせる快適で、自然や景観に恵まれた社会や国土が形成されていると思いますか。(〇は一つずつ)

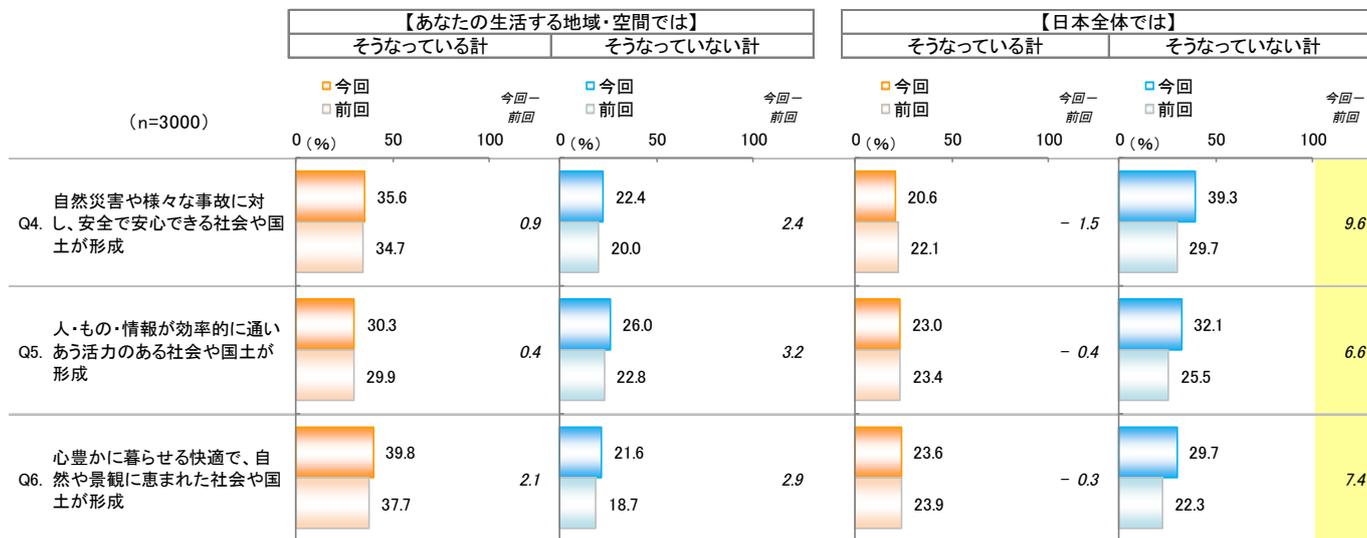


- Q4SQ. 将来的に、自然災害や様々な事故に対し、安全で安心できる社会や国土を形成していくことは、重要だと思いますか。(〇は一つ)
 Q5SQ. 将来的に、人・もの・情報が効率的に通いあう活力のある社会や国土を形成していくことは、重要だと思いますか。(〇は一つ)
 Q6SQ. 将来的に、心豊かに暮らせる快適で、自然や景観に恵まれた社会や国土を形成していくことは、重要だと思いますか。(〇は一つ)

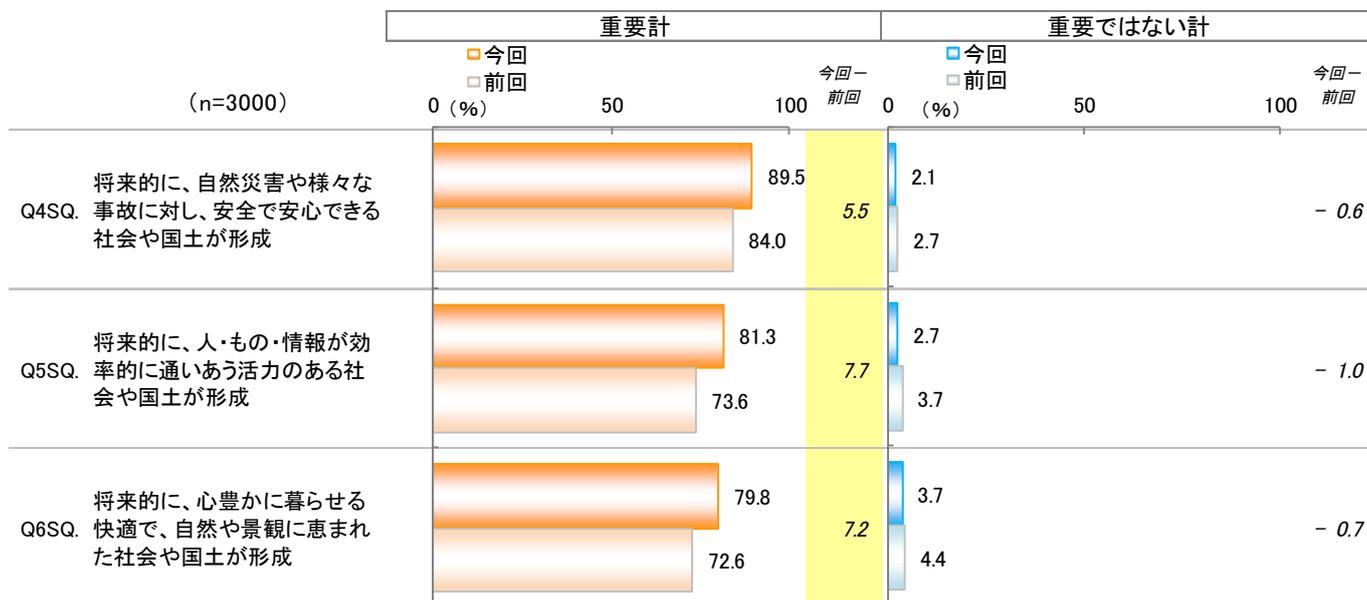


【前回比較】

・ 前回調査との比較では、日本全体の現状評価については、いずれの項目でも否定的な回答が 5 ポイント以上増えている。また、重要度については、いずれの項目でも重要であるとの回答が 5 ポイント以上増えている。

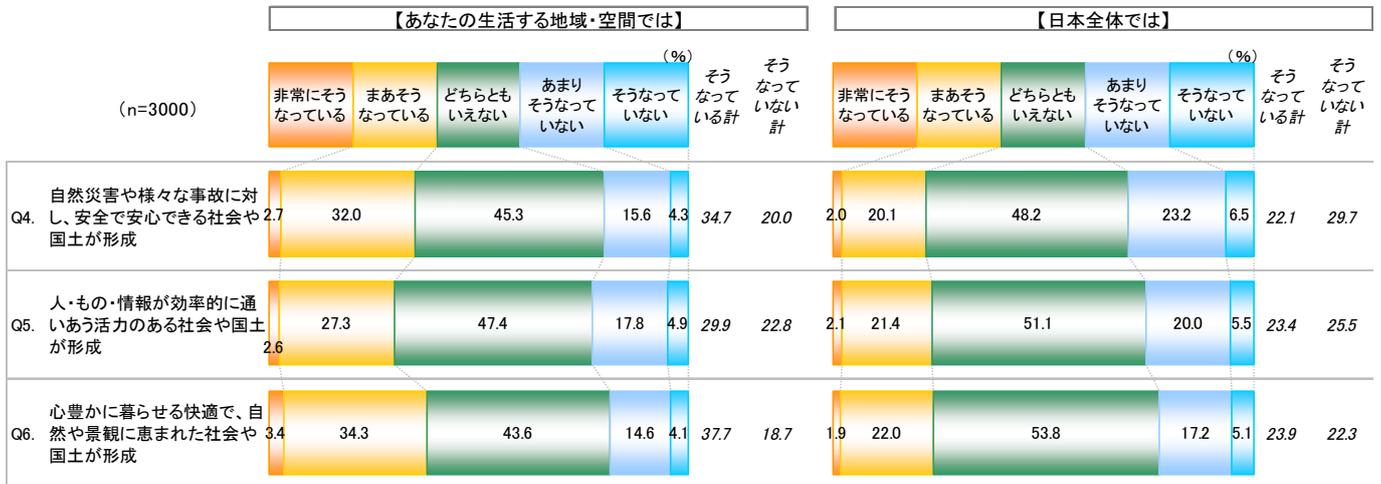


■ 10%～ ■ 5.0%～9.9% ■ -5.0%～-9.9% ■ -10%～

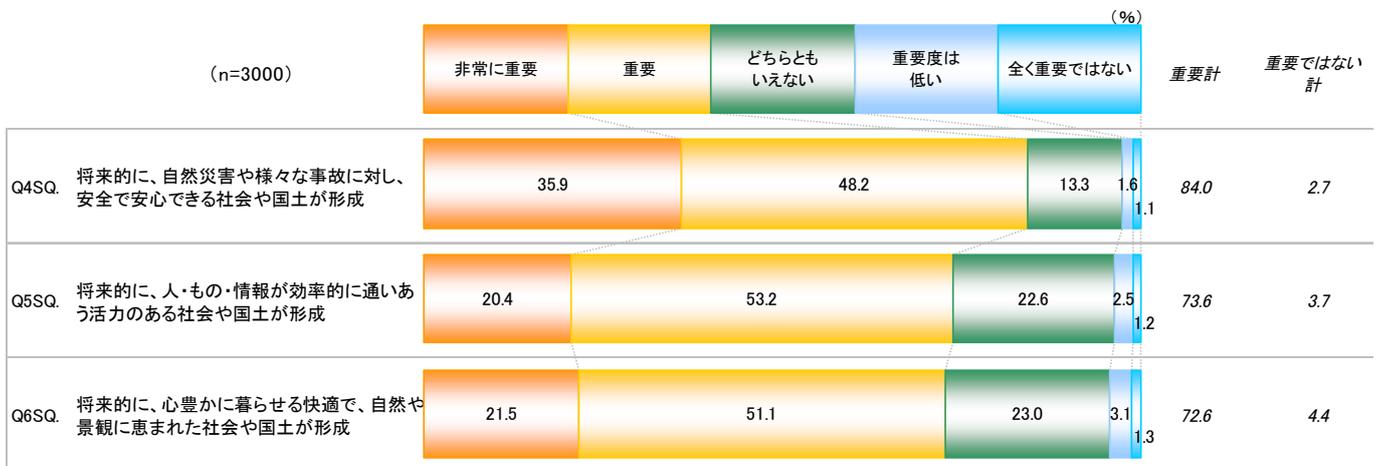


■ 10%～ ■ 5.0%～9.9% ■ -5.0%～-9.9% ■ -10%～

- Q4. 自然災害や様々な事故に対し、安全で安心できる社会や国土が形成されていると思いますか。(それぞれひとつだけ)
- Q5. 人・もの・情報が効率的に通いあう活力のある社会や国土が形成されていると思いますか。(それぞれひとつだけ)
- Q6. 心豊かに暮らせる快適で、自然や景観に恵まれた社会や国土が形成されていると思いますか。(それぞれひとつだけ)



- Q4SQ. 将来的に、自然災害や様々な事故に対し、安全で安心できる社会や国土を形成していくことは、重要だと思いますか。(○は一つ)
- Q5SQ. 将来的に、人・もの・情報が効率的に通いあう活力のある社会や国土を形成していくことは、重要だと思いますか。(○は一つ)
- Q6SQ. 将来的に、心豊かに暮らせる快適で、自然や景観に恵まれた社会や国土を形成していくことは、重要だと思いますか。(○は一つ)



4. 社会資本具体分野別の充足度評価、推進意向

■社会資本具体分野別の充足度評価(居住地域/日本全体)

・日本全体と居住地域での評価の差が大きい項目もある。「活力・交流関連の社会資本」では居住地域より日本全体が、「心豊かな暮らし関連」「安全・安心関連」では日本全体より居住地域が整備されていると評価される傾向がある。

Q7-1.「あなたの住む地域」について、次のインフラ(社会資本)は充足していると思いますか。(それぞれひとつだけ)

Q7-2.「日本全体」について、次のインフラ(社会資本)は充足していると思いますか。(それぞれひとつだけ)

		あなたの住む地域							日本全体										
		非常に充足している	充足している	どちらともいえない	あまり充足していない	ほとんど充足していない	わからない	(%)	充足している	充足していない	非常に充足している	充足している	どちらともいえない	あまり充足していない	ほとんど充足していない	わからない	(%)	充足している	充足していない
①安全・安心	ア) ◎ 河川の施設	3.0	30.3	39.9	15.6	8.7	3.3	33.3	19.1	2.0	15.5	37.2	30.2	7.5	7.7	17.5	37.7		
	イ) 海岸施設	2.6	16.4	50.4	12.3	3.4	14.8	19.1	15.7	1.8	14.3	39.3	28.3	7.1	9.1	16.1	35.5		
	ウ) 「命の道」としての高速道路や幹線道路	2.8	26.1	40.8	16.2	5.4	8.7	28.9	21.6	2.4	21.4	41.0	22.0	5.1	8.1	23.7	27.2		
	エ) 安全性の高い街	2.4	19.6	42.2	21.8	5.9	8.2	22.0	27.6	1.5	13.7	41.3	28.0	7.5	8.1	15.1	35.5		
	オ) 災害、避難情報などを収集・活用できる環境の整備	2.1	19.8	43.3	20.0	6.3	8.4	21.9	26.4	2.0	18.2	41.7	22.1	7.6	8.3	20.2	29.8		
	カ) ◎ 安全が確保された通学路、歩道	2.5	21.9	39.0	22.5	7.8	6.4	24.3	30.3	1.9	14.0	42.2	25.3	7.6	9.1	15.9	32.9		
②活力・交流	キ) 広域ネットワークを形成する高速道路・幹線道路	4.0	27.6	40.5	15.5	5.2	7.2	31.6	20.7	2.8	25.4	40.9	17.9	5.0	8.0	28.2	22.9		
	ク) ETCなどの設備	4.8	35.3	37.8	11.4	3.2	7.4	40.1	14.7	4.7	31.1	38.4	14.3	3.4	8.1	35.8	17.6		
	ケ) ● 広域ネットワークを形成する新幹線・高速鉄道	4.7	29.0	39.7	12.9	6.4	7.2	33.7	19.4	4.0	29.8	39.6	15.1	3.7	7.7	33.8	18.9		
	コ) ● 環状道路や放射状の道路	3.9	23.2	41.9	16.5	7.0	7.6	27.0	23.5	3.2	25.7	40.7	17.3	4.4	8.7	28.9	21.6		
	サ) ● 国際ハブ空港	3.1	16.3	41.1	16.6	13.0	10.0	19.4	29.6	3.3	22.4	37.4	20.2	7.1	9.6	25.7	27.3		
	シ) ● 遠隔地との交流を実現する空港・港湾	2.9	19.1	43.6	14.5	10.6	9.3	22.0	25.1	3.0	24.1	39.4	17.8	5.8	9.9	27.1	23.6		
	ス) ● 効率的な国際物流ネットワークを形成する港湾	2.1	16.0	45.2	14.2	9.7	12.7	18.1	24.0	2.9	20.7	41.5	17.3	5.6	12.1	23.6	22.8		
	セ) ● 交通機関の連携した総合的な交通ネットワーク	3.1	22.4	41.4	17.0	7.4	8.7	25.5	24.4	3.0	23.4	42.2	17.8	4.9	8.8	26.4	22.7		
	ソ) 日常生活や経済活動を支える物流網	4.7	34.4	38.5	12.2	3.4	6.6	39.2	15.7	5.3	32.8	38.8	12.7	3.5	6.9	38.1	16.2		
	タ) ● 交流を促す情報を収集・活用できる環境の整備	3.3	24.2	44.0	15.0	5.1	8.4	27.5	20.1	3.2	24.6	43.9	15.0	4.2	9.2	27.8	19.1		
③心豊かな暮らし	チ) ● 中心市街地を活性化する都市整備	3.3	25.5	39.8	18.0	6.9	6.5	28.8	24.9	3.8	26.7	40.8	16.2	4.6	8.0	30.5	20.8		
	ツ) ◎ 地域の道路	5.2	35.3	37.9	13.3	3.9	4.4	40.5	17.2	3.6	28.8	41.4	15.3	4.0	6.9	32.4	19.4		
	テ) 地域の交通機関(鉄道、バス)	6.3	29.5	34.1	17.7	8.0	4.4	35.8	25.7	4.0	25.2	40.2	18.9	4.8	6.7	29.2	23.9		
	ト) ◎ 公園・緑地、スポーツレクリエーション施設	5.9	34.4	34.6	15.9	5.5	3.7	40.3	21.4	3.5	24.5	43.0	17.2	4.8	7.0	28.0	22.0		
	ナ) ◎ 医療、福祉、子育て、教育文化施設	3.5	27.3	40.7	17.9	4.9	5.6	30.8	22.8	2.1	18.0	42.6	23.1	7.2	7.0	20.2	30.2		
	ニ) ◎ 安全でおいしい水を供給する上水道	10.6	47.1	27.8	8.0	4.2	2.9	57.7	10.3	10.6	37.3	33.5	9.2	3.2	6.2	47.9	12.4		
	ヌ) ◎ 下水道などの汚水処理施設	7.9	44.0	30.7	8.6	3.2	5.6	51.9	11.8	7.8	34.1	37.1	10.7	2.9	7.4	41.9	13.6		
	ネ) ◎ 恵まれた自然景観	9.1	36.4	35.5	11.2	4.1	3.7	45.5	15.3	4.1	27.1	44.5	14.2	3.9	6.2	31.2	18.1		
	ノ) ● 脱炭素社会を実現するための社会基盤	7.9	48.0	19.5	7.2	14.1	11.1	26.8	20.6	20.1	43.8	23.1	8.9	12.0	12.3	32.0			
	ハ) 質の高い居住・生活空間	3.2	23.8	46.0	16.2	4.9	5.9	27.0	21.1	2.7	17.2	47.4	19.1	5.6	8.1	19.9	24.7		
ヒ) 生活を快適にする道路利用や景観を良くする無電柱化	2.2	12.8	36.6	22.4	17.8	8.2	15.0	40.2	1.8	13.1	39.7	22.9	13.2	9.3	14.9	36.1			
フ) 快適な生活に必要な情報を収集・活用できる環境の整備	2.4	20.3	43.5	18.2	7.2	8.4	22.8	25.4	2.8	19.2	44.7	17.7	6.1	9.5	22.1	23.7			

■ 40%～ ■ 30%～39.9% ■ 20%～29.9% ■ 10%～19.9%

●日本全体が居住地域を上回る ◎居住地域と日本全体8ポイント以上差 ○新設問(2017 調査にない設問)

【前回比較】

・ 前回調査と比較すると、「河川の施設」、「海岸施設」、「安全性の高い街」については、日本全体の「充足していない計」が5ポイント以上増えている。一方で、「活力・交流」、「心豊かな暮らし」に関する社会資本については、「充足している計」が5ポイント以上増えている項目が少なからずある。



※ヒ)生活を快適にする道路利用や景観を良くする無電柱化：2017年は2項目で聴取。(2017年項目：ノ)景観を良くするための無電柱化／ハ)カフェなど生活を快適にする道路利用)

■ 10%～ ■ 5.0%～9.9% ■ -5.0%～-9.9% ■ -10%～ ○ 新設問(2017 調査にない設問)

Q7-1.「あなたの住む地域」について、次のインフラ(社会資本)は充足していると思いますか。(それぞれひとつだけ)

Q7-2.「日本全体」について、次のインフラ(社会資本)は充足していると思いますか。(それぞれひとつだけ)

		あなたの住む地域							日本全体						
(n=3000)		(%)							(%)						
		非常に充足している	充足している	どちらともいえない	あまり充足していない	ほとんど充足していない	充足している計	充足していない計	非常に充足している	充足している	どちらともいえない	あまり充足していない	ほとんど充足していない	充足している計	充足していない計
① 安全・安心	ア) ◎ 河川の施設	2.4	31.0	50.1	13.9	2.6	33.4	16.4	1.7	17.4	55.7	21.9	3.4	19.1	25.3
	イ) 海岸施設	2.2	19.9	60.0	14.2	3.7	22.1	17.9	1.7	15.6	56.2	21.9	4.5	17.3	26.4
	ウ) 「命の道」としての高速道路や幹線道路	2.6	24.2	51.1	17.8	4.3	26.8	22.1	1.9	19.7	55.6	19.0	3.8	21.6	22.8
	エ) 安全性の高い街	1.7	17.0	54.9	22.3	4.1	18.6	26.5	1.7	13.3	56.0	24.6	4.4	14.9	29.0
	オ) 避難路・避難場所などの施設	2.1	22.2	52.4	19.7	3.5	24.3	23.2	2.0	15.8	56.3	21.9	4.0	17.7	25.9
② 活力・交流	カ) 安全が確保された通学路、歩道	1.8	17.5	52.1	23.5	5.1	19.3	28.7	1.6	12.4	55.9	25.5	4.6	14.0	30.1
	キ) 広域ネットワークを形成する高速道路・幹線道路	2.5	25.2	51.0	16.6	4.6	27.7	21.3	2.7	22.0	54.6	17.1	3.6	24.7	20.7
	ク) ETCなどの設備	3.7	30.4	50.6	11.5	3.8	34.1	15.3	3.4	25.3	55.0	13.2	3.1	28.7	16.3
	ケ) 広域ネットワークを形成する新幹線・高速鉄道	3.3	25.3	49.2	15.7	6.6	28.5	22.3	3.4	22.9	55.4	14.7	3.6	26.3	18.3
	コ) 環状道路や放射状の道路	2.1	20.2	50.6	19.6	7.5	22.3	27.1	2.3	18.6	57.4	17.7	4.0	20.9	21.7
	サ) ● 国際ハブ空港	2.0	14.9	48.2	20.2	14.7	16.8	34.9	2.7	17.4	52.3	21.6	6.0	20.1	27.6
	シ) ● 遠隔地との交流を実現する空港	2.3	16.1	50.8	18.4	12.5	18.3	30.8	2.8	19.1	55.2	18.1	4.7	22.0	22.9
	ス) ● 海運を担う港湾	2.3	18.8	54.1	16.2	8.6	21.1	24.8	2.4	19.4	58.4	15.9	3.9	21.8	19.8
	セ) 地域間・都市間の移動を支える交通機関(鉄道、バス)	3.8	24.7	48.3	17.9	5.2	28.5	23.1	3.2	20.9	55.7	17.0	3.3	24.0	20.3
	ソ) 高速で大容量の通信ネットワーク	3.1	22.3	55.6	14.2	4.8	25.4	19.0	3.9	21.3	57.3	13.9	3.6	25.2	17.5
③ 心豊かな暮らし	タ) ● 中心市街地を活性化する都市整備	2.6	21.3	52.5	17.9	5.7	23.9	23.6	2.6	21.6	57.5	14.9	3.3	24.3	18.2
	チ) ◎ 地域の道路	3.1	30.5	49.2	13.7	3.5	33.6	17.3	2.4	21.8	57.1	15.4	3.2	24.2	18.7
	ツ) 地域の交通機関(鉄道、バス)	4.2	24.6	47.0	18.2	6.0	28.8	24.2	2.4	20.7	55.5	17.6	3.8	23.1	21.4
	テ) ◎ 公園・緑地、スポーツレクリエーション施設	3.6	28.3	47.3	17.2	3.6	32.0	20.8	2.5	21.0	56.8	16.5	3.3	23.4	19.8
	ト) 医療、福祉、子育て、教育文化施設	2.8	23.3	52.0	18.0	3.8	26.1	21.9	2.3	16.1	55.6	21.6	4.4	18.4	26.0
	ナ) ◎ 安全でおいしい水を供給する上水道	8.2	37.9	43.2	8.4	2.2	46.2	10.6	6.6	30.8	49.3	10.8	2.6	37.3	13.3
	ニ) ◎ 下水道などの汚水処理施設	5.4	35.9	46.4	9.6	2.7	41.3	12.3	5.3	27.2	53.4	11.5	2.7	32.5	14.2
	ヌ) ◎ 恵まれた自然景観	5.9	32.6	47.4	11.5	2.6	38.5	14.1	3.0	23.5	58.3	12.2	3.0	26.6	15.2
ネ) 質の高い居住・生活空間	2.6	23.2	57.1	13.8	3.4	25.7	17.2	2.5	17.3	60.5	16.4	3.3	19.8	19.7	
ノ) ● 景観を良くするための無電柱化	1.6	7.8	40.9	26.1	23.6	9.4	49.7	1.4	8.6	48.2	27.0	14.8	10.0	41.8	
ハ) カフェなど生活を快適にする道路利用	2.0	14.3	54.5	20.7	8.4	16.4	29.1	2.2	13.3	60.9	18.5	5.1	15.5	23.6	

● 40%～ 30%～39.9% 20%～29.9% 10%～19.9%
 ● 日本全体が居住地域を上回る ◎ 居住地域と日本全体8ポイント以上差

■居住地域に関する社会資本具体分野別の充足度評価（地域ブロック別・都市規模別）

- ・ 地域ブロック別で評価が大きく異なる。四国ブロック、中国ブロック、北陸ブロック、東北ブロック、北海道ブロックで充足度評価が低い。
- ・ 都市規模別でも評価が大きく異なる。地方圏の 30 万人以下の市町村（県庁所在地を除く）の充足度評価が低い。
- ・ 地域ブロック別、都市規模別、両者とも、活力・交流に関する分野で差が大きい。

●安全・安心

Q7-1.「あなたの住む地域」について、次のインフラ（社会資本）は充足していると思いますか。（それぞれひとつだけ）

(%)

		n	●安全・安心					
充足していない計			ア)河川の施設	イ)海岸施設	ウ)「命の道」としての高速道路や幹線道路	エ)安全性の高い街	オ)災害、避難情報などを収集・活用できる環境の整備	カ)安全が確保された通学路、歩道
全体		3000	19.1	15.7	21.6	27.6	26.4	30.3
地域ブロック別	北海道ブロック	120	21.7	21.7	31.7	32.5	25.0	32.5
	東北ブロック	210	24.8	16.7	24.3	26.7	30.5	33.8
	関東ブロック	1070	18.1	12.3	18.0	25.0	23.7	27.9
	北陸ブロック	120	15.8	20.8	27.5	28.3	25.0	27.5
	中部ブロック	360	19.7	16.7	20.8	31.1	28.1	33.6
	近畿ブロック	510	14.7	13.9	17.6	24.1	25.3	29.8
	中国ブロック	180	25.0	20.6	28.9	34.4	32.8	33.9
	四国ブロック	100	25.0	24.0	35.0	36.0	35.0	30.0
都市規模別	九州・沖縄ブロック	330	20.3	18.8	24.8	30.0	27.0	31.5
	三大都市圏の政令指定都市及び東京23区	846	15.8	13.7	12.3	21.9	21.3	24.9
	三大都市圏の県庁所在地及び人口30万人以上の都市	302	17.9	14.6	18.9	25.2	25.2	29.1
	三大都市圏の上記以外の地域	499	16.8	12.2	22.0	29.1	29.1	34.5
	地方中枢都市	254	14.2	13.8	15.4	21.3	19.3	23.6
	地方中核都市人口30万人以上の都市及び県庁所在地	248	25.4	19.8	27.0	31.9	26.6	33.5
	地方圏のその他の市	557	25.5	21.0	32.3	34.5	34.3	34.8
地方圏の町村	202	21.3	18.3	35.6	39.6	35.1	37.6	

■全体より10ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上低い ■全体より10ポイント以上低い

○新設問(2017調査にない設問)

●活力・交流

Q7-1.「あなたの住む地域」について、次のインフラ(社会資本)は充足していると思いますか。(それぞれひとつだけ)

(%)

		n	●活力・交流										
			キ)広域ネットワークを形成する高速道路・幹線道路	ク)ETCなどの設備	ケ)広域ネットワークを形成する新幹線・高速鉄道	コ)環状道路や放射状の道路	サ)国際ハブ空港	シ)遠隔地との交流を実現する空港・港湾	ス)効率的な国際物流ネットワークを形成する港湾	セ)交通機関の連携した総合的な交通ネットワーク	ソ)日常生活や経済活動を支える物流網	タ)交流を促す情報を収集・活用できる環境の整備	チ)中心市街地を活性化する都市整備
全体		3000	20.7	14.7	19.4	23.5	29.6	25.1	24.0	24.4	15.7	20.1	24.9
地域ブロック別	北海道ブロック	120	29.2	17.5	34.2	31.7	36.7	31.7	25.0	32.5	22.5	28.3	27.5
	東北ブロック	210	29.5	20.0	25.7	33.8	40.5	32.9	31.0	38.6	25.2	28.1	35.7
	関東ブロック	1070	15.9	10.3	13.3	15.9	21.5	18.7	17.4	16.4	10.2	14.8	19.0
	北陸ブロック	120	25.0	17.5	20.0	25.8	45.0	34.2	31.7	30.0	24.2	25.8	33.3
	中部ブロック	360	20.6	13.9	17.5	22.5	26.7	24.7	21.1	21.9	15.3	20.0	27.2
	近畿ブロック	510	18.8	15.3	17.3	22.7	27.3	23.7	25.1	22.0	14.5	16.7	21.4
	中国ブロック	180	26.7	23.3	25.6	33.3	42.2	36.7	33.9	35.0	21.1	26.7	32.8
	四国ブロック	100	32.0	19.0	42.0	45.0	59.0	41.0	46.0	47.0	29.0	36.0	41.0
	九州・沖縄ブロック	330	22.1	17.3	24.5	28.2	31.8	27.0	27.0	30.3	17.0	24.5	27.3
都市規模別	三大都市圏の政令指定都市及び東京23区	846	13.8	9.7	10.6	13.5	19.7	16.0	16.2	13.2	8.9	13.1	14.1
	三大都市圏の県庁所在地及び人口30万人以上の都市	302	16.6	8.6	16.9	18.9	22.8	23.2	20.5	18.5	9.3	15.2	20.5
	三大都市圏の上記以外の地域	499	21.8	15.6	18.4	23.0	26.1	23.4	22.0	23.2	16.4	20.2	26.7
	地方中枢都市	254	14.6	7.1	15.0	18.1	26.8	18.9	17.7	20.5	13.0	15.4	14.6
	地方中核都市人口30万人以上の都市及び県庁所在地	248	22.2	16.1	24.6	32.3	44.4	35.9	34.3	34.3	16.9	21.8	32.7
	地方圏のその他の市	557	30.3	22.4	30.0	35.5	44.3	37.3	35.4	40.2	24.8	30.9	40.2
	地方圏の町村	202	34.7	26.7	32.2	38.1	37.6	34.7	33.2	36.6	27.7	31.7	34.2

■ 全体より10ポイント以上高い ■ 全体より5ポイント以上高い ■ 全体より5ポイント以上低い ■ 全体より10ポイント以上低い

○ 新設問(2017調査にない設問)

●心豊かな暮らし

Q7-1.「あなたの住む地域」について、次のインフラ(社会資本)は充足していると思いますか。(それぞれひとつだけ)

(%)

		n	●心豊かな暮らし										ひとつもない	
			ツ) 地域の道路	テ) 地域の交通機関(鉄道、バス)	ト) 公園・緑地、スポーツレクリエーション施設	ナ) 医療、福祉、子育て、教育文化施設	ニ) 安全でおいしい水を供給する上水道	ヌ) 下水道などの污水处理施設	ネ) 恵まれた自然景観	ノ) 脱炭素社会を実現するための社会基盤	ハ) 質の高い居住・生活空間	ヒ) 生活を快適にする道路利用や景観を良くする無電柱化		フ) 快適な生活に必要な情報を収集・活用できる環境の整備
全体		3000	17.2	25.7	21.4	22.8	10.3	11.8	15.3	26.8	21.1	40.2	25.4	29.6
地域ブロック別	北海道ブロック	120	18.3	34.2	21.7	35.8	10.8	11.7	10.0	30.0	21.7	41.7	25.8	26.7
	東北ブロック	210	24.3	41.0	30.0	30.5	11.4	16.7	9.5	26.2	28.1	47.6	35.2	25.7
	関東ブロック	1070	13.6	17.1	16.3	19.2	10.3	10.9	17.5	25.0	18.8	35.9	19.3	33.1
	北陸ブロック	120	20.0	35.8	25.0	26.7	8.3	8.3	9.2	27.5	20.8	35.8	29.2	27.5
	中部ブロック	360	16.1	30.0	25.8	25.3	8.1	14.2	16.4	32.5	20.3	43.1	27.8	28.9
	近畿ブロック	510	14.5	20.6	19.4	18.8	11.0	8.4	19.0	26.3	21.4	40.6	22.7	28.8
	中国ブロック	180	23.9	32.2	24.4	22.2	10.6	12.2	15.6	30.6	24.4	38.9	36.1	26.1
	四国ブロック	100	29.0	42.0	36.0	37.0	17.0	26.0	11.0	32.0	26.0	57.0	41.0	23.0
	九州・沖縄ブロック	330	20.9	31.8	23.3	23.3	9.7	11.2	10.6	22.4	21.5	42.1	28.2	28.2
都市規模別	三大都市圏の政令指定都市及び東京23区	846	10.9	12.9	14.8	16.4	11.1	8.0	23.0	25.9	18.7	33.2	16.7	36.2
	三大都市圏の県庁所在地及び人口30万人以上の都市	302	14.2	17.2	16.9	19.9	7.6	9.3	15.2	29.1	18.2	36.8	21.5	31.1
	三大都市圏の上記以外の地域	499	16.0	26.3	23.2	25.1	9.0	13.4	12.8	27.3	21.2	46.3	28.3	26.5
	地方中枢都市	254	15.7	15.4	15.0	19.7	7.1	6.7	11.4	20.9	13.8	38.6	20.1	36.2
	地方中核都市人口30万人以上の都市及び県庁所在地	248	19.8	35.9	27.8	24.6	11.7	11.7	10.1	26.2	25.0	42.3	32.3	24.2
	地方圏のその他の市	557	25.7	44.0	28.5	29.4	12.6	17.6	11.5	30.0	26.2	46.3	36.1	21.2
	地方圏の町村	202	25.7	47.0	34.7	33.2	10.9	17.8	10.4	27.2	27.7	46.0	33.2	25.2

■ 全体より10ポイント以上高い ■ 全体より5ポイント以上高い ■ 全体より5ポイント以上低い ■ 全体より10ポイント以上低い

○ 新設問(2017調査にない設問)

■社会資本具体分野別の推進意向(生活地域/日本全体)

・日本全体では、全ての分野で推進意向が高いとの回答の割合が7割を超えており、全体的に推進の意向は高い。

Q7-3.「あなたの住む地域」について、インフラ(社会資本)のそれぞれについてどの程度充足・整備していくべきと思いますか。(それぞれひとつだけ)

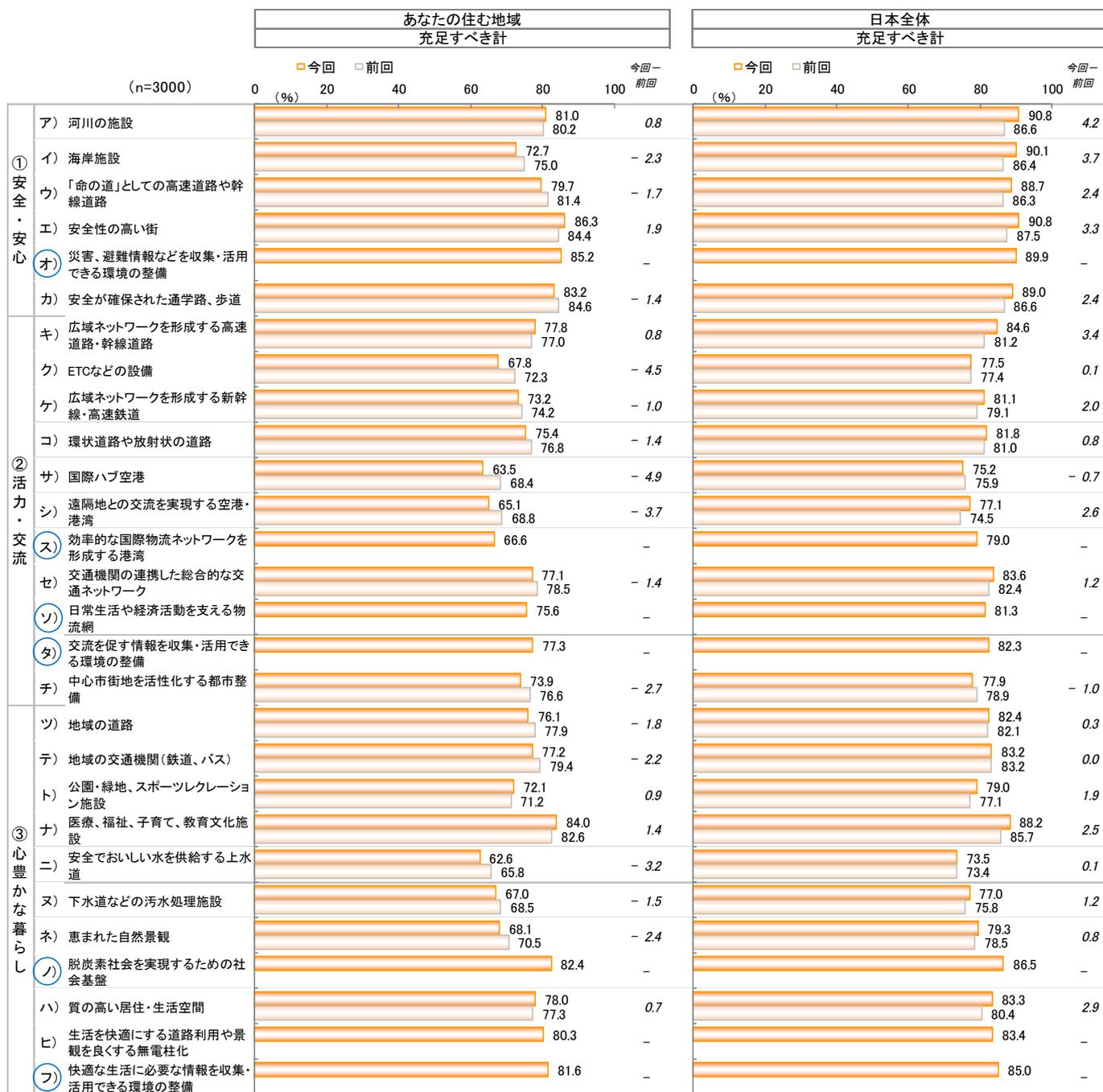
Q7-4.「日本全体」について、インフラ(社会資本)のそれぞれについてどの程度充足・整備していくべきと思いますか。(それぞれひとつだけ)

	あなたの住む地域				日本全体			
	(n=3000)				(n)			
	特に早急に充足していくべき	他とのバランスを見ながら計画的に充足すべき	現状で十分	充足すべき	特に早急に充足していくべき	他とのバランスを見ながら計画的に充足すべき	現状で十分	充足すべき
ア) 河川の施設	23.7	57.3	19.0	81.0	39.3	51.4	9.2	90.8
イ) 海岸施設	18.5	54.1	27.3	72.7	37.9	52.2	9.9	90.1
ウ) 「命の道」としての高速道路や幹線道路	21.4	58.3	20.3	79.7	34.4	54.3	11.3	88.7
エ) 安全性の高い街	27.7	58.6	13.7	86.3	35.8	55.0	9.2	90.8
オ) 災害、避難情報などを収集・活用できる環境の整備	25.5	59.7	14.8	85.2	31.9	58.1	10.1	89.9
カ) 安全が確保された通学路、歩道	27.0	56.2	16.8	83.2	28.5	60.5	11.0	89.0
キ) 広域ネットワークを形成する高速道路・幹線道路	15.6	62.2	22.2	77.8	20.7	63.8	15.4	84.6
ク) ETCなどの設備	10.0	57.7	32.2	67.8	14.2	63.3	22.5	77.5
ケ) 広域ネットワークを形成する新幹線・高速鉄道	12.4	60.8	26.8	73.2	16.3	64.8	18.9	81.1
コ) 環状道路や放射状の道路	12.9	62.6	24.6	75.4	16.2	65.6	18.2	81.8
サ) 国際ハブ空港	10.9	52.6	36.5	63.5	16.3	59.0	24.8	75.2
シ) 遠隔地との交流を実現する空港・港湾	9.9	55.2	34.9	65.1	15.0	62.1	22.9	77.1
ス) 効率的な国際物流ネットワークを形成する港湾	10.2	56.4	33.4	66.6	15.3	63.7	21.0	79.0
セ) 交通機関の連携した総合的な交通ネットワーク	12.6	64.5	22.9	77.1	16.2	67.5	16.4	83.6
ソ) 日常生活や経済活動を支える物流網	14.0	61.6	24.4	75.6	17.9	63.4	18.7	81.3
タ) 交流を促す情報を収集・活用できる環境の整備	12.5	64.8	22.7	77.3	16.1	66.2	17.7	82.3
チ) 中心市街地を活性化する都市整備	11.9	62.0	26.1	73.9	13.3	64.6	22.1	77.9
ツ) 地域の道路	16.2	59.9	23.9	76.1	17.1	65.2	17.6	82.4
テ) 地域の交通機関(鉄道、バス)	17.0	60.2	22.8	77.2	18.6	64.6	16.8	83.2
ト) 公園・緑地、スポーツレクリエーション施設	13.4	58.7	27.9	72.1	15.9	63.1	21.0	79.0
ナ) 医療、福祉、子育て、教育文化施設	27.4	56.6	16.0	84.0	32.3	55.9	11.8	88.2
ニ) 安全でおいしい水を供給する上水道	15.6	47.0	37.4	62.6	19.1	54.5	26.5	73.5
ヌ) 下水道などの汚水処理施設	16.4	50.6	33.0	67.0	19.2	57.7	23.0	77.0
ネ) 恵まれた自然景観	13.5	54.6	31.9	68.1	17.2	62.1	20.7	79.3
ノ) 脱炭素社会を実現するための社会基盤	19.1	63.3	17.6	82.4	23.1	63.4	13.5	86.5
ハ) 質の高い居住・生活空間	13.8	64.2	22.0	78.0	16.6	66.7	16.7	83.3
ヒ) 生活を快適にする道路利用や景観を良くする無電柱化	14.4	65.9	19.7	80.3	16.1	67.4	16.6	83.4
フ) 快適な生活に必要な情報を収集・活用できる環境の整備	13.6	68.0	18.4	81.6	17.0	68.0	15.0	85.0

■84%～ ■80%～83.9% ■75%～79.9% ■70%～74.9% ○新設問(2017調査にない設問)

【前回比較】

・ 前回調査と比較すると、前回より充足すべき計の割合が5ポイント以上増減したものはなく、比較的变化は少ない。



※ヒ) 生活を快適にする道路利用や景観を良くする無電柱化:2017年は2項目で聴取。(2017年項目:ノ)景観を良くするための無電柱化/ハ)カフェなど生活を快適にする道路利用)

■ 10%～ ■ 5.0%～9.9% ■ -5.0%～-9.9% ■ -10%～ ○ 新設問(2017 調査にない設問)

Q7-3.「あなたの住む地域」について、インフラ(社会資本)のそれぞれについてどの程度充足・整備していくべきと思いますか。(それぞれひとつだけ)

Q7-4.「日本全体」について、インフラ(社会資本)のそれぞれについてどの程度充足・整備していくべきと思いますか。(それぞれひとつだけ)

(n=3000)	あなたの住む地域				日本全体			
	(%)				(%)			
	特に早急に充足していくべき	他とのバランスを見ながら計画的に充足すべき	現状で十分	充足すべき計	特に早急に充足していくべき	他とのバランスを見ながら計画的に充足すべき	現状で十分	充足すべき計
ア) 河川の施設	18.7	61.5	19.8	80.2	26.5	60.0	13.4	86.6
イ) 海岸施設	16.4	58.5	25.0	75.0	26.4	60.0	13.6	86.4
ウ) 「命の道」としての高速道路や幹線道路	22.1	59.3	18.6	81.4	27.4	58.9	13.7	86.3
エ) 安全性の高い街	22.5	62.0	15.6	84.4	28.1	59.4	12.5	87.5
オ) 避難路・避難場所などの施設	27.2	57.1	15.6	84.4	29.7	57.8	12.5	87.5
カ) 安全が確保された通学路、歩道	25.1	59.5	15.4	84.6	25.9	60.8	13.4	86.6
キ) 広域ネットワークを形成する高速道路・幹線道路	13.8	63.2	23.0	77.0	16.0	65.1	18.8	81.2
ク) ETCなどの設備	10.6	61.7	27.7	72.3	12.8	64.6	22.6	77.4
ケ) 広域ネットワークを形成する新幹線・高速鉄道	12.2	61.9	25.8	74.2	13.2	65.9	20.9	79.1
コ) 環状道路や放射状の道路	11.4	65.4	23.2	76.8	13.7	67.2	19.0	81.0
サ) 国際ハブ空港	10.9	57.5	31.6	68.4	13.7	62.2	24.1	75.9
シ) 遠隔地との交流を実現する空港	10.1	58.7	31.2	68.8	12.1	62.5	25.5	74.5
ス) 海運を担う港湾	8.7	58.7	32.6	67.4	11.6	64.5	23.9	76.1
セ) 地域間・都市間の移動を支える交通機関(鉄道、バス)	15.6	62.9	21.5	78.5	14.3	68.1	17.6	82.4
ソ) 高速で大容量の通信ネットワーク	13.0	63.5	23.5	76.5	14.2	65.8	20.0	80.0
タ) 中心市街地を活性化する都市整備	11.0	65.7	23.4	76.6	11.2	67.7	21.1	78.9
チ) 地域の道路	14.6	63.3	22.1	77.9	14.1	68.0	17.9	82.1
ツ) 地域の交通機関(鉄道、バス)	16.9	62.5	20.6	79.4	16.1	67.1	16.8	83.2
テ) 公園・緑地、スポーツレクリエーション施設	10.4	60.8	28.8	71.2	11.1	66.0	22.9	77.1
ト) 医療、福祉、子育て、教育文化施設	24.4	58.2	17.4	82.6	25.4	60.3	14.3	85.7
ナ) 安全でおいしい水を供給する上下水道	12.9	52.9	34.2	65.8	15.0	58.4	26.6	73.4
ニ) 下水道などの汚水処理施設	12.0	56.5	31.5	68.5	13.9	61.9	24.2	75.8
ヌ) 恵まれた自然景観	10.7	59.8	29.5	70.5	13.3	65.2	21.5	78.5
ネ) 質の高い居住・生活空間	11.6	65.6	22.7	77.3	13.0	67.4	19.6	80.4
ノ) 景観を良くするための無電柱化	14.5	64.9	20.6	79.4	14.8	66.8	18.4	81.6
ハ) カフェなど生活を快適にする道路利用	9.2	60.9	29.8	70.2	8.7	65.9	25.4	74.6

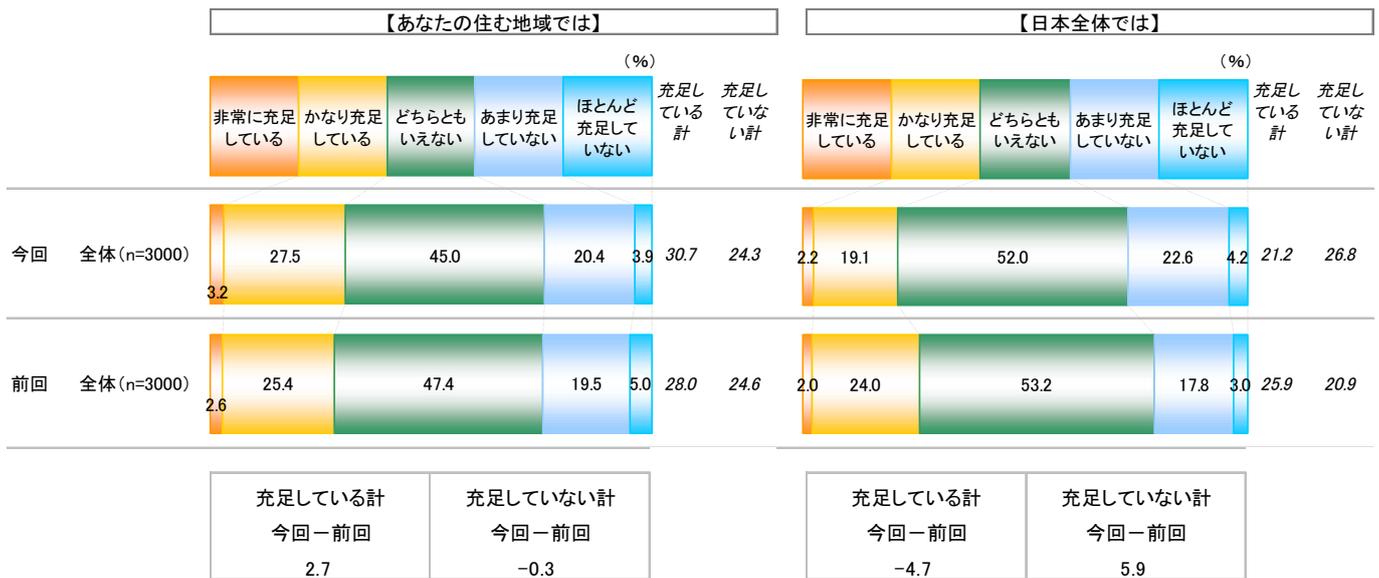
■ 84%～
 ■ 80%～83.9%
 ■ 75%～79.9%
 ■ 70%～74.9%
 ○ 新設問(2017 調査にない設問)

5. 社会資本の状況に関する全体評価

■社会資本の状況に関する全体評価

- ・「充足している」と「充足していない」の比率は、居住地域 30.7% > 24.3%、日本全体 21.2% < 26.9%であり、居住地域では充足しているとの回答が多いのに対し、日本全体では充足していないとの回答が多い。
- ・居住地域における評価については、地域ブロックや都市規模ごとに大きく異なる。特に、東北、中国、四国ブロックや、地方圏の30万人以下の市町村では充足していない計が充足している計を大きく上回っている。
- ・前回調査と比較すると、居住地域については、充足しているとの評価が微増している(2.7ポイント増)。一方で、日本全体については、否定的な評価が増加している。

Q8. これまで、個別のインフラ(社会資本)についてあなたのご意見を伺ってきましたが、あなたはこういったインフラ(社会資本)が、全体としてどの程度充足していると考えますか。(それぞれひとつだけ)



居住地域に関する社会資本の全体評価 (地域ブロック別・都市規模別)

		合計	非常に充足している	かなり充足している	どちらともいえない	あまり充足していない	ほとんど充足していない	[充足している計]	[充足していない計]
全体		3000	3.2	27.5	45.0	20.4	3.9	30.7	24.3
地域ブロック	北海道ブロック	120	2.5	25.0	40.8	28.3	3.3	27.5	31.7
	東北ブロック	210	3.8	15.7	41.9	31.9	6.7	19.5	38.6
	関東ブロック	1070	4.1	33.4	44.9	14.7	3.0	37.5	17.7
	北陸ブロック	120	3.3	15.8	50.0	23.3	7.5	19.2	30.8
	中部ブロック	360	1.4	23.6	49.4	22.5	3.1	25.0	25.6
	近畿ブロック	510	2.7	31.6	45.9	17.5	2.4	34.3	19.8
	中国ブロック	180	1.1	20.0	43.3	28.9	6.7	21.1	35.6
	四国ブロック	100	1.0	22.0	41.0	31.0	5.0	23.0	36.0
	九州・沖縄ブロック	330	4.2	25.2	43.3	21.8	5.5	29.4	27.3
都市規模別	三大都市圏の政令指定都市及び東京23区	846	5.2	38.9	44.6	10.0	1.3	44.1	11.3
	三大都市圏の県庁所在地及び人口30万人以上の都市	302	2.3	36.8	42.1	14.2	4.6	39.1	18.9
	三大都市圏の上記以外の地域	499	1.8	23.2	47.5	24.0	3.4	25.1	27.5
	地方中枢都市	254	5.9	35.4	42.1	14.2	2.4	41.3	16.5
	地方中核都市人口30万人以上の都市及び県庁所在地	248	2.8	19.0	50.0	24.6	3.6	21.8	28.2
	地方圏のその他の市	557	1.6	14.5	43.4	33.0	7.4	16.2	40.4
	地方圏の町村	202	1.0	19.3	43.1	31.2	5.4	20.3	36.6

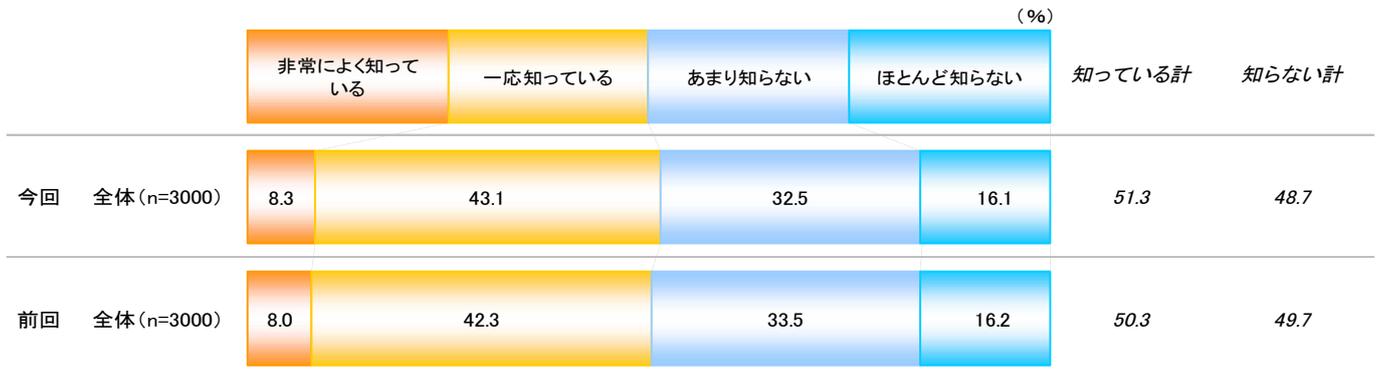
■全体より10ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上低い ■全体より10ポイント以上低い

6. 社会資本の維持管理・更新に関する認知・理解・評価

■社会資本の維持管理・更新の理解・評価(課題認知/優先性/選別の必要性/住民協力の必要性)

- ・ インフラ維持管理・更新費用課題認知率は5割程度にとどまる。
- ・ 前回調査と比較すると、Q11「全てのインフラ(社会資本)を維持するのは不可能で、残すものと残さないものを分け、早めの対応をすることが必要」については肯定的回答が 5 ポイント以上増えている。その他の設問については、3 ポイント程度以下の増減であり、大きな変化はない。

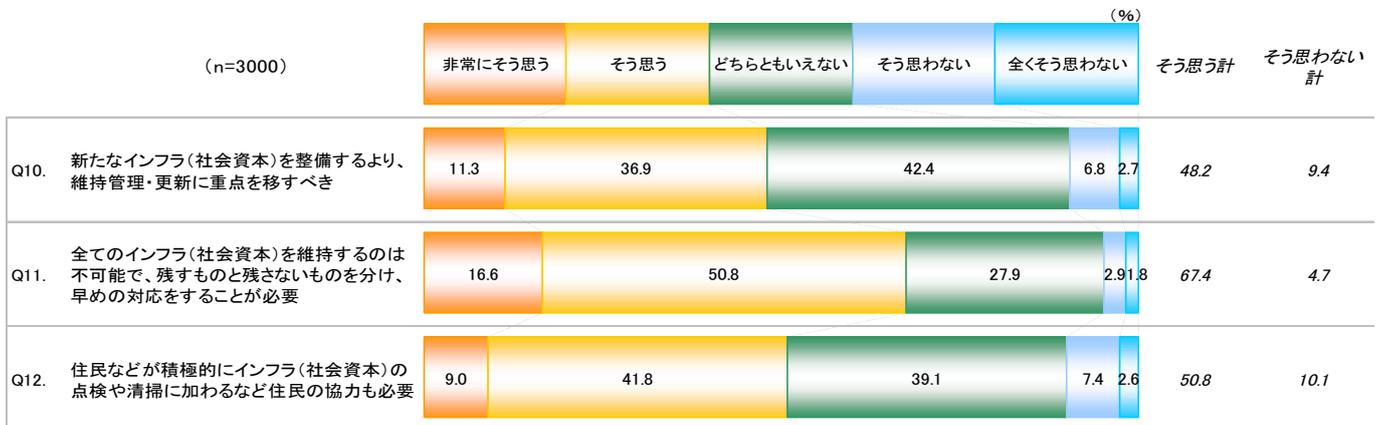
Q9. 今後、戦後の急成長期以降に急速に蓄積してきた膨大なインフラ(社会資本)が耐用年数を迎え、増加する維持管理・更新費用への対応が大きな課題となることをあなたはご存じですか。



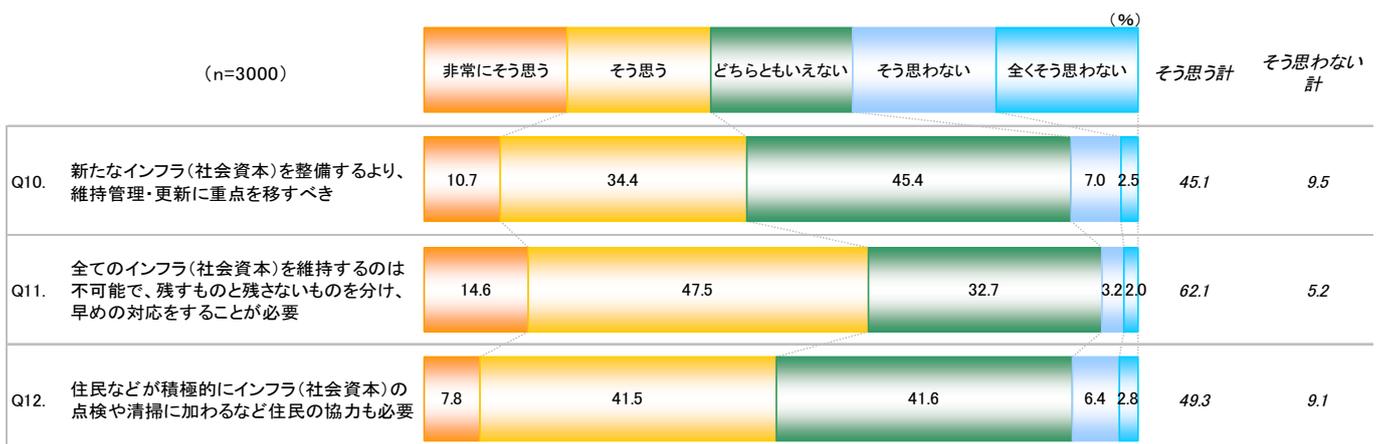
Q10. 増加する維持管理コストへの対応として、新たなインフラ(社会資本)を整備するより、維持管理・更新に重点を移すべきだとの意見がありますが、あなたはご存じですか。

Q11. インフラ(社会資本)の老朽化が急速に進行するため、全てのインフラ(社会資本)を維持するのは不可能で、残すものと残さないものを分け、早めの対応をすることが必要だとの意見がありますが、あなたはご存じですか。

Q12. インフラ(社会資本)の老朽化に的確に対応していくためには、住民などが積極的にインフラ(社会資本)の点検や清掃に加わるなど住民の協力も必要だとの意見がありますが、あなたはご存じですか。



[参考：前回調査結果]



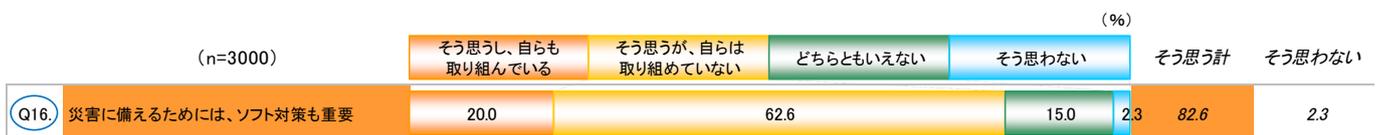
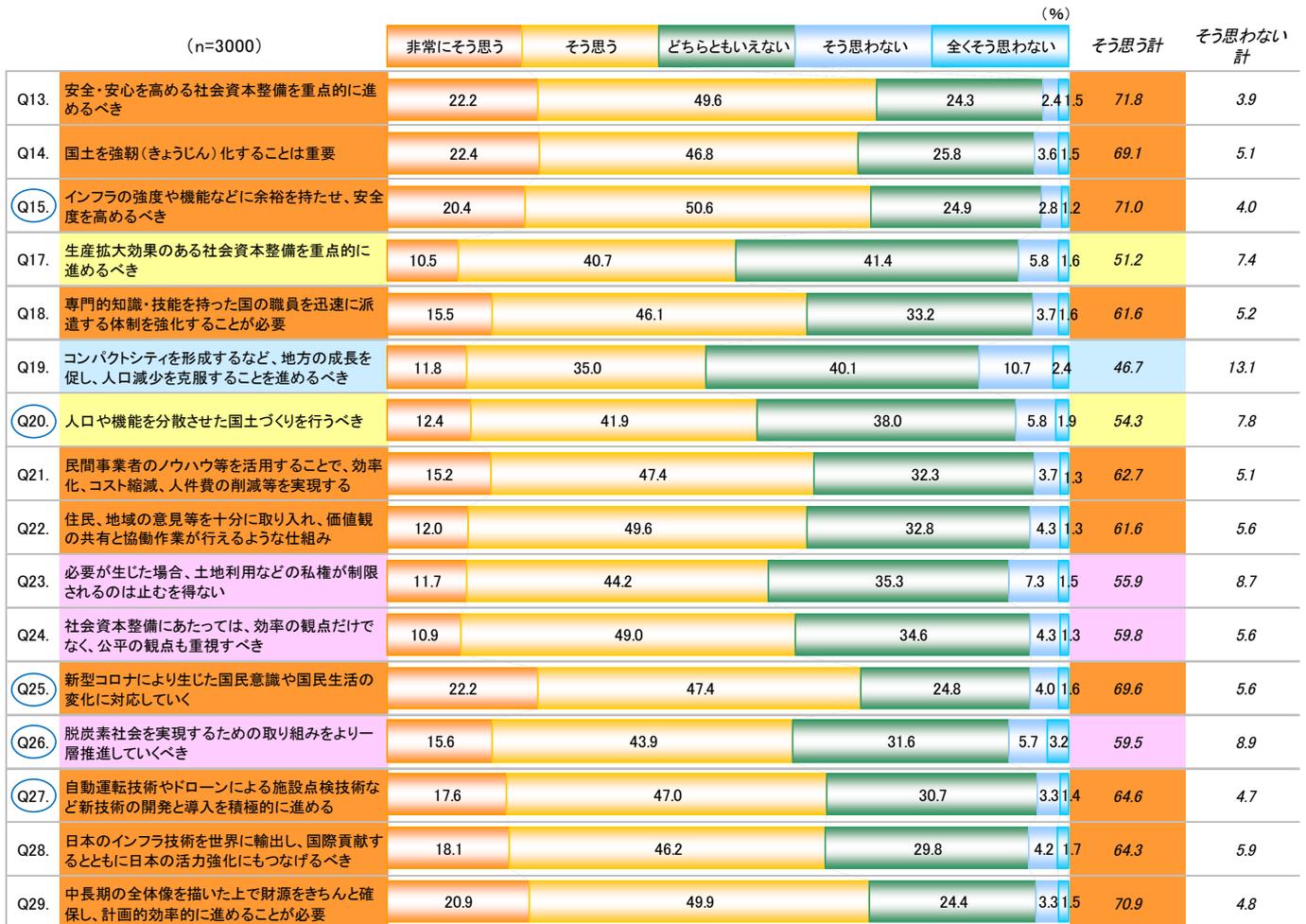
7. 社会資本整備のあり方、保全・整備の進め方に関する評価

■社会資本整備のあり方、保全・整備の進め方に関する評価（「そう思う」計）

- ・「災害に備えるためには、ソフト対策も重要」が、唯一、肯定的回答が8割を超え、最も肯定的回答が多い。
- ・その他の項目（「中長期の全体像を描いた上で財源をきちんと確保し、計画的効率的に進めること」、「新型コロナウイルス感染症発生により生じた国民意識や国民生活の変化に対応していくことが重要」など）について、肯定的な回答が多い（5割～7割程度）。

以下のような意見がありますが、あなたはどのように思われますか？

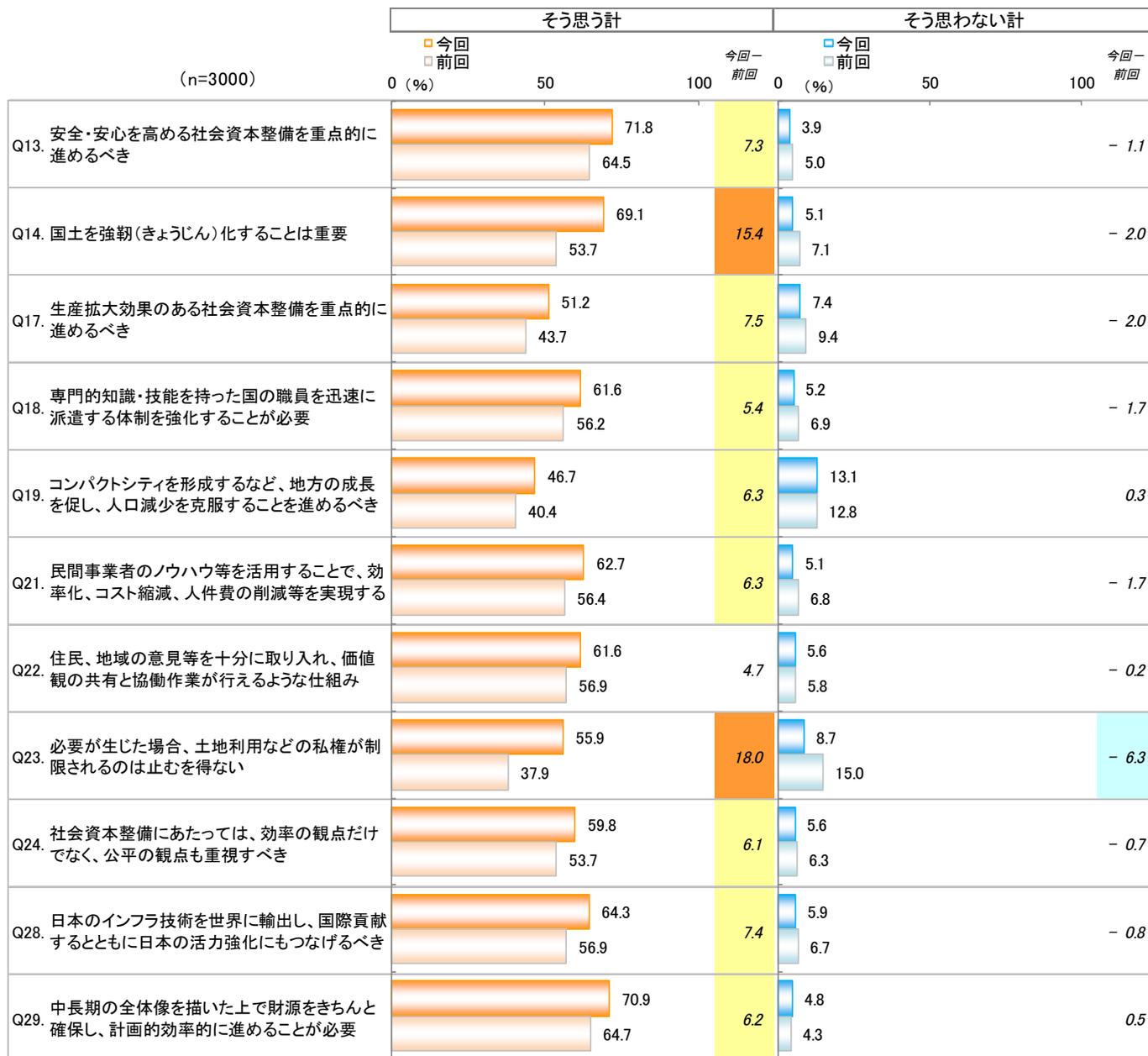
- Q13. 気候変動による災害の頻発化、巨大地震発生の可能性の増大などに対応するため、安全・安心を高める社会資本整備を重点的に進めるべき
 Q14. 東日本大震災などで、国土の脆弱性が明らかになった日本にとって、強しなやかな国民生活の実現のため、国土を強靱化することは重要だ
 Q15. 自然災害などは、予想以上の規模で発生したり、短い時間で続けて起こるなど不確実性があるため、インフラ（社会資本）の強度や機能などに余裕を持たせ、安全度を高めるべき
 Q16. 災害に備えるためには、インフラの整備（ハード対策）も重要だが、防災訓練やハザードマップの理解・活用などのソフト対策も重要
 Q17. 日本の経済活力を維持、成長を促進するため、移動時間の短縮、輸送費の低下、企業立地や設備投資の誘発など、生産拡大効果のある社会資本整備を重点的に進めるべきだ
 Q18. 災害からの復旧・復興にあたり、専門的知識・技能を持った国の職員を迅速に派遣する体制（ex.「TEC フォース」）を強化することが必要だ
 Q19. 人口密度が高いほど効率化により都市施設の維持管理費が少なくなるので、住む人や都市施設を集め、人口密度の高いコンパクトシティを形成し、それらを道路などのネットワークで結びつけて、地方の成長を促し、人口減少を克服することを進めるべきだ
 Q20. 感染症等も含めた自然災害等に対するリスクを減らすため、また、地方の文化・風土・伝統などの多様性を保持するため、人口や機能を分散させた国土づくりを行うべき
 Q21. これからのインフラ（社会資本）の保全整備にあたっては、PPP（官民連携）、PFI（民間の資金、経営能力等を活用する手法など）を取り入れ、民間事業者のノウハウ等を活用することで、効率化、コスト削減、人件費の削減等を実現することが必要だ
 Q22. 人々の価値観や行動が大きく変化し、多様化していることを踏まえ、社会資本整備においても、その整備方針・手順について住民、地域の意見等を十分に取り入れ、価値観の共有と協働作業が行えるような仕組みを作っていくべきだ
 Q23. 社会全体の安全性を高める施設等を整備するにあたって、必要が生じた場合、土地利用などの私権が制限されるのは止むを得ない
 Q24. 高速道路、幹線道路が救急搬送や災害時に救援物資の運搬等に用いる「命の道」の役割も果たす、といった例も踏まえ、社会資本整備にあたっては、効率の観点だけでなく、公平の観点も重視すべきだ
 Q25. これからのインフラ（社会資本）の保全整備にあたっては、新型コロナウイルス感染症発生により生じた国民意識や国民生活の変化に対応していくことが重要である
 Q26. これからのインフラ（社会資本）の保全整備にあたっては、資源・エネルギーの再利用やCO2の削減など、脱炭素社会を実現するための取り組みをより一層推進していくべき
 Q27. これからのインフラ（社会資本）の保全整備にあたっては、コスト削減やサービス水準向上のために、自動車の自動運転技術やドローンによる施設点検技術など新技術の開発と導入を積極的に進めることが必要である
 Q28. インフラメンテナンスの分野で、日本の優れた技術は世界で十分に競争する力がある。こういった優れた日本のインフラ技術を世界に輸出し、国際貢献するとともに日本の活力強化にもつなげるべきだ
 Q29. インフラ（社会資本）の保全整備にあたっては、中長期の全体像を描いた上で財源をきちんと確保し、計画的効率的に進めることが必要である



■ 60%～ ■ 55%～59.9% ■ 50%～54.9% ■ 40%～49.9% ○ 新設問(2017調査にない設問)

【前回比較】

・ 前回調査との比較については、いずれの項目についても、肯定的な回答が 5 ポイント程度以上増加している。特に「必要が生じた場合、土地利用などの私権が制限されるのは止むを得ない」「国土を強靱化することは重要」の 2 項目が 15 ポイント以上と大幅に増加している。



■ 10%～ ■ 5.0%～9.9% ■ -5.0%～-9.9% ■ -10%～

以下のような意見がありますが、あなたはどのように思われますか？

- Q13. 気候変動による災害の頻発化、巨大地震発生の可能性の増大などに対応するため、安全・安心を高める社会資本整備を重点的に進めるべき
- Q14. 東日本大震災などで、国土の脆弱性が明らかになった日本にとって、強くなやかな国民生活の実現のため、国土を強靱化することは重要だ
- Q15. 日本の経済活力を維持、成長を促進するため、移動時間の短縮、輸送費の低下、企業立地や設備投資の誘発など、生産拡大効果のある社会資本整備を重点的に進めるべきだ
- Q16. 災害からの復旧・復興にあたり、専門的知識・技能を持った国の職員を迅速に派遣する体制(ex.「TEC フォース」)を強化することが必要だ
- Q17. 人口密度が高いほど効率化により都市施設の維持管理費が少なくなるので、住む人や都市施設を集め、人口密度の高いコンパクトシティを形成し、それらを道路などのネットワークで結びつけて、地方の成長を促し、人口減少を克服することを進めるべきだ
- Q18. これからのインフラ(社会資本)の保全整備にあたっては、PPP(官民連携)、PFI(民間の資金、経営能力等を活用する手法など)を取り入れ、民間事業者のノウハウ等を活用することで、効率化、コスト縮減、人件費の削減等を実現することが必要だ
- Q19. 人々の価値観や行動が大きく変化し、多様化していることを踏まえ、社会資本整備においても、その整備方策・手順について住民、地域の意見等を十分に取り入れ、価値観の共有と協働作業が行えるような仕組みを作っていくべきだ
- Q20. 社会全体の安全性を高める施設等を整備するにあたって、必要が生じた場合、土地利用などの私権が制限されるのは止むを得ない
- Q21. 高速道路、幹線道路が救急搬送や災害時に救援物資の運搬等に用いる「命の道」の役割も果たす、といった例も踏まえ、社会資本整備にあたっては、効率の観点だけでなく、公平の観点も重視すべきだ
- Q22. インフラメンテナンス分野で、日本の優れた技術は世界で十分に競争する力がある。こういった優れた日本のインフラ技術を世界に輸出し、国際貢献するとともに日本の活力強化にもつなげるべきだ
- Q23. インフラ(社会資本)の保全整備にあたっては、中長期の全体像を描いた上で財源をきちんと確保し、計画的効率的に進めることが必要である

(n=3000)		(%)					そう思う計	そう思わない計
		非常にそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	全くそう思わない		
Q13.	安全・安心を高める社会資本整備を重点的に進める	17.7	46.8	30.5	3.3	1.7	64.5	5.0
Q14.	国土を強靱(きょうじん)化する	13.4	40.3	39.2	4.9	2.2	53.7	7.1
Q15.	生産拡大効果のある社会資本整備を重点的に進める	7.7	36.0	46.9	7.5	1.9	43.7	9.4
Q16.	災害時に専門的知識・技能を持った国の職員を迅速に派遣する体制	13.4	42.8	36.9	4.6	2.3	56.2	6.9
Q17.	住む人や都市施設を集め、人口密度の高いコンパクトシティを形成し、それらを道路などのネットワークで結びつける	7.6	32.8	46.8	9.6	3.2	40.4	12.8
Q18.	民間事業者のノウハウ等を活用することで、効率化、コスト縮減、人件費の削減等を実現する	14.1	42.3	36.8	4.6	2.2	56.4	6.8
Q19.	住民、地域の意見等を十分に取り入れ、価値観の共有と協働作業が行えるような仕組み	10.3	46.6	37.3	4.2	1.6	56.9	5.8
Q20.	必要が生じた場合、土地利用などの私権が制限されるのは止むを得ない	6.6	31.3	47.1	11.5	3.5	37.9	15.0
Q21.	社会資本整備にあたっては、効率の観点だけでなく、公平の観点も重視すべき	8.2	45.5	40.0	4.3	2.0	53.7	6.3
Q22.	日本のインフラ技術を世界に輸出し、国際貢献するとともに日本の活力強化にもつなげるべき	14.1	42.8	36.4	4.4	2.3	56.9	6.7
Q23.	中長期の全体像を描いた上で財源をきちんと確保し、計画的効率的に進める	17.8	46.9	31.0	2.7	1.6	64.7	4.3

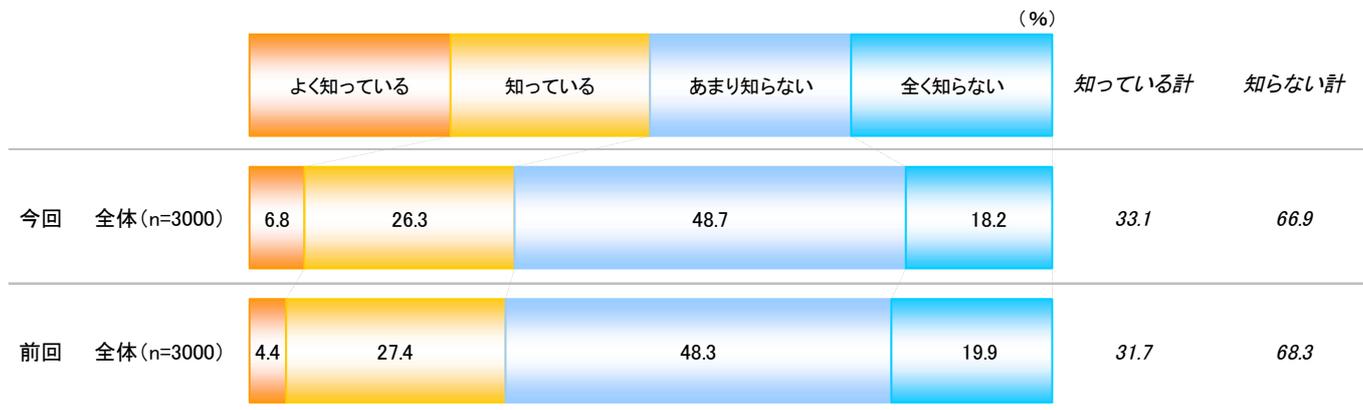
60%～ 55%～59.9% 50%～54.9% 40%～49.9%

■アメリカやヨーロッパ諸国での道路等のインフラ投資を増大させる動きに関する評価

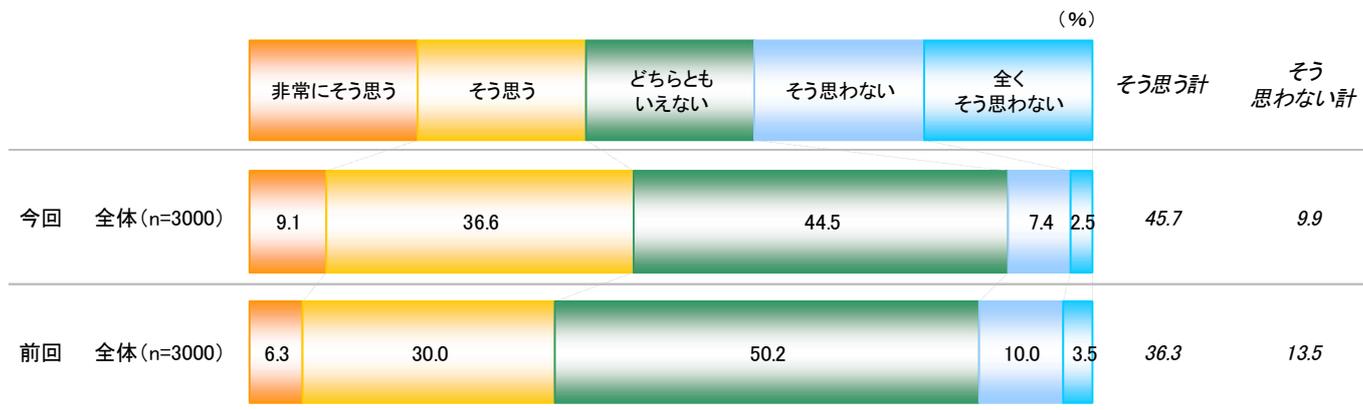
- ・ 欧米で、インフラ投資を増大させる動きがあることを認知しているのは3割程度と低い(前回調査と同程度)。
- ・ 日本もインフラ投資を増やすべきだという意見に対し、肯定的な回答が前回調査と比較して 9.4 ポイント増加している。

Q30. アメリカやヨーロッパ諸国などでは、新型コロナウイルス感染症の影響から回復するための経済・社会活動の活性化や温室効果ガス削減などのため、インフラ投資を増大させる動きがありますが、ご存じですか。

(前回) Q24. アメリカのトランプ大統領が1兆ドル(約110兆円)をインフラ整備に使うことを表明するなど、アメリカやヨーロッパ諸国では、安全性を高め、経済活力を維持・増進するため、道路等のインフラ投資を増大させる動きがありますが、ご存じですか。

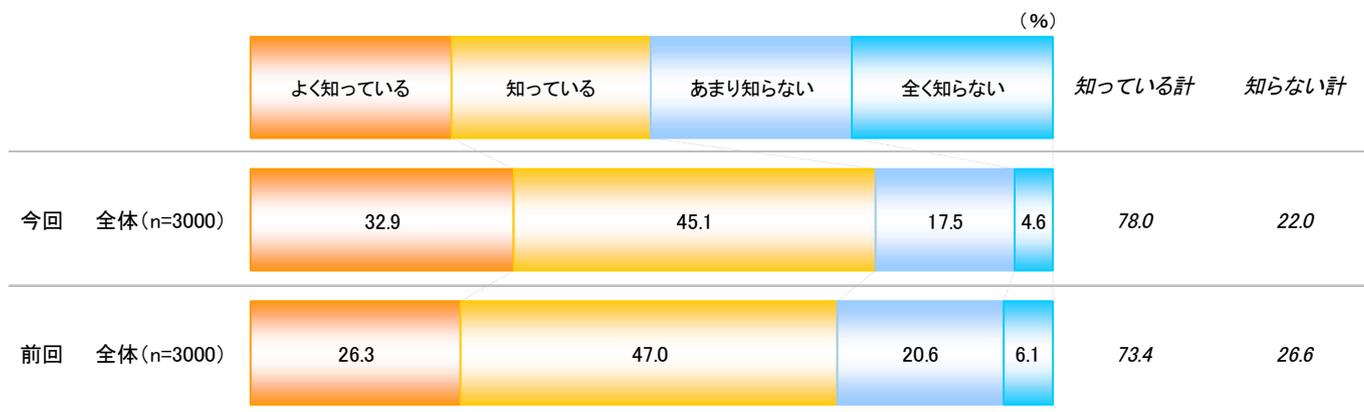


Q30-1. 日本もインフラの機能を維持し、安全性を高め、また経済活力を維持・増進させるためにインフラへの投資額を増やすべきだという意見がありますが、あなたはどのように思いますか。

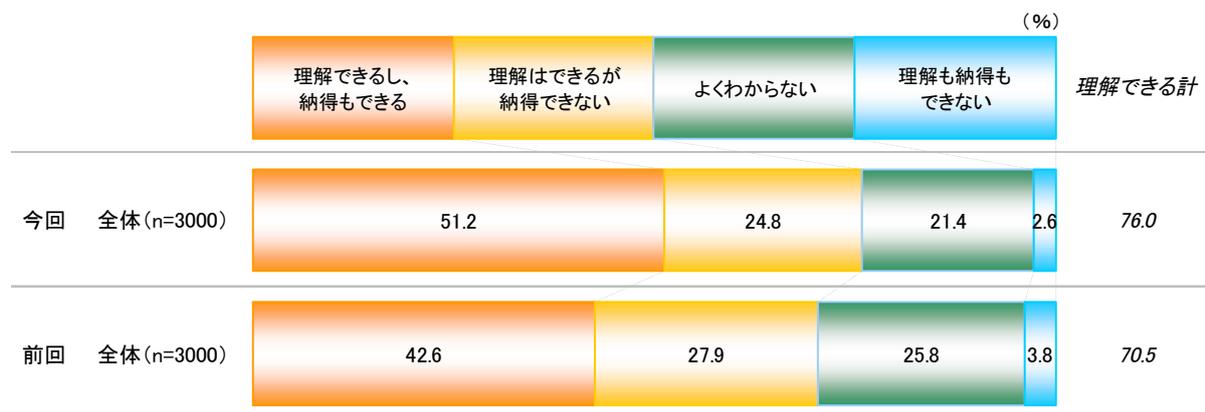


- ・日本の自然条件が過酷であることに関し、回答者の8割弱が認知。それに伴い、施設整備に費用がかさむことに理解を示す層は4分の3を超えるが、「理解できるが、納得できない」も4分の1程度存在。
- ・前回調査との比較については、「日本の自然条件が過酷であることに関する認知」が4.6ポイント、「施設整備に費用がかさむことに理解かつ納得できる」が8.6ポイント増加している。

Q31. 日本は、外国と比べ山地が多く、海岸線が長く、台風、大雨、洪水、地震、火山噴火などの災害が発生し易いなどの特徴を持っています。あなたは、このことをご存じですか。



Q31-1. そのために、急峻な地形での工事が必要だったり、地震等に備えるため、頑丈な施設を整備しなければならないなど、欧米諸国に比べて施設整備に費用がかさみます。あなたは、このことについてどのように思いますか。

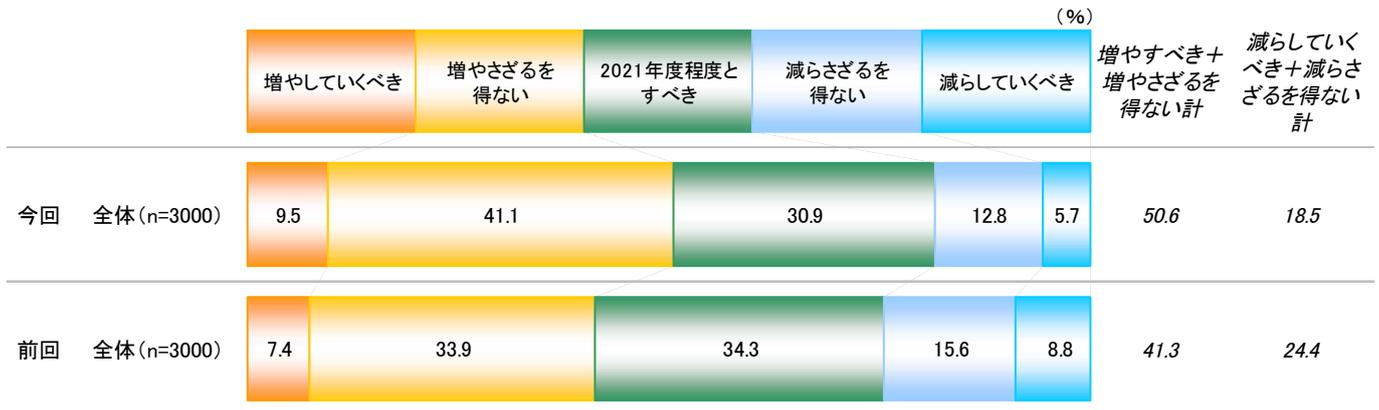


8. 国家予算 費目別 今後の増減評価

■公共事業予算の今後の増減評価

- ・ 増やす計は 50.6%、「2021 年度程度とすべき」は 30.9%、減らす計は 18.5%となっている。
- ・ 前回調査との比較については、増やす計は 9.3 ポイント増加、「2021 年度程度とすべき」は 3.4 ポイント減少、減らす計は 5.9 ポイント減少となっている。

Q32. あなたは、今後の公共事業の予算をどうすべきだと思いますか。上記の結果も見た上でお答えください。



※前回は平成29年度程度とすべき

9. 日本とあなたの住む地域の将来(予測とあるべき姿)

■居住地域がなりそうであると予測される姿とあるべき姿_1< 衰退 ⇄ 成長 >

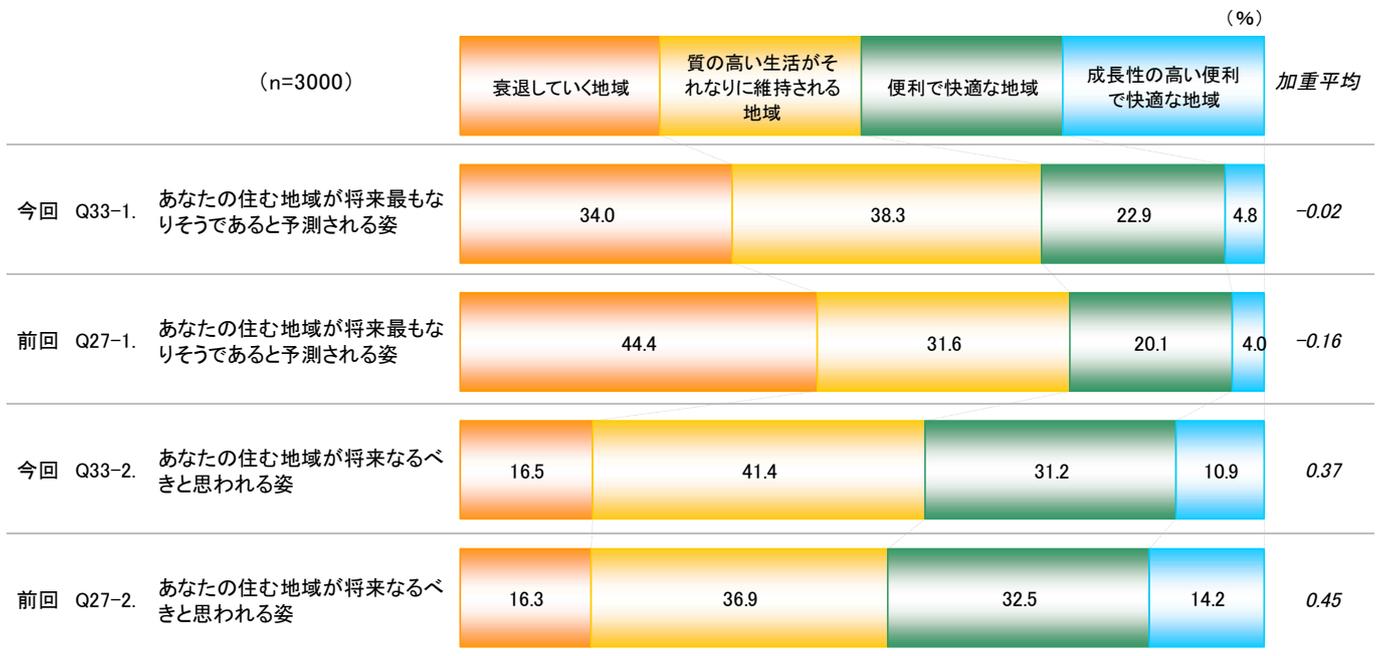
- ・ 将来予測とあるべき姿でギャップがある。「衰退する地域」なりそう 34.0%(>なるべき 16.5%)、「成長する地域」なりそう 4.8%(<なるべき 10.9%)
- ・ 前回調査との比較については、将来予測は悲観的予測が減り(「衰退する地域」が 10.4 ポイント減)、あるべき姿は成長を希望する回答が増えている(「成長する地域」が 3.3 ポイント増)。

Q33. あなたの住む地域(2050 年前後を想定)について、次のような意見(見方)があります。

1. **衰退していく地域** 少子化・高齢化が進み、地域経済の衰退、中心市街地でも空き店舗が生じたり、空き家も増え、公共交通機関もなくなるなど、徐々に衰退していく
2. **質の高い生活がそれなりに維持される地域** 少子化・高齢化が進むが、地域の産業・経済を維持・活性化する動きや、各種の施設を特定の地域とまとめるコンパクト化を進めることなどにより、それなりに質の高い生活が維持される
3. **便利で快適な地域** 少子化・高齢化は進むが、地域の産業・経済は、新たな産業が生まれることにより活性化し、交通ネットワークが確保された便利で快適な地域となる
4. **成長性の高い便利で快適な地域** 地域社会に新たな成長産業などが生まれ、新たな居住者が流入、新たな産業なども生まれ、交通ネットワークなどはより良くなり、生産性が向上、活力のある成長性の高い、より便利で快適な地域となる

Q33-1.あなたの住む地域が将来最もなりそうであると予測される姿はどれですか。

Q33-2.あなたの住む地域が将来なるべきと思われる姿はどれですか。



■日本がなりそうであると予測される姿とあるべき姿__1< 衰退 ⇔ 成長性 >

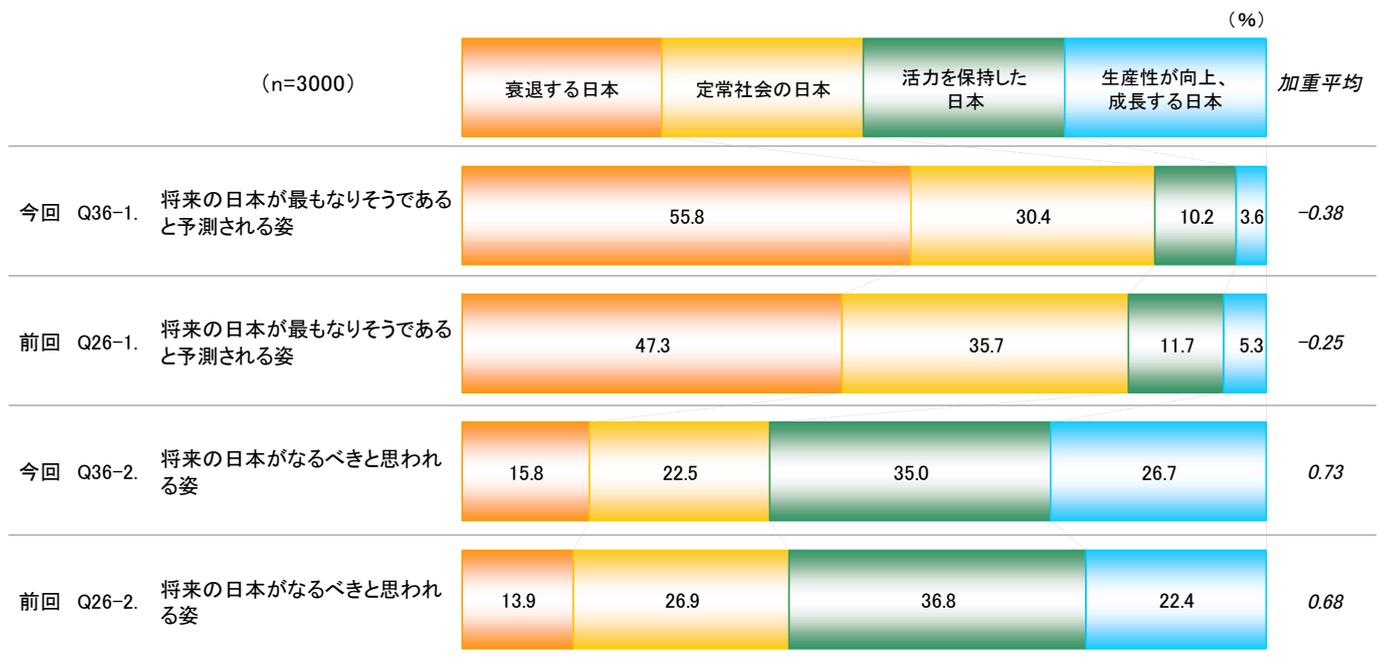
- ・ 将来予測とあるべき姿でギャップがあり、その差は居住地域よりも大きい。「衰退する日本」なりそう 55.8% (>なるべき 15.8%)、「成長する日本」なりそう 3.6% (<なるべき 26.7%)
- ・ 居住地域と比較すると、将来予測については、より悲観的であり(「衰退する地域」34.0% < 「衰退する日本」 55.8%)、あるべき姿については成長を希望する割合が大きい(「成長する地域」10.9% < 「成長する日本」 26.7%)。
- ・ 前回調査との比較については、将来予測は悲観的予測が増え(「衰退する日本」が 8.5 ポイント増)、あるべき姿は成長を希望する回答が増えている(「成長する日本」が 4.3 ポイント増)。

Q36. 日本の将来(2050 年前後を想定)について、次のような意見(見方)があります。

1. **衰退する日本** 少子化・高齢化が進み、激化する国際競争の下、世界の中で現在の位置は保ち得ず、経済成長もマイナス気味となり、徐々に衰退していく
2. **定常社会の日本** 少子化・高齢化が進むが、女性の社会進出、技術革新、国民の努力もあって、経済成長がプラスマイナス0%といった「定常社会」となり、世界の中での位置も保ち、それなりに質の高い生活を維持する
3. **活力を保持した日本** 少子化・高齢化にも係わらず、女性の社会進出、技術革新、経済構造の改革、経営革新などにより、一定の成長を実現、世界の中での位置も保った、活力を保持した日本となる
4. **生産性が向上、成長する日本** 少子化・高齢化にも係わらず、女性の社会進出が進むことで、生産年齢人口が確保され、技術革新や経済構造の改革による生産性の更なる向上が図られ、経済に経営革新の、更なる進展などにより、高い成長を実現、世界の中での位置も高まる、活力ある日本となる

Q36-1. 将来の日本が最もなりそうであると予測される姿はどれですか。

Q36-2. 将来の日本がなるべきと思われる姿はどれですか。



■居住地域がなりそうであると予測される姿__1<衰退 ⇄ 成長> 【地域ブロック別、都市規模別分析】

- ・ 地域ブロック別で予測が大きく異なる。四国、中国、東北、北海道が悲観的。
- ・ 都市規模別でも予測が大きく異なる。地方圏の30万人以下の市町村(県庁所在地を除く)が特に悲観的。

Q33. あなたの住む地域(2050年前後を想定)について、次のような意見(見方)があります。

1. **衰退していく地域** 少子化・高齢化が進み、地域経済の衰退、中心市街地でも空き店舗が生じたり、空き家も増え、公共交通機関もなくなるなど、徐々に衰退していく
2. **質の高い生活がそれなりに維持される地域** 少子化・高齢化が進むが、地域の産業・経済を維持・活性化する動きや、各種の施設を特定の地域とまとめるコンパクト化を進めることなどにより、それなりに質の高い生活が維持される
3. **便利で快適な地域** 少子化・高齢化は進むが、地域の産業・経済は、新たな産業が生まれることにより活性化し、交通ネットワークが確保された便利で快適な地域となる
4. **成長性の高い便利で快適な地域** 地域社会に新たな成長産業などが生まれ、新たな居住者が流入、新たな産業なども生まれ、交通ネットワークなどはより良くなり、生産性が向上、活力のある成長性の高い、より便利で快適な地域となる

Q33-1.あなたの住む地域が将来最もなりそうであると予測される姿はどれですか。

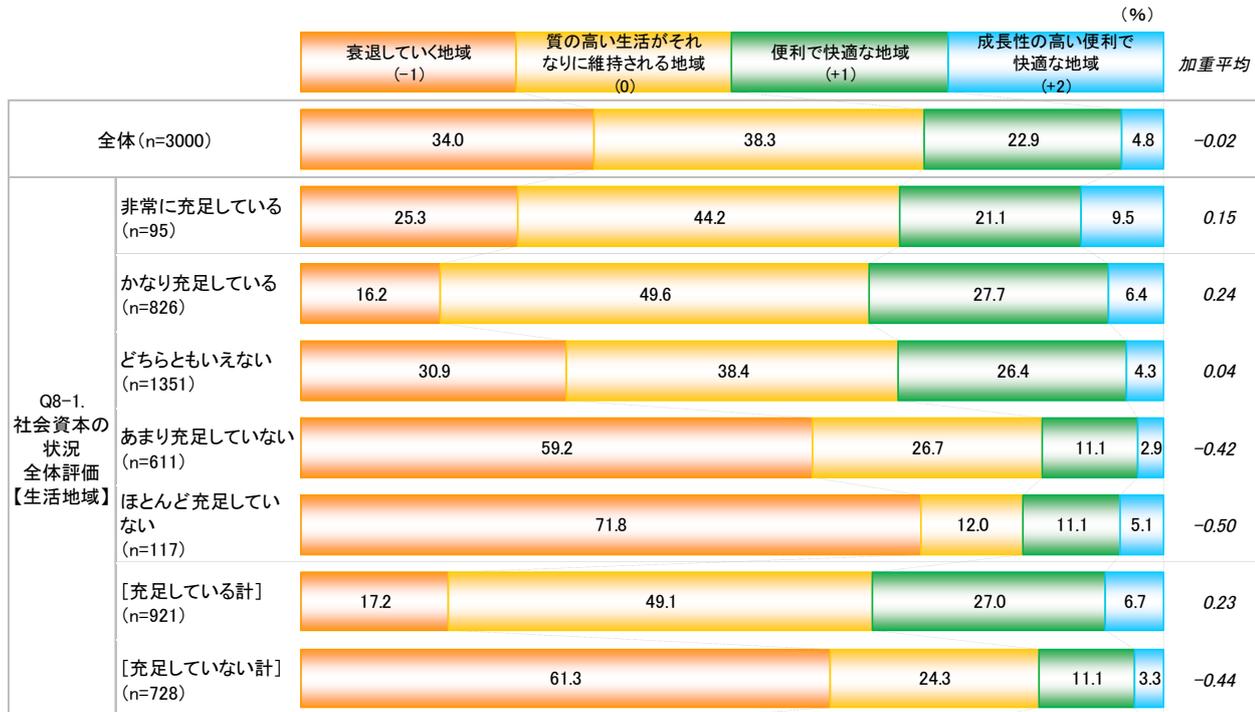
		n	衰退していく地域	質の高い生活がそれなりに維持される地域	便利で快適な地域	成長性の高い便利で快適な地域
全体		3000	34.0	38.3	22.9	4.8
ブロック	北海道ブロック	120	44.2	33.3	18.3	4.2
	東北ブロック	210	50.0	28.6	15.7	5.7
	関東ブロック	1070	25.8	42.4	26.3	5.5
	北陸ブロック	120	43.3	33.3	20.0	3.3
	中部ブロック	360	33.1	41.4	21.4	4.2
	近畿ブロック	510	26.5	43.5	25.7	4.3
	中国ブロック	180	46.1	34.4	18.3	1.1
	四国ブロック	100	64.0	22.0	13.0	1.0
	九州・沖縄ブロック	330	40.6	30.0	22.1	7.3
Q43.居住地域の種別	三大都市圏の政令指定都市及び東京23区	846	16.9	49.8	28.3	5.1
	三大都市圏の県庁所在地及び人口30万人以上の都市	302	22.8	40.7	31.1	5.3
	三大都市圏の上記以外の地域	499	36.1	37.1	22.0	4.8
	地方中枢都市	254	22.8	43.3	24.4	9.4
	地方中核都市人口30万人以上の都市及び県庁所在地	248	37.9	41.5	15.7	4.8
	地方圏のその他の市	557	57.6	26.8	13.6	2.0
	地方圏の町村	202	61.4	16.3	19.8	2.5

■全体より10ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上高い ■全体より5ポイント以上低い ■全体より10ポイント以上低い

■居住地域がなりそうであると予測される姿_1<衰退 ⇄ 成長> 【Q8 社会資本の全体評価別とのグロス分析】

- ・ 社会資本に関する充足度評価と将来予測に相関が見られる。
- ・ 居住地域について、社会資本の充足度が低いと評価した者のほうが、充足度が高いと評価した者より、将来予測について悲観的である。

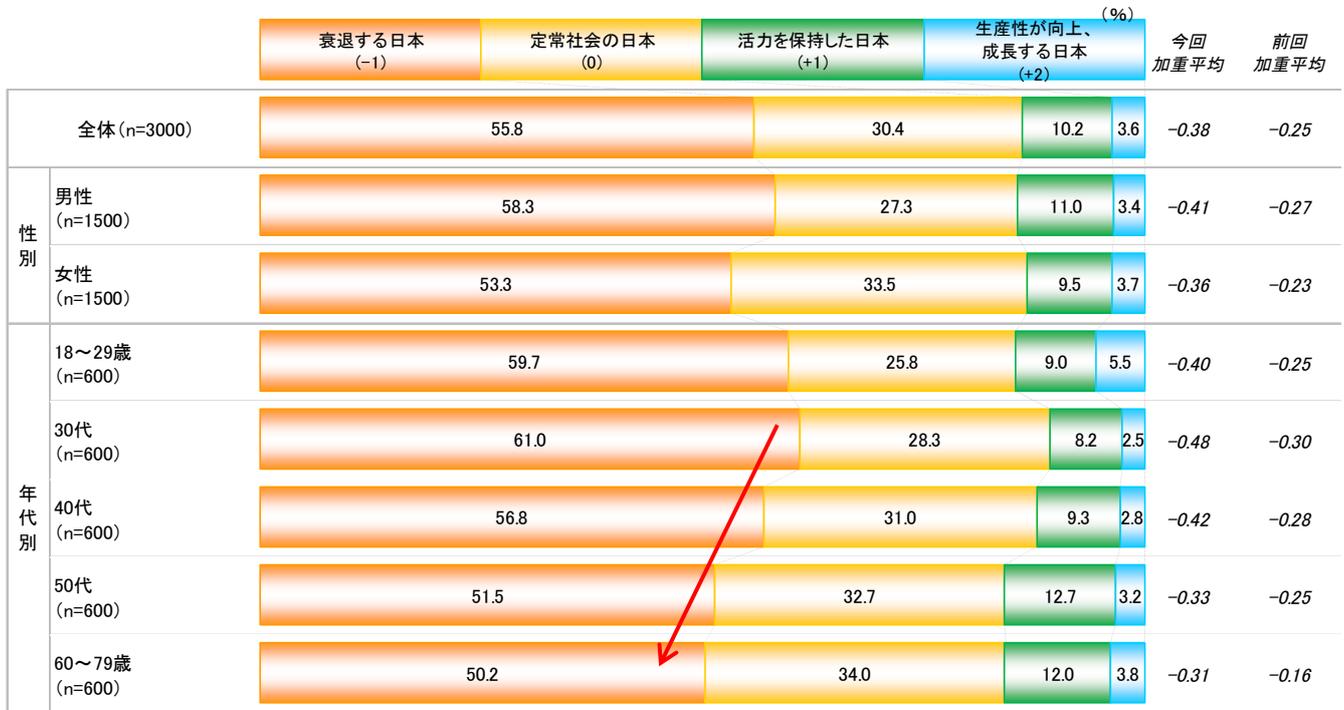
Q33-1.あなたの住む地域が将来最もなりそうであると予測される姿はどれですか。



■日本がなりそうであると予測される姿_1<衰退 ⇄ 成長>【性・年代別分析】

・ 日本の将来予測について、若い世代のほうが悲観的である。

Q36-1.将来の日本が最もなりそうであると予測される姿はどれですか。



■居住地域がなりそうであると予測される姿_1<衰退 ⇄ 成長>【新型コロナによる変化(Q3-1)との相関】

居住地域の将来予測について、コロナによる変化で悪影響があったとの回答項目数が多いほど悲観的

① Q3-1.新型コロナウイルス感染症の発生を受けての変化の設問の選択を以下のように分類

プラス項目

- 1.テレワーク等の普及により、通勤時間が減るなどし、余暇の過ごし方が充実した
- 4.家族とのコミュニケーションが増え、繋がりが強まった

マイナス項目

- 2.仕事が減り(もしくは失業し)、生活が苦しくなった
- 3.旅行、外食、買い物などで外出する機会が減った
- 5.友人や知人などとのコミュニケーションが減り、繋がりが弱まった
- 6.対面での会合・コミュニケーションや外出が減少し、学習や情報を得る機会が減った
- 7.自分・家族・知人の健康や医療体制に対する不安が強くなった

プラスでもマイナスでもない項目

- 8. 感染症等を含めた自然災害等のリスクを軽減するため、生活拠点を都市部以外としたいと考えるようになった
- 9. 変化がない
- 10.その他:

② 回答者ごとに、選択したプラス項目とマイナス項目の数によって以下のように類型化

- プラス項目1個以上
- プラス項目もマイナス項目もなし
- プラス項目なし&マイナス項目2個以下
- プラス項目なし&マイナス項目3個以上

Q33-1 あなたの住む地域が将来最もなりそうであると予測される姿

		(%)				
		衰退していく地域 (-1)	質の高い生活がそれなりに維持される地域 (0)	便利で快適な地域 (+1)	成長性の高い便利で快適な地域 (+2)	加重平均
全体 (n=3000)		34.0	38.3	22.9	4.8	-0.02
Q3-1.新型コロナウイルス感染症の発生を受けての変化	プラス項目1個以上 (n=839)	26.8	45.5	22.8	4.9	0.06
	プラス項目もマイナス項目もなし (n=357)	31.7	28.0	31.9	8.4	0.17
	プラス項目なし&マイナス項目2個以下 (n=1091)	37.6	38.0	20.3	4.1	-0.09
	プラス項目なし&マイナス項目3個以上 (n=713)	38.3	35.2	22.6	3.9	-0.08

■地域がなりそうであると予測される姿とあるべき姿__2 < 社会課題に関する受動 ⇄ 能動 >

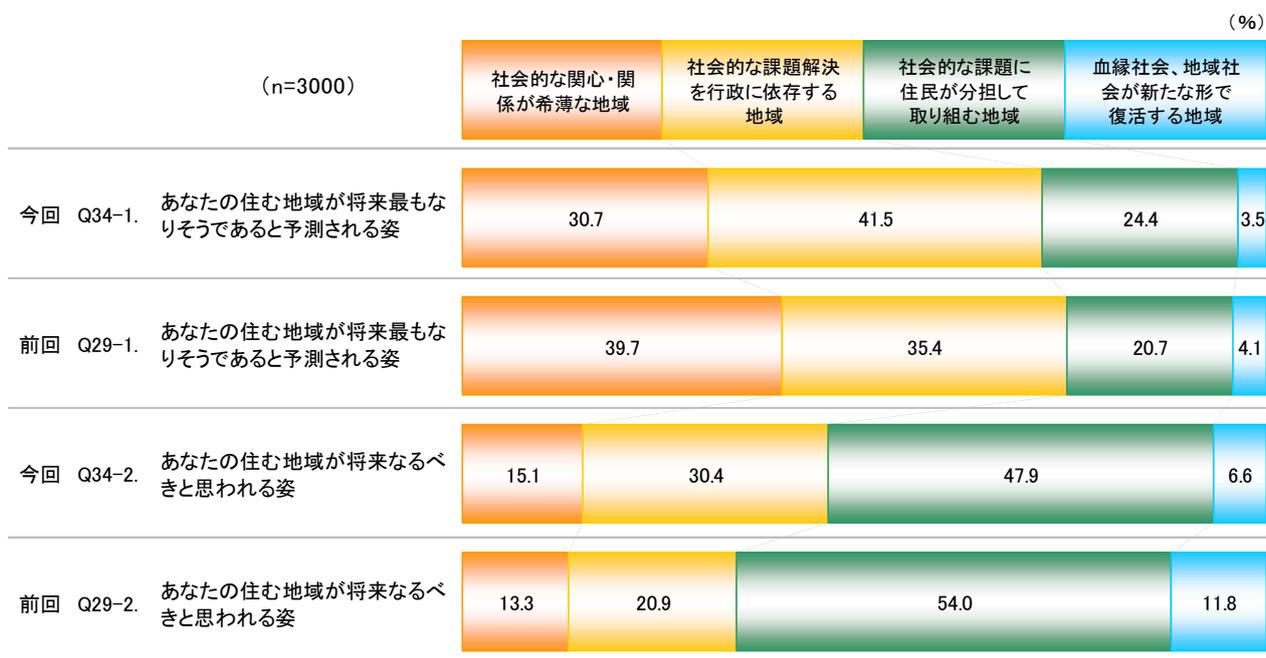
- ・ 将来予測とあるべき姿でギャップがある。「社会的な関心・関係が希薄な地域」なりそう 30.7%(>なるべき 15.1%)、「住民が分担して取り組む地域」なりそう 24.4%(<なるべき 47.9%)
- ・ 前回調査との比較については、将来予測では「社会的な関心・関係が希薄な地域」が大きく減っており(9.0ポイント減)、あるべき姿では「社会的な課題解決を行政に依存する地域」が大きく増えている(9.5ポイント増)。

Q34. あなたの住む地域(2050年前後を想定)について、次のような意見(見方)があります。

1. **社会的な関心・関係が希薄な地域** 必要な情報はネットかSNSから入手、自分にとって意味、興味のあることには反応するが、そうでないものに対しては社会的な関心も興味も示さない個人のことしか考えない地域社会が形成される
2. **社会的な課題解決を行政に依存する地域** 各個人の価値観や規範に基づく個人主義的な社会になり、社会的な問題には一定の理解を行うものの、具体的な行動などは起こさず、行政に委ねる地域社会が形成される
3. **社会的な課題に住民が分担して取り組む地域** 社会の様々な課題に対し、行政に依存するのではなく、住民や NPO が社会産業(ソーシャルビジネス)を立ち上げ、行政と住民が分担して解決に取り組む地域社会となる
4. **血縁社会、地域社会が新たな形で復活する地域** 地域の風土や文化が見直され、伝統的な血縁社会、地域社会が新たな形で復活する地域社会となる

Q34-1.あなたの住む地域が将来最もなりそうであると予測される姿はどれですか。

Q34-2.あなたの住む地域が将来なるべきと思われる姿はどれですか。



■日本の将来予測、あるべき姿_2 < 社会課題に関する受動 ⇄ 能動 >

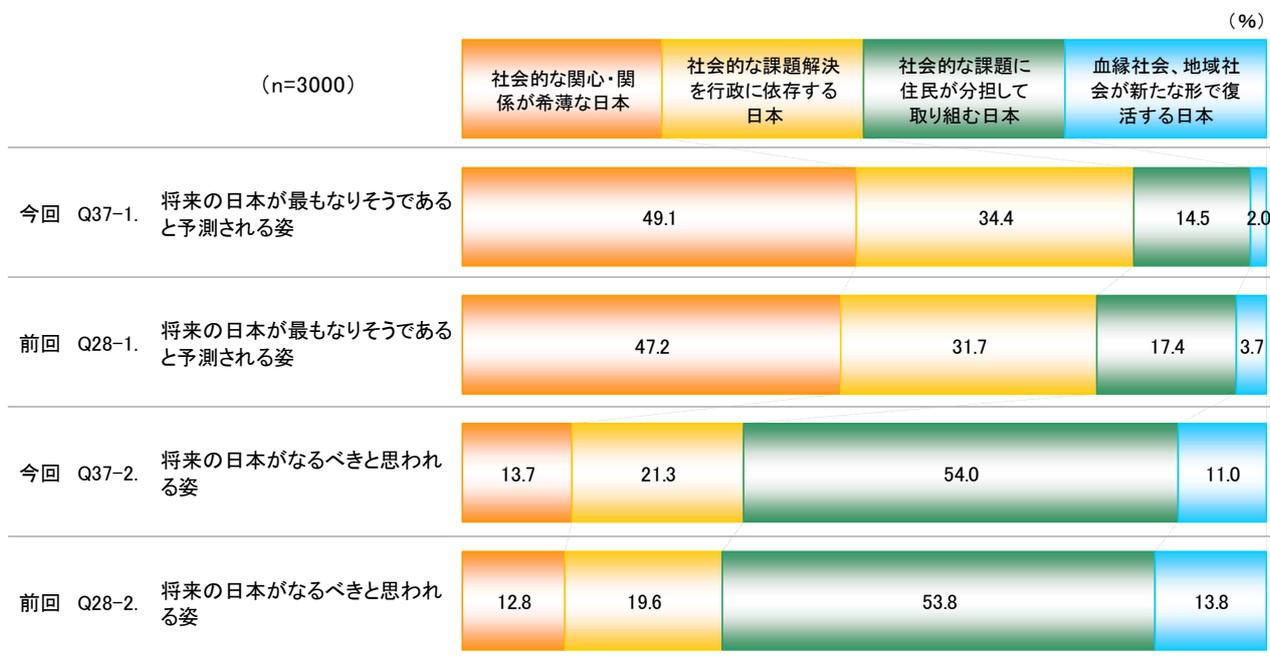
- ・ 将来予測とあるべき姿でギャップがあり、その差は居住地域よりも大きい。「社会的な関心・関係が希薄な日本」なりそう 49.1%(>なるべき 13.7%)、「住民が分担して取り組む日本」なりそう 14.5%(<なるべき 54.0%)
- ・ 居住地域と比較すると、将来予測については「社会的な関心・関係が希薄」の割合が多く(日本全体 49.1% >居住地域 30.7%)、あるべき姿については「社会的な課題に住民が分担して取り組む」の割合が多い(日本全体 54.0% >居住地域 47.9%)。
- ・ 前回調査との比較については、将来予測・あるべき姿のいずれの選択肢も変動は3ポイント未満である。

Q37 日本の将来(2050年前後を想定)について、次のような意見(見方)があります。

1. **社会的な関心・関係が希薄な日本** 必要な情報はネットかSNSから入手、自分にとって意味、興味のあることには反応するが、そうでないものに対しては社会的な関心も興味も示さない個人のことしか考えない社会が形成される日本
2. **社会的な課題解決を行政に依存する日本** 各個人の価値観や規範に基づく個人主義的な社会になり、社会的な問題には一定の理解を行うものの、具体的な行動などは起こさず、行政に委ねる社会が形成される日本
3. **社会的な課題に住民が分担して取り組む日本** 社会の様々な課題に対し、行政に依存するのではなく、住民やNPOが社会産業(ソーシャルビジネス)を立ち上げ、行政と住民が分担して解決に取り組むような社会が形成される日本
4. **血縁社会、地域社会が新たな形で復活する日本** 地域の風土や文化が見直され、伝統的な血縁社会、地域社会が新たな形で復活し、生活・社会行動の基盤となるような日本

Q37-1. 将来の日本が最もなりそうであると予測される姿はどれですか。

Q37-2. 将来の日本がなるべきと思われる姿はどれですか。



属性(フェイスシート)

Q39.性別

		(%)	
	n	男性	女性
今回	3000	50.0	50.0
前回	3000	50.0	50.0

Q40.年齢

		(%)												
	n	18～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上
今回	3000	0.8	6.0	13.2	8.9	11.1	9.4	10.6	11.1	8.9	8.8	6.2	4.0	0.9
前回	3000	0.4	5.7	13.9	8.6	11.4	9.6	10.4	11.4	8.6	8.7	7.4	3.9	

Q41.職業

		(%)								
	n	会社員・会社役員	公務員・団体職員	自営業	自由業	専業主婦(夫)	学生	パート・アルバイト	その他	無職
今回	3000	44.5	7.7	5.4	1.9	12.9	3.2	13.8	1.3	9.4
前回	3000	41.0	6.8	6.1	2.8	15.7	2.3	13.9	1.1	10.2

Q42.世帯構成

		(%)					
	n	1人世帯	1世代世帯(夫婦のみ)	2世代世帯(親と子)	3世代世帯(親と子と孫)	その他	わからない
今回	3000	21.4	24.6	47.1	5.2	0.8	0.9
前回	3000	21.0	22.4	47.9	6.7	0.8	1.1

Q43.居住地域の種別

		(%)								
	n	三大都市圏の政令指定都市(さいたま市・千葉市・横浜市・川崎市・相模原市・名古屋市・京都市・大阪市・堺市・神戸市)及び東京23区	三大都市圏の県庁所在地及び人口30万人以上の都市(所沢市・四日市市・大津市など)	三大都市圏の上記以外の地域	地方中枢都市(札幌市・仙台市・広島市・福岡市・北九州市)	地方中核都市人口30万人以上の都市及び県庁所在地(旭川市・いわき市・浜松市・福山市など)	地方圏のその他の市	地方圏の町村	その他	わからない
今回	3000	28.2	10.1	16.6	8.5	8.3	18.6	6.7	0.6	2.5
前回	3000	26.1	6.5	15.1	9.1	9.0	24.4	6.8	0.2	2.9

Q44.居住年数

		(%)								
	n	1年未満	1年～2年未満	2年～5年未満	5年～10年未満	10年～15年未満	15年～20年未満	20年～30年未満	30年以上	
今回	3000	6.2	6.6	15.3	13.4	10.3	10.6	17.3	20.3	
前回	3000	5.8	6.3	12.2	14.1	12.0	10.3	17.2	22.1	

Q45.住宅の状況

		(%)							
	n	持ち家(一戸建て)	持ち家(マンションなど)	公営(都道府県市町村営)住宅	公団(公社)住宅	給与住宅(社宅・公務員住宅)	民間の賃貸住宅(アパート・マンションなど)	借間	その他
今回	3000	50.8	15.9	1.0	1.0	3.0	26.9	0.9	0.4
前回	3000	51.9	14.8	1.5	2.4	2.3	25.8	1.0	0.4

Q46.日常生活での主な移動手段

		(%)						
	n	電車	バス	自家用車	バイク	自転車	徒歩	その他
今回	3000	23.1	3.6	49.4	1.7	11.8	9.9	0.6
前回	3000	22.0	3.5	50.0	1.8	13.4	9.2	0.2

Q47.自動車の運転頻度

(%)

	n	ほぼ毎日運転する	休日のみ運転する(週に1~2回程度)	あまり運転しない(年に数回程度)	全く運転しない(免許をもっていないなど)	[運転する計]	[運転しない計]
今回	3000	42.6	22.3	14.2	20.9	64.9	35.1
前回	3000	44.7	20.4	12.2	22.7	65.1	34.9

Q48.主な収入源

(%)

	n	給料	自営での収入	年金	その他
今回	3000	73.0	6.5	11.1	9.4
前回	3000	68.9	7.8	12.2	11.1

Q49.世帯年収(税込)

(%)

	n	~99万円	100万円~199万円	200万円~299万円	300万円~399万円	400万円~499万円	500万円~599万円	600万円~699万円	700万円~799万円	800万円~899万円	900万円~999万円	1000万円~1199万円	1200万円~1399万円	1400万円~1599万円	1600万円~1799万円	1800万円~1999万円	2000万円以上
今回	3000	4.2	6.3	10.1	14.0	13.4	11.8	8.9	7.6	5.9	4.5	5.7	2.8	2.1	1.0	0.4	1.5
前回	3000	5.4	5.9	11.2	15.5	13.7	11.5	7.8	7.8	5.6	4.3	4.8	2.4	1.3	0.7	0.5	1.6

Q50-1.主な情報入手先(利用するもの)

(%)

	n	新聞	テレビ	インターネットニュース	インターネットWebサイト	SNS	ラジオ	雑誌	その他
今回	3000	39.9	84.0	88.5	63.9	50.1	21.6	20.3	0.7
前回	3000	53.4	88.0	86.9	61.2	聴取なし	25.4	25.5	0.5

Q50-2.主な情報入手先(最もよく利用)

(%)

	n	新聞	テレビ	インターネットニュース	インターネットWebサイト	SNS	ラジオ	雑誌	その他
今回	3000	7.3	34.3	31.8	13.1	11.9	1.2	0.2	0.3
前回	3000	10.3	39.1	33.9	14.7	聴取なし	1.4	0.3	0.4

Q51.災害体験

今回 (%)

	n	災害に遭ったことがある	災害に遭ったことはない
自分自身	3000	14.2	85.8
家族	3000	14.7	85.3
親戚	3000	13.8	86.2
身近な友人	3000	14.2	85.8

前回 (%)

	n	災害に遭ったことがある	災害に遭ったことはない
自分自身	3000	15.1	84.9
家族	3000	15.5	84.5
親戚	3000	15.3	84.7
身近な友人	3000	15.0	85.0

Q51.災害に遭った時期

今回

(%)

	n	1年前	2~4年前	5~6年前(熊本含)	7~9年前	10~15年前(東北含)	16~19年前(新潟含)	20~22年前	23年~29年前(兵庫含)	30年~39年前	40年以上前
自分自身	423	2.4	23.4	9.2	0.9	33.1	2.4	5.4	12.8	2.8	7.6
家族	440	2.7	19.1	9.5	1.8	34.3	2.7	5.5	15.5	3.9	5.0
親戚	411	3.6	15.6	7.8	1.2	39.4	2.2	5.6	14.6	4.4	5.6
身近な友人	424	5.2	21.0	9.7	1.4	40.3	1.9	3.5	12.5	2.4	2.1

前回

(%)

	n	1年前(熊本含)	2~4年前	5~6年前(東北含)	7~9年前	10~15年前(新潟含)	16~19年前	20~22年前(兵庫含)	23年~29年前	30年~39年前	40年以上前
自分自身	452	9.1	4.9	29.0	2.9	13.7	2.4	19.5	6.0	4.4	8.2
家族	463	11.7	5.0	31.5	3.2	11.0	1.5	20.3	5.6	3.9	6.3
親戚	459	16.1	3.9	35.9	2.8	9.6	0.2	19.6	3.7	3.5	4.6
身近な友人	450	18.9	5.6	40.7	2.2	8.9	0.2	17.3	3.6	1.6	1.1

割付

データ出所：人口推計2019年

	人口総数 (単位：千人)	人口比率	人口比による サンプル 仮設定数	男女×10歳階級年齢別 サンプル設定数 (均等割付)											地域ブロック サンプル 設定数		
				男性 20代	男性 30代	男性 40代	男性 50代	男性 60代	女性 20代	女性 30代	女性 40代	女性 50代	女性 60代				
全 国	126,167	100.0	3000	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	3000
北海道ブロック			125	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	120
北海道	5,250	4.2	125	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12		
東北ブロック			208	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	210
青森県	1,246	1.0	30	1	6	2	5	4	2	1	2	3	2				
岩手県	1,227	1.0	29	2	0	4	3	1	2	4	2	4	2				
宮城県	2,306	1.8	55	7	7	7	5	8	9	6	8	7	6				
秋田県	966	0.8	23	1	1	3	2	5	3	4	4	0	2				
山形県	1,078	0.9	26	5	5	0	2	3	2	2	1	2	1				
福島県	1,846	1.5	44	5	2	5	4	0	3	4	4	5	8				
関東ブロック			1101	107	107	107	107	107	107	107	107	107	107	107	107	107	1070
茨城県	2,860	2.3	68	3	2	1	3	3	6	6	5	6	3				
栃木県	1,934	1.5	46	2	0	4	2	3	3	1	3	2	3				
群馬県	1,942	1.5	46	3	4	1	1	4	7	4	4	2	0				
埼玉県	7,350	5.8	175	13	16	11	18	21	17	18	13	15	18				
千葉県	6,259	5.0	149	16	15	21	15	12	11	11	10	16	13				
東京都	13,921	11.0	331	41	44	39	45	31	38	42	49	43	42				
神奈川県	9,198	7.3	219	24	20	22	20	29	21	18	21	19	24				
山梨県	811	0.6	19	1	1	2	1	0	2	3	0	0	1				
長野県	2,049	1.6	49	4	5	6	2	4	2	4	2	4	3				
北陸ブロック			105	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	120
新潟県	2,223	1.8	53	7	6	4	7	8	6	6	6	5	7				
富山県	1,044	0.8	25	1	3	5	1	2	2	3	2	2	1				
石川県	1,138	0.9	27	4	3	3	4	2	4	3	4	5	4				
中部ブロック			358	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	360
岐阜県	1,987	1.6	47	4	1	8	8	3	3	5	5	3	4				
静岡県	3,644	2.9	87	4	13	5	7	6	7	4	3	9	11				
愛知県	7,552	6.0	180	23	20	21	20	20	22	23	22	24	19				
三重県	1,781	1.4	42	5	2	2	1	7	4	4	6	0	2				
近畿ブロック			506	51	51	51	51	51	51	51	51	51	51	51	51	51	510
滋賀県	1,414	1.1	34	4	0	3	1	1	2	2	5	2	2				
京都府	2,583	2.0	61	12	3	9	7	5	4	3	4	5	6				
大阪府	8,809	7.0	209	22	23	26	23	22	26	26	19	25	23				
兵庫県	5,466	4.3	130	6	15	10	15	14	12	14	14	13	13				
奈良県	1,330	1.1	32	5	4	2	3	6	2	2	6	4	2				
和歌山県	925	0.7	22	2	3	1	2	1	2	4	0	1	1				
福井県	768	0.6	18	0	3	0	0	2	3	0	3	1	4				
中国ブロック			173	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	180
鳥取県	556	0.4	13	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1				
島根県	674	0.5	16	3	3	0	3	2	2	2	0	1	0				
岡山県	1,890	1.5	45	5	4	5	7	4	4	9	2	4	7				
広島県	2,804	2.2	67	7	5	8	5	10	9	3	11	8	7				
山口県	1,358	1.1	32	2	5	3	2	1	2	3	4	4	3				
四国ブロック			88	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	100
徳島県	728	0.6	17	2	5	2	1	0	4	0	2	2	3				
香川県	956	0.8	23	3	3	2	6	2	1	6	2	1	4				
愛媛県	1,339	1.1	32	5	2	4	1	5	3	3	5	6	2				
高知県	698	0.6	17	0	0	2	2	3	2	1	1	1	1				
九州ブロック			304	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	300
福岡県	5,104	4.0	121	13	17	12	16	16	14	16	16	17	15				
佐賀県	815	0.6	19	2	2	3	1	3	3	3	1	0	1				
長崎県	1,327	1.1	32	5	2	5	4	4	2	2	2	3	1				
熊本県	1,748	1.4	42	3	3	2	1	2	6	1	5	2	6				
大分県	1,135	0.9	27	2	1	3	2	3	2	3	2	5	3				
宮崎県	1,073	0.9	26	0	1	0	1	2	1	3	0	2	1				
鹿児島県	1,602	1.3	38	5	4	5	5	0	2	2	4	1	3				
沖縄ブロック			35	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	30
沖縄県	1,453	1.2	35	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3				

○調査結果のポイント解説(速報版)

1. 全体的に高まる社会・生活への不安

社会・生活に関する不安度を問う設問では、前回調査(2017)と比較し、全体的に不安度が高まっている【P6】。不安度が大きく高まっている項目が多いのは、「日本の経済成長・景気が悪化」などの活力・交流に関するもの及び「災害が頻発・激甚化する」、「地球温暖化問題が進行する」などの安全・安心に関するものとなっている。

2. 大きく変化する社会・生活環境と求められる変化への対応

新型コロナウイルス感染症の発生に伴う変化に関する設問に、約 9 割の者が変化があったと回答【P14 Q3-1】。これに象徴されるように、社会・生活環境の変化やそれに伴うニーズの変化は大きい。また、社会資本のあり方・保全・整備の進め方に関する設問では、「新型コロナによる変化への対応」、「国土強靱化」、「脱炭素社会実現への取組」、「新技術の開発と導入」など、近年、大きな変化のあった分野への対応について、6割～7割程度の者が肯定的な回答をしており【P29 Q25,Q14,Q26,Q27】、これらの社会・生活環境の変化への対応が求められている。

3. 地域により異なる意識

居住地域の社会資本具体分野別の充足度評価に関する設問【P21～23】や居住地域の将来像の予測に関する設問【P37】では、地域ブロック別・都市規模別で評価や意識が大きく異なる。こういった地域毎の意識の差も十分踏まえ、今後の社会資本の保全・整備を進めていく必要がある。

4. 中長期計画に基づく計画的で効率的な社会資本の保全・整備へのニーズの高まり

日本全体の社会資本の推進意向に関する設問では、全ての分野において、充足すべきとの割合が 7 割を超えており【P24 Q7-4】、社会資本整備に対するニーズが高いことが明らかとなった。また、中長期計画・財源確保・計画的効率的推進の必要性に関する設問では、肯定的回答が 7 割を超え、前回調査と比較しても 6.2 ポイント増加【P29～30 Q29】。中長期計画に基づく計画的で効率的な社会資本の保全・整備へのニーズは高まっている。

5. 十分認知されていない社会資本をとりまく環境

社会資本の維持・管理の重要度の増大に関する認知が5割にとどまっている【P28 Q9】。また、アメリカやヨーロッパ諸国などでは社会資本投資に関する認知も3割程度である【P32 Q30】。前回調査と比較すると認知が高まっている項目もあるが、社会資本をとりまく環境は、いまだ十分認知されていると言える状態ではない。なお、主な情報の入手先を問う設問では、紙媒体が前回調査より減少し、インターネット媒体が増加している。この点にも留意し、情報発信をしていく必要がある。

6. 公共の果たす役割への期待の高まり

居住地域のあるべき姿として、「社会的な課題解決を行政に依存する地域」を選択した割合が大きく増加(前回 20.9%→今回 30.4%)【P41 Q34-2】。また、今後の公共事業予算の増減に関する設問では、増やす計が大きく増加(前回 41.3%→今回 50.6%)【P34】。更には、「必要が生じた場合、土地利用などの私権が制限されるのは止む得ない」との回答も大きく増加(前回 37.9%→今回 55.9%)【P30 Q23】。災害の激甚化、新型コロナウイルス感染症の発生、地球温暖化の進行など、個人だけでは対応困難な課題が山積する中、公共の果たす役割への期待が高まっているものと推測される。

7. 求められる社会資本のあるべき姿の具体像

1. で述べた通り、社会・生活への不安は高まっている。また、全体的な社会資本の充足度(日本全体)は悪化【P27】。一方で、社会資本の分野別の充足度については、少なくない分野で向上【P19】。これは、社会資本整備が着実に進捗していることも一因と考えられるが、国民のなかで社会資本のあるべき姿の具体像がなく、全体的な不満はあるものの、具体の分野別社会資本については、何が不足なのかイメージできていない可能性もある。社会資本のあるべき姿の具体像の提示が必要。特に将来に悲観的な者(若者や社会資本の充足度評価が低い者【P38,39】など)へのアピールが重要。また、社会資本のあるべき姿の具体像の検討にあたっては、上記の国民意識を十分に踏まえる必要がある。